
ONE PIECEの世界にトリップ！？第一弾

白龍の海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ONE PIECEの世界にトリップ!? 第一弾

【Nコード】

N7781W

【作者名】

白龍の海

【あらすじ】

学校の授業が終わり、家に帰っている途中、下のマンホールに気付かなかった。

なんと、蓋がなかった!? というなんとも不幸な青年? 少年? の、トリップ物語。現在、日本。調査任務完了。

作者はこの作品のモットーは「毎日最低一回更新」。PV19万突破

1 主人公説明（前書き）

初小説です！

1 主人公説明

【名前】

櫻井 海さくらい かい

【二つ名】

白神の海・異邦人

【年齢】

体質の影響で、ずっと14才。

【容姿】

- ・青みがかった黒髪
- ・黒い目
- ・基本的に白いTシャツにジーパン、黒のパーカー（フード付）
- ・運動靴（白）
- ・なぜか（理由が分からない）、斬魄刀3本と降魔剣を持つてる。

【性格】

- ・最後までやり遂げる主義かも
- ・でも、たまに、ほったからず。
- ・お金は特に興味無し

【出身地】

東京都練馬区

↳ 特殊能力↳

コレは、生まれつき。

- ・鳥（特に猛禽類）になれる。

・白神

(ホワイトタイガー、白い不死鳥、龍、狼)

・白い炎(いつもは降魔剣で封印)

など。

【覇気】

見聞色・武装色は持っていない。

代わりに覇神の覇気を持つ。

1 主人公説明（後書き）

後々、設定を増やします。

2 トリップ前 1 (前書き)

洋楽の Bon Jovi Have A Nice Day を
聴きながら投稿。

意外と集中できた。

なんとこの曲、

「Jスポーツメジャー中継ダイジェスト」の時の曲だった!?

2 トリップ前 1

海がいつも登校している中学校は区立だ。

（海視点）

あゝあ、ん？今何時だ？

・・・・・・・・・・・・・・・・。

あーーーー！！！！今、8時25分じゃん！

遅刻だーーーー！！

もういいか、どうせもうチャイムなってるし、早く行っても遅刻だし。

うん。ゆっくり行こう。

そーいえば確か、One Pieceの62巻出たんだよね。

お金持って買いに行ってから、学校行こう。

・・・お金持って行かねえと、買えねえな。

万引きはよくないし。

あつた！Book off！

店員「いらっしやいます」

あるかな？62巻。

62巻・・・62巻・・・62あつた！

62巻をレジに置く

店員「300円になります。」

海「300円ちょうどあるぞ。」

店員「はい。レシートです。」

海「どうも」

この小説を見てる人、レシートは貰うか？

最近、ほとんどの人が「いらぬ」とか言うよな。

俺は家計簿やってるからなって家計じゃねえよ、もちろん財布さ。

じゃあ、これ見ながら学校行こう。

あはは、巨大タコ「クラーケン」を仲間にしようとする、ルフィか。

ルフィらしくていいな。

ん？クラーケン？どつかで聞いたことあるぞ？

確か青の被魔師の巨大イカの名前だったよな……。

うん。One pieceのタコと青の被魔師のイカの名前、同じだ。

今、気付いた。

もしかして、親戚？

とか思いながら学校に登校（遅刻してるけど）していた海。

2 トリップ前 1 (後書き)

ちなみに自分も練馬区立の中学校に登校してます。

海「へ〜。」

白「うおっ！いきなり出てくるな！」

海「いいじゃないか。」

白「・・・まあ、いいか。」

海「で、お前は何部？」

白「・・・園芸部」

海「園芸部！？俺と同じで帰宅部だと思ったぞ。」

白「・・・最初は、何も入ろうとはしなかったよ。」ズーン

海「コホン、そーいえばお前、俺と同じ「海」と言う名前を、

ユーザー名に入れてるよな？」

白「名前が思いつかなかったから。」

海「意外と簡単につけたんだな。」苦笑

海「感想・提案？待ってるぜ！」

白「お前が言うな！」

海「アハハハ」

白「・・・」怒

次回 トリップ前 2

3 トリップ前 2 (前書き)

白「もしかして、トリップ前が4まで続くかも？」

海「はあ？4まで続くのか？読者が飽きるだろ。」

白「……。。がんばります。」

海「なんだ！その間は！」

それでは、どつぞー！

3 トリップ前 2

（海視点）

今、何時だ？10時すぎてるってことは2〜3時間目？

こんなに遅刻したのは・・・5〜6回かな？

ある意味、問題児だな、俺。

あつ、こんな事考えていたら、学校に着いちまったよ。

ガラガラ、バンツ。（ドア開ける音）

海「おつはよーござーいますっ！！」

先「なにが、「おはようございます」だ。もう昼だ。」

海「まじっすか。遅刻した回の中では、早いほうだと思っけど？」

先「確かに、早いほうだが、もう4時間目始まってぞ！席つけ

！

海「へいへい。」

先生怒ってるな。これでも早いほう（遅刻の）だけだな。

うわ、教科が英語だよ。技術をやりたい。

問題 今度の土曜日の予定を相手にたずねるとき

英語でどのように言いますか？

・・・分かるわけ無いだろー。

一学期の中間テスト28点取った人が、解けるわけ、あるかよ！

（そーいえば、白龍も28点だな）

なんて考えていると、

キンコンカーンコンX2

おっ、終わった終わった。

給食を食べて、昼休み。

5時間目やりたくない。だって家庭科だぞ？
屋上行って、魚人島の続き見るか。

く屋上く

いや、やっぱり外の空気はいいな。

この続きは次回、見てね！

3 トリップ前 2 (後書き)

海「なあ、一学期期末のテストどうだった？」

白「まだ全部返って来てないけど？」

海「じゃあ、技術は？」

白「うっ。」

海「何点だ？その反応は悪かったな？」

白「・・・0点」

海「！！！！0点！？」

白「うるせー！」

海「マジかよ・・・。」

白「気にするな！ほっとけ！」

海「いや、ダメだろ。それは。0点は。」

白「k「感想・意見等、待ってるぞ！」だから、なんでお前が言っ
んだ！」

海「主人公だからさ。」

白「こっちは、作者だ！！待ってるぞ。」

4 トリップ前 3 (前書き)

海「何聴いてるんだ？」

白「洋楽。」

海「それは、わかってるから。」

白「H o o b b a s t a n k - J u s t O n e」

それでは、どいぞー！

4 トリップ前 3

《屋上にて》

（海視点）

いや〜、やっぱり外の空気は、いいな〜。

教室、エアコンのにおいで臭せーし。

窓開けようとする、「窓開けるな！暑くなるだろ！」って怒鳴られるし。

みんな、換気しような。酸素無くなるぞ。

??「……………」

ん？今なんか聞こえたぞ？

なんか、給食食べた後だから眠くなってきた。ふあ〜。寝よう。

《30分後》

??「…き……………」

ん？なんだよ。

??「お……………」

うるさいな〜。

??「起きろ〜！」

海「ん？鷹？」

??「ったく、いつまで寝てるんだ！」

海「………?」

鷹「しゃべった?」

??「しゃべったぞ?どうかしたか?」

海「った、鷹が、鷹が喋った!」

??「………」

海「そーいえば、誰だ!俺の安眠妨害した奴!」

鷹(仮)「俺だ。」

海「お前か!」

鷹「まあいい。主、今日だからな。」

バサツ、バサツ

海「よくねーよ!つてか、待ちやがれ!」

(次会ったら、焼き鳥にしてやる!)

その頃、鷹は冷や汗をかいていた。

海「それにしても「主?」この刀か?」

いや、One Pieceがいいな。

鷹に向かって叫んでみるか、トリップできるかもな。夢小説みたいに。

海「俺はー、青の被魔師じゃなくてー、BLEACHでもなくて

ー！

ONE PIECEがいい！

ONE PIECEの世界に行きたい！」

この、世界面白くないし。できれば、行きたい。

絶対ではない。できれば、だ。

まあ、できるわけない。

お？チャイムがなった！

後は、HRだけだな。

〜海視点 終〜

海は教室に向かう。

4 トリップ前 3 (後書き)

海「感想・意見等待着るぞ！」

海「あり？白龍が来ない。どうしたんだ？」

次回、(9/18) 5 トリップ直前 1

5 トリップ直前 1 (前書き)

海「俺の親友でるぞ！」

5 トリップ直前 1

（海の親友視点）

こんにちはは、海の親友の、黒崎 仁です。
今、8時25分で、チャイムなりました。
また、遅刻ですね。

海、大丈夫か？受験どうすんだ。

今、1時間目終わりました。
珍しい、あいつ技術好きなのに・・・。

あつ、2時間目終わった。

これも珍しいな。理科って海は得意科目だろ。

- 3時間目が終わり、4時間目後半 -

先「櫻井は、まだ来ないのか？」

生徒「・・・」

先「後10分で終わってしまうじゃないか。」

後、5分。

早く来い。先生、超怒ってる。

ガラガラ、バンツ。

海「おっはよーござーいます！ー！」

先「なにが「おはようございます」だ。もう昼だ。」

海「まじっすか。遅刻した回の中では、早いほうだと思っけど？」

先「確かに、早いほうだが、もう4時間目始まっているぞ！席つけ！」

海「へいへい。」

やっと来たよ。遅い、遅すぎる。

海「よ！仁！おはよー！」

仁「もう昼だ」

海「英語やりたくない。」

仁「少し黙ってる。」

- 給食が終わり、昼休み -

仁「おい、高橋。海見なかったか？」

高「海？ああ、見たぞ。」

仁「どこ行ったか、知ってるか？」

高「階段方面だから、屋上じゃね？」

仁「だな。」

高「サボりか。」

仁「次って、なんだっけ？」

高「家庭科。」

仁「……。」

高「どうした？」

仁「いや、家庭科つといえば、海の苦手科目だなーって思っただけ。」

高「……そうなんだ。（あいつ、寝てるしな）」

5 トリップ直前 1 (後書き)

高「海、仁、この作者誰だ？」

海・仁「白龍の海」

高「白龍！」

白「ふあゝい」

海「また、寝てたのかよ……。」

仁「お前が言っな！」

高「白龍！なんで俺だけ、苗字しかないんだ！」

白「じゃあ、一応紹介するかって、この次に紹介する予定なんだけど。」

高「分かった」

高・仁「感想・意見等待ってるぞ！」

次回 「6 友人紹介」

その次 「7 トリップ直前 2」

6 友人紹介（前書き）

高「名前入れるよ。」
白「分かってるって、いちいち、うっせー。」

6 友人紹介

【名前】

黒崎^{くろさき} 仁^{じん}

【容姿】

どこにでもいそうな人。
まじめだが、メガネはかけてない。
海「仁は、コンタクトしてるぞ。」
黒「なっ、なんで知ってるの？」
海「家にあつた。」

【出身地】

東京都練馬区

【性格】

- ・とにかく真面目。
- ・やさしい

成績が学年トップ3に必ず入ってる。

そのためか、生徒会会長候補に推薦されている。

黒「俺は、会長じゃなくて、役員になりたい。」

副会長でもいいぞ。」

海と同じで、親がいない。

去年、両親が事故死した。

重症を負った仁は、駆けつけた海によって生き延びた。

【名前】
高橋 たかはし 大輔 だいすけ

【容姿】

仁と同じで、どこにでもいそうな人。
たまにメガネをかける。

【性格】

これも仁と同じで、
・とにかく真面目
・やさしい

【出身地】

岩手県大船渡市

大輔も会長候補。

大「俺もやだな。仁！お前がやれ！」

仁「はあ？大輔がやれ！」

海・白「うるさい！」

大・仁「すみません」

大輔も親がない。

2011年3月11日の東日本大震災の被災者。

親は津波に吞まれ、死亡が確認済み。

家は地震で潰れて、ない

そんな、大輔は、絶望しかなかった。

だが、運よく、携帯電話を持っていた。

大輔は、東京にいる友人に電話する事が出来て、東京の学校に行く事が出来た。

（海と仁が校長に言って頼んだため。）

【三人の関係】

〜大輔〜

海⇨恩人、住む所をくれた人、

（しかも、前の家の自分の部屋と似たような感じの部屋にしてくれた人）、

学校手配を頼んでくれた人、親友。天然。

仁⇨恩人、学校手配を頼んでくれた人、親友。

〜仁〜

海⇨命の恩人、親友。遅刻常習犯。

大輔⇨自分と同じような体験をした人、親友。

〜海〜

仁⇨勉強を教えてくれる人、

親が事故で他界してしまい絶望しがなく重症を負った人、親友。

大輔⇨大船渡市出身の人、

今回の大震災の被災者、仁と同じで親が他界してしまった人。

6 友人紹介（後書き）

大「おー細かく書いてくれた！」パチパチ
海・仁「「本当だー！」」

ここで、感想・意見を書く所に書いてほしいことがあります。

8か9話目に使おうと思うんですけど、

「海に悪魔の実を食わせるか。」です。

・食べない

・食べるだと、

動物系にする予定で二つ食わせることになります。

だから、二種類の名前をお願いします

アンケートです！よろしくお願いします！

作者は、ツイッターを見れません。（セキュリティで）

7 トリップ直前 2

（仁視点）

どうも、仁です。

もうすぐ、HRが・・・

「間に合った」来ました。

たまにこないんですよ。終わって、置いて行くことと思ったら、昇降口で待ってるし。

- HR -

日直が言い終わり、後は先生だけ。

先「何も言う事は無い。」

どうやら、海の話は諦めているようだ。無駄だしな。

先「さようなら。」

生徒「」「さようなら」「」

海「仁！大輔！一緒に帰ろうぜ！」

仁「OK！」

大「おう！」

なんか白龍が「もう、家に帰るところにしちゃえ！」なんて言うてるので、省略。

- 帰路 -

大「……………」

仁「……………」

海「……………何か気まずい……………」

何も話すことは無いからなー。

海の言った通り、なんか気まずい。

海「仁！大輔！じゃあな！」

大「また、明日な！」

仁「じゃあな！」

海と俺たちは違う地区？に住んでる。

俺たちは、田柄。

海は光が丘に住んでる。

海、明日遅れて来たら宿題まかすか。

（海）

やっと、学校終わった。

海「仁！大輔！じゃあな！」

大「また、明日な！」

仁「じゃあな！」

よし、家に帰るか。

そーいえば、あの鷹、どこにいるんだ？

トリップって本当に出来るのか？

やっぱり、トリップと言えば・・・

寝て起きたら違う世界に来てたパターンだよな。

トリップ出来たらいいな。

今日は、早めに寝るか。

光が丘は、相変わらず治安いいな。

緑も鳥も多いし。

あつ、やっと家が見えた。

(本当は5分でつく)

何か、嫌々な予感がああああああつ、

って、誰だあああああああ！

マンホールの蓋を開けっ放しにした奴。

すげースピードで落ちてるんだけどー！

しかも、深すぎるだろー！

あれ？マンホールってこんなに深いの？

もう、500M位落ちてる気がする。

もしかして、これがトリップうつうつ！

そんな訳無い！絶対に無い！

あー、人生を終わったな。

7 トリップ直前 2 (後書き)

白「とうとう、トリップ！」

海「やっとだな。」

感想のところでアンケート募集中！

ユーザじゃなくてもできる・・・はず。

海「なんだよ、その間は！」

次回「8 ついにトリップ！」

8 ついでにトリッパー〜海「どいだよ ニニ」〜

〜海視点〜

どうも、マンホールに落ちた海です。

まだ、落ちてる。

もう、叫ばない。

??「おい。言ったはずだぞ。」

ん？誰だ？

??「屋上で会ったはずだ。」

海「あー！あの鷹か！」

鷹「名前で言ってくれ。」

海「名前知らん。」

鷹「あつ、そっか。教えてなかったな。黒鷹^{くろたか}だ。」

海「黒鷹なー。微妙。」

鷹「・・・グスッ」

海「泣くな。で、なんで落ちてるの？」

鷹「言っただろ、「今日だからな」って」

海「どっか行くのか？」

鷹「ああ、違う世界に行くぞ。」

海「えー！別に望んでなかったし。まだ、あそこにいたい。」

鷹「ちなみに俺は、お前の斬魄刀だ。他にもいるけどな。」

海「え！？BLEACHは、行きたくない。」

鷹「大丈夫だ。そこじゃない。」

海「良かった。」

鷹「……………もうすぐ着く。またな。」

海「おいつ！」

すると、今まで暗闇にいたけど、下が見えてきた。

8 ついにトリップ〜海〜どこだよ こころ〜（後書き）

アンケート募集中！

詳しくは、6 友人紹介の後書きにて。

次回「9 島に上陸 〜海、いろいろな人に出会う 島民〜」

9 島に上陸し島民と会話? 1

（海視点）

こんにちは、海です。

もう、叫びません。

え？今どんな状況かって？

それは、スカイダイビングしてます。

普通の人は、確実に死にますよ。

すっごい高さだし。

え？今度は何？「なんで、そんなに冷静か。」って？

あれ？白龍が1話に書いていたはずだよ。

俺には、「特殊能力」があるって。

だから、鳥の隼はやぶさになろうとしてたんだよ。

って、もうなってるけど。

あつ、島が見えました。

早速上陸しよう！

……どこだよ、ここ。

なんか、外国に来て、タイムスリップした感じなんだけど……でも、なんか違うんだよね。

顔は外国人なんだけど、言葉が日本語なんだよ。

本当にどこなんだよ。

黒鷹！。つていねえか。

鷹「なんだ？呼んだか？主。」

……いました。

ん？俺、今声出してないけど。

鷹「分かるんだよ。つてか聞えるんだ。」

もしかして、心読んだのか、こいつ！

鷹「主の斬魄刀だから、自然と聞えるのだ。」

ほぐ。なあ、黒鷹。

鷹「なんだ。」

こじつて、どじ。

鷹「島民などに聞け。これも良い経験だと思うぞ。じゃあな。

他の奴にも声をかけてやれ。寂しがってる。」

はいはい。分かったよ。島民な。

とりあえず、あの魚屋のおっちゃんにでも聞くか。

海「魚屋のおっちゃん！」

魚「ん？見かけない顔だね。」

海「まあ、いろいろあつてな。」

魚「で。どうしたんだ？」

海「あ、そうそう。どこ、どこだ？」

魚「グランドライン、キーナ島だよ。」

海「グランドライン？」

魚「おっおい！まさか、グランドラインも知らないって言うのか
!？」

海「ああ。そのまさかだよ。」

島民「「「ええええええええええええ!!!!」」」

魚「山奥出身か？」

海「いや、都会出身者だけど。」

魚「……どこの海出身かい？」

海「え？海？……。太平洋？日本海？オホーツク海？」

魚「……日本海……!!!!」

海「いや、オホーツク海は関係無いな。」

魚「少年、日本を知ってるのか？」

海「当たり前だろ、それくらい。」

く作者からく

この続きは、次回。
ちよつと、いろいろあつて。
すみません。

9 島に上陸〜島民と会話? 1〜(後書き)

お願いだからアンケート回答して下さい!
続きが書けない!

次回「10 島に上陸 2」

10 島に上陸し泊まる所ゲットー (前書き)

前回はいろいろありまして。
すみません。

10 島に上陸し泊まる所ゲットー

（海視点）

魚「少年、日本を知ってるのか？」

海「当たり前だろ、それくらい。」

魚「……………。それじゃあ、泊まる所無いだろう。」

海「ないな」

魚「私の家に泊まれば良いよ。一つ部屋が、空いてる。

そこにでも泊まっとけ。」

海「ありがとな！魚屋のおっちゃん！」

魚「照れるじゃないか。ほら、入って入って。」

よっしゃ！泊まる所ゲットー！

この、おっちゃん。やさしい！

海「おっちゃん。」

魚「なんだい？」

海「おっちゃんの名前。教えて。」

魚「私の名前は「フランク」と言う。」

ん？なんか聞いた事ある。

海「なんて言えば良い？」

魚「フランクで良い。」

海「フランク！何か手伝うことない？」

魚「ちょっと待て、名前は？」

海「海だ」

魚「海、料理はできるか？味噌汁とかの和食。」

海「できるぞ。」

魚「じゃあ、頼んだぞ。」

海「OK」

魚「アンコウ入りの味噌汁だぞ。」

海「分かった」

こつ見えて料理は得意なんだぜ。
家庭科は苦手だけど……。

ちよつと料理しながら、会話の整理でもするか。
まず、

・キーナ島

どこだよ！そんな名前の島聞いた事ないよ！

・グランドライン

グランドライン？・・・あー！

グランドラインって、ONE PIECEじゃん！
なんで思い出せなかったんだ！

俺、本当に来たんだな・・・この世界に。

キーナ島って、グランドラインのどこにあるんだ？

俺、職業、何にしようかな？

海賊は追われるから、やめよう。

海軍はいろいろめんどくさい。

革命軍は、もっとめんどい。

そうなるか？ 賞金稼ぎか。

情報屋でもいいな。運搬屋？それでもいいかも。

お！ちよつど作り終えた。

おっちゃん呼んでこよう！

10 島に上陸し泊まる所ゲットー (後書き)

アンケートが全然来てないため延長！
回答おねがいします！

次回 「11 島に軍艦来る」

11 島に軍艦来る

（海視点）

昨日、ファンクと夕食を食べながら、教えてもらった。下にまとめてみたよ。

【キーナ島】

- ・グランドラインにある島
- ・治安が良い
- ・海軍本部に近い
- ・よく軍艦が来る
- ・農業、漁業が盛んな島

ってところだ。

後、職業だけど、主に賞金稼ぎ、情報屋、運搬屋の三つをやるうと思う。

今日は、島から出る予定だ
今は港にいる。

お？軍艦だ。もちろん海軍の。
軍艦って、実際に見るとそんなに大きくないな。
ちよっと待って、あれって・・・

「スモーカー？そう書いてあ・・・る。ってことは・・・。
けむりん！ けむりんだー！」

おおー。けむりんだー！

（海兵視点）

僕は、海軍本部のローカー一等兵であります！

今日は食料買いの当番です。

スモーク大佐の軍艦に乗って、本部に近い、キーナ島に向かっています。

僕は何回か行った事があるので、顔は知られてます。

あ！島がみえました。

港には、見たことがない少年が一人がいます。

前はいなかったな。

後で聞こう。

ん？なんか言ってる。

「スモーク？そう書いてあ……る。ってことは……。

けむりん！ケムりんだー！」

けむりん？

けむりん……ケムりん……煙……。

スモーク大佐のことか。
なるほど。

ガゴンッ！

キーナ島に到着しました！

早速聞いてみようと思います！

タッタッタッタッタッタッタッタ

口「こんにちは！」

海「ん？あー。こんにちは。」

11 島に軍艦来る(後書き)

短い・・・。

次回「12 アンケート」

次々回「13 海、海兵と仲良く?」なる

12 アンケート

「6 友人紹介」のあとがきに、
アンケートを書いたんですけど・・・、1通しか来ませんでした。
・・・（泣）
ユーザ関係無く感想等の所に書けるんですよ・・・。

改めて、アンケートをとります！

「海に悪魔の実を食わせるか」

- ・ 食べさせない と、
- ・ 食べさせる の二択です！（最初は）

で、「食べさせる」の方を選んだ人は、

- ・ 動物系（ソオン）の悪魔の実
- ・ 虫系は無し

海「虫だけはー！ー！」ガタブル

白「青の被魔師の志摩みたいやなー。うちもダメだよー。」

- ・ 二つの種類を書く（二つ食わせる予定になります。）
- で、「食べさせない」の人は、
理由を書きたい人は、書いてもいいです。
でも、書いてくれる人希望。

もしも後者の方になったら、
特殊能力でいきます。

アンケート回答は感想の一言の所で書いてください。

ユーザ関係なしになっています。

作者はセキユウリテイでツイッター見れず・・・。

12 アンケート（後書き）

アンケートは終了しました。

13 秘密（前書き）

台風大丈夫ですか？

こっちは、学校が給食食べて下校となりました。（練馬区）
給食食べてる時、学校が洗車されてる感じでした・・・。

13 秘密

（ローカ視点）

とりあえず、少年に聞いてみましょう！

（ちょっと、記者の気分）

ロ「こんにちは！」

??「ん？あー。こんにちは。」

ロ「え〜と、僕はローカと言います。」

??「……………。俺は、海。」

どうやら、少年の名前は海と言っています。

ロ「海さん、どこのk「ローカさん！…………たしぎ軍曹。」

た「あつ、こんにちは。」

海「…………。」

た「あー！メガネ！メガネが無い！」オロオロ

海「…………。頭にあるぞ…………ハア。」

海さん、ため息ついちゃったよ。

た「あ！あつ、ありがとございます！」

ス「またか！この、刀バカ！」

海「本当に刀バカって言ってる……。」「ボソッ

うん？今、海さん。なんか言ったような。

ス「すまない。いつもの事だ。」

海「別に、いいよ。」

ス「そうか。名前は？」

海「海」

ス「海か。「スモーカーさん。」？おお、村長さん。」

海「おおー！ケムりんだよ、本当に。」「ボソッ

あれ？またなんか言ったような？

ス「（こいつ、今なんか言ったような……。）ちょっと行って来る。」

た・ロ「「はい！」」

海「たしぎ！ローカ？」

ロ「ちよつ、なんで僕だけ、疑問系なんですか！」

海「いいじゃん。」

海さん……。僕をからかって楽しいですか？

海「うん。ちょっと楽しい。」

口「え！？今、声に出しましたか？」

た「なんのことですか？」

海「出してないよ。」

口「なんで、分かったんですか？」

海「秘密さ。」

口「ええ！？超気になる！」

教えてくださいよ！

海「教えないぞ。」

口「そうですか。」

た「え？だから、何のことですか？」

そういえば、さつきから、たしぎ軍曹。空気になってたな。

13 秘密（後書き）

また、短いですね・・・。

海「なあ、学校どこ行ってんの？」

白「練馬区」

海「の、どこ？」

白「光が丘の中学校」

14 読心術とオバケ（前書き）

昨日の台風すごかったよ。

特に、

練馬区の、最大瞬間風速！！

60Mもあったみたい。

で、その時の降水量が90mm！！

翌日、学校へ登校していたら、道が葉っぱだらけ！

14 読心術とオバケ

↳ローカ視点↳

ローカです。

なんで、海さん僕のを読めたのかな？
読心術！？

まさか、そんなわけない、ない。

た「あの〜？海さん。ローカさん。」

海「ん？」

ロ「はい？」

た「なんの話をしてたんですか？」

海「いや、何にも話してないよ。」

ロ「たしぎ軍曹！ひどいんですよ。」

た「え？」

ロ「海さん、勝手に僕のを読んだんですよ！」

た「ええ！？読心術！？」

海「あはははは。」

口「笑うなよ！」

た「ええ！？海さん、それ本当？」

海「あは！その、……ぷっ……反……応！」

海さん、笑いすぎ……。

海「スモーカーがその反応してるところ見たい！」

いきなり？

口「まあ、確かに見たい。」

た「スモーカーさん、顔がいつも怖いから……。」

確かに、怖い。

鍛錬の教官の時の顔の方が怖いけど……。

た「一度でいいから、その反応と笑った顔、

見てみたいな！」

ああ、分かるよ。（同情

海「無いよそれ。スモーカーの顔は笑っても、

分からないよ。スモーカーは、絶対に。うん、うん。」

なんか勝手に納得してる……。

ス「呼んだか？」

海「ぎゃああああ！」

ス「なぜ、そんなに驚く。」

大佐、能力使ったままですよ？

海「出たあああああ！」

ス「……………」

た・口「出たって…………。」

海「…………オ、オバケ…………」

ス「オバケ扱いするな。」

海「だってさ、そう思わない？」

なにが？

海「能力使くとオバケみたいじゃん。

煙は真っ白だからさらに…………。」

ス以外の全海兵「……………確かに、似てるかも……………」

「

ス「……………」怒

大佐、怖いです。

効果音付けると、後ろから、
ゴゴゴゴゴゴツって……。

海さん、そーいえば、これあなたのせいですよ。

海「ローカ良いんだよ……あはははは」

良くありません！

14 読心術とオバケ（後書き）

海、ケムりんを呼び捨て・・・。

次回「15 海軍本部へ」

15 海軍本部へ

（海視点）

ども、海です。

スモーカがいきなり、俺たちの後ろで呼びかけて、振り返ったら、能力を使っけていて、思わずオバケに見えびっくりした海です。

この小説を見てる人、スモーカが能力を使っけてるとき、オバケに見えませんか？

え？見えない？

じゃあ、そう見えたのは、俺と、海兵達だけ？

それとも、視力が落ちたとか？

それはないな。

体質の影響で視力は落ちないもん。

逆にどんどん良くなってる……。

た「海さん！」

海「あつ。空気になってた、たしぎだー。」

ス「確かに、空気になってて、あの時だけ存在感なかったぞ。」

た「海さんにスモーカさん。ひどいです。」

口「海さん、なんかさっきから、

たしぎ軍曹と僕をからかうのを楽しんでません？」

海「うん！」

だって、この2人をからかうのが、楽しくなってきたもん。

(白「「もん」って言うな！気持ち悪い！」)

(海「いいじゃん！」)

(白「やめとけ。もう、海視点をやめるぞ？」)

(海「ギャー！それだけはー！」)

え？なに、なに？

「今のは、なんですか？」って？

これは、特殊能力の一つ！

白龍とテレパシーで会話してました。

だから、イルカなどと、会話ができるよ？

白龍、テレパシー能力持ってんだな。

いきなりだから、びっくりした。

それで、またいきなりですが・・・、

只今、軍艦に乗って、海軍本部を目指してます。

- 30分後 -

うう、吐き気が・・・。

見事に酔いました。

海兵A「大丈夫か？」

海兵B「袋持って来ようか？」

海兵C「袋、俺持ってるぞ。ほら。」

海兵B「おお！」

やさしい！

海兵達やさしい！

海「ううー。名前は？」

海兵A「アックだよ。海軍本部二等兵だ。」

海兵B「ベック。アックと僕は双子なんだ。

ちなみに、僕も海軍本部二等兵。」

海兵C「クリストン。あだ名はクリス。

ベックとアックの兄さ。

俺は、海軍本部一等兵。」

海「名前紹介ありがとう。

俺は、海。櫻井 海。」

まさかの兄弟！

だから、いろいろ似てるなーと思った。

海「ううー、やっぱり、帆船は無理だ。」

海兵達「「「え？」「」「」

海「帆船って進むの遅いからなー。罰ゲームみたい。」

ん？

海兵達が「は？こいつ何言ってるの？」って、顔してる。

海「！まさか、声に出た！??」

クリス「おう。」

海「どこから？」

クリス「「やっぱり」から。」

海「最初から、出たあああ！」

思ったけど、ここの世界、声が響きやすいのかな？

??「おい、なにポケーっとしてるんだ！」

海「・・・誰？」

この人誰？

原作出てきて無いよ？

??「？ああ、君が、海君だね？」

海「ああ。」

??「私は、ビリー。この軍艦の、副艦長だよ。」

海「ビリーな。後、あまり、子供扱いしないで。」

ビ「なんで？君は10才じゃないの？」

ほら、来た。

この世界、全員身長でかすぎるから！

海「俺は、14歳だ。」

全海兵「「ええ！？うそー！？」」

海「……」

ビ「おい！全員準備しろ！」

海「あ、あれか。」

どうやら、やっと海軍本部につくようだ。

やっぱ、デカイな。

着いたら、散歩でもしようかな？

15 海軍本部へ（後書き）

次回「海軍本部の中を散歩」

16 海軍本部　く只今、散歩中　く（前書き）

海「なんか面白そう！」

仁「俺も行きたい！」

海「あれ？なんで仁がいるんだ？」

仁「小説は常識なんて無い。」

海「ふん」

（白「そうなの？」）

16 海軍本部 〱 只今、散歩中 〱

〱 海視点 〱

前回から、いきなりが多いですが、
今、海軍本部にいます。

海兵達（スモーカーの軍艦に乗ってた）と、
はぐれた！

久しぶりだな、迷子は……。

そーいえば、この世界に俺の保護者っているの？

（白「それは、置いといて。」）
置いとくなよ！

そつだ！散歩しにでも行こう！（某JRの京都のCMのマネ？）

- 海軍本部 オリス広場 -

広っ！すごい！

どのくらいの広さだろう？

皇居より一回り大きいぐらいかな？

デカイなー。

??「あの？」

ん？あ！こりゃもしや……「ビー」？

??「あ、あの、ここは海軍関係者以外は立ち入りが禁止されて
ます。」

海「……………」

??「あ！僕は、コビーと言います！」

海「俺は海。櫻井 海」

コ「あ、あなたが海さんですか！はじめまして。」

海「お。おう。」

コ「そういえば、なぜここに？」

なんか俺みんなに知られてる気がする。

海「迷子になって、今散歩中。」

コ「そうなんですか。」

あ！さつきから違和感あるなー、と思ったら、ヘルメットがないからか。

海「コビー。」

コ「え？あ、はい。」

海「ヘルメットは？」

コ「え？」

へ「ヘルメツポだ！」

コ「ヘルメツポさん！」

へ「ん？お前が、海つー奴か。」

コ「そうなんです・・・」

迷子になったみたいで、今、散歩中みたいです。」

あり？なんか俺、空気になってるような？

後、周りからの視線が・・・。

??「なにしてる。持ち場に戻れ。」

コへ「「はい。」」

あ、行っちゃった。

(白「今の人、確かガープ中将の補佐の・・・誰だ?」)

(海「ちゃんと原作読めよ。今のは・・・誰だっけ?」)

(白「おい!」)

本当に誰だっけ?いいか、そんなこと。

- 入り口 -

受付「あつ、海さんですか?」

海「なんで、知ってるの?」

受付「たぶん、全員知ってますよ?」

海「あ！たぶん、あの3兄弟だ。」

受付「ああ。その人達ですよ。」

私もその人達から聞えてた話を聞いていただけですし。」

海「分かった、ありがとう。」

受付「でもなんでここに？見学ですか？」

海「見学という名の散歩。」

受付「そうですか、気をつけてください。」

海「おう！」

- 階段 -

あ。そうだった。

この世界、エレベータとかエスカレータは無いのか。
改めて、海兵達すごいな！

あの最上階まで、階段で行くし。

しかも、のほほんとした顔だし。

あー。まだ2階にも行つてないのに、超疲れる。

何この一段、一段の、ぶ厚さ！？

- 2階 -

あー疲れた。

何か、どこからか、

「やあ！」とか「うおお！」とか聞えるんだけど……。
こっちか……。

ん？何か、馬鹿でかい文字で「鍛錬場（屋内）」……、
鍛錬場！？

続きは、次回。

16 海軍本部 〱 只今、散歩中 〱 (後書き)

次回「見学の時は鍛錬場に行かない方が良い」

17 見学の時は鍛錬場に行かない方が良い

（海視点）

し、視線が……。

……。

なんか成り行きで、鍛錬場の入り口に来ちゃったよって、もう中にいるけど。

今の感想は、超むさ苦しい！

ここから早く出たい！

けど、出来ない……orz

なんか入り口に居たら、あの3兄弟に押されて、入っちゃったんだよ。

チクショー！あの野郎、覇気で気絶でもさせてやるっ

- 鍛錬場 -

で、冒頭に戻るんだけど……。

なんか最初は、視線が痛かったけど……。
どうやったら、こつなるの!?

（海「お願い、誰かリポートしてー!」）

（記者「私が、しましよつか?」）

（海「よろしくー!」）

ってゆーか、どっから記者出てきたの!?

記「こんにちは！」

海兵R「お、おう。」

記「今、どんな事を考えていました？」

海兵R「あの子、たしか・・・海つー名前で、

異邦人らしい。

噂では、相当強いみたいだから、

一度でもいいから、手合わせを試してみたんだ！

だから、今、手合わせをしたいなーって思ってたよ。」

記「ありがとうございます。」

そー言うことが。

てか、この顔本当に見れたよ。

漫画では、ルフィ達の目がキラキラしてる時の顔。

あれ？さっきの記者どこ行った。

もしかして、これ記事になっちゃったの？

あーあ、異世界から来たって事が海軍以外にも知られちゃうよ。

海兵R「あ、あの！」

あ、さっきインタビューに答えてた海兵じゃん。

海兵R「手合わせ、お願いしますー！」

こっち、返事してないんだけど。

海「え？あ……いいよ。」

どうやら、木刀で手合わせする、みたい。

海兵R「あ、ありがとうございます！」

他の海兵「」「ずるい！俺達も！」「」

海「今度会つたらな？」

海兵達「」「はい！」「」

うん、返事良し！

- 3分後 -

手合わせしました。

もちろん、こちらの圧勝で。

一応、剣道有段者だよ？

向こうがいきなり、走って来て一振りしたんだけど、見聞色の覇気無くても分かるほどだよ？

少し避けて、ひじで相手の腰について終わった。

この人、曹長らしい。

はつきり言って、弱いて言う言葉しか浮かばないよ。

海兵R「い、いててて。」

海「鍛錬がんばれ！　じゃあな！」

海兵達「「はい！」」「」

あー、むさ苦しかった。

そうだ、ルフィのじいちゃんに、会いに行ってみよう！

それから、いろいろ交渉とか取引とかして、

イストフル
東の海に行こう！

17 見学の時は鍛錬場に行かない方が良い(後書き)

次回「煎餅大好きじいちゃん」と中将達」

18 煎餅大好きいちちゃんと中将達 1 くばれた！

（海兵丁視点）

こんにちは、タイガーです。
階級は三等兵（新兵）です。

今、この海軍本部に異邦人がいるみたいです。
アック先輩に聞いてみたらその人は、
階段が苦手らしい……。

あれ？なんか、階段に座ってる人がいる。
もしかしてこの人！？

ダメだ行つては行けない、でも行つて握手したい。
怖い噂では、この人は死神で無差別に殺されると言われてて、
良い噂では、その人が触れた物・生き物は元々の色が戻る、と言
われている。

ここは、全部どこを見ても白黒世界。

お？良い噂は本当だったんだ！
その人の周りに色が付いてる！

でもなー、あれ？いない！
上に行っちゃったよ。

次会つたら、握手しよう！絶対に！

（海視点）

あー、体力が……。結構自信あつたけど……。ここ何階だよ！？でも、もう、階段が無いつて言う事は、最上階か。なんか変な所に来ちゃったよ。

ん？あの部屋は……。会議室か。なんかいろんな人が、会議室に入っていく。行ってみようかな？面倒な人には会いたくないな……。特に三大将とか、大仏とか。

お？ドアに隙間があるぞ！？

只今、そーっつと見てます。

ラッキーなことに周りには誰もいません。

中には、中将しかいない、よっしゃー！もちろん、巨人海兵はいません。あー、でもおつるさんいないや。

お！？

いたいた、エニエス・ロビーのバスターコール組！うん、本当にストロベリー中将って変な髪形してるよな、今は、その髪型にあわせた帽子があるから良いけど、少将の時？は笑えた！

白龍が昨日、63巻買って来て見せてくれたんだよ。

？？「なんか、扉の方に誰かいなか？

私達とは、少し違う独特の気配がいる気がするが。」

あれは！？モヒカンだから、モモンガ中将じゃん！

！！そうだ、気配消すの忘れた！

いいや、今消したら、全員にはれるしって、もっばれていたりして。

ガ「おお！いるみたいじゃ！

こつち来て、煎餅でも食うか？」

ばれてたー！

流石中将s、やっぱりばれるみたい。

よし、行くか。

ギー

海「うわっ、こんな音・・・すみません。」

モ「なぜ、謝る？」

海「いやー、なんとなく？」

モ「こつちに聞くな・・・。」

18 煎餅大好きじいちゃんと中将達 1 くばれたー！ (後書き)

モモンガ中将登場！

アンケート受付中！

次回「煎餅大好きじいちゃんと中将達 2」

19 煎餅大好きじいちゃんと中将達 2 〱口喧嘩〱

〱ガープ視点〱

わしじゃ！

今日、わしら（中将）だけで会議をするみたいじゃ。

そーいえば、扉にいる子供は誰じゃ？

盗み聞きは良くないぞい。

モ「なんか、扉の方に誰かいないか？

私達とは、少し違う独特の気配がある気がするが。」

確かにモモンガの言う通りじゃ。

独特の気配の正体はあの子供じゃないか？

「おお！いるみたいじゃ！

こつちに来て、煎餅でも食うか？」

なんか子供がオロオロしとるわい。

見てると、子供の時のエースを思い出すわい。

ギー

??「うわっ、こんな音……すいません。」

モ「なぜ謝る。」

??「いや、なんとなく？」

モ「こつちに聞くな。」

うん？この子はもしか・・・

「異邦人か！？」

モ「そうだな、特徴がすべて当てはまってる。」

「名前は確か・・・海じやろ。」

海「ああ。」

「ほれ、こつち来い。お前らもじや。」

スト「あの、会議は・・・。」

「知らんのか？裏に小さく書いてあるじやろ。」

スト「・・・お茶会ですか。」

「そうじゃ、みんな書類で疲れてるみたいじゃからの。」

海「いや、お前仕事しろよ・・・。」

「いいんじゃない！いいんじゃない！」

海「うわー、原作通りじゃん。ってゆーか、それやめろよ！
大人げ無いなこの人。」

もしかして、見た目は年寄りで、中身は子供？」

「そうじゃ」「どーん

海「偉そーに言うなよ！それは！

普通に否定しろ！」

オ「この子すごいな……。」

オニグモか……。

モ「私じゃとてもじゃないけど言えない。」

「いいんじゃない！」

海「なあなあ、こいつ頭ん中、大丈夫か？」

ダ「え！？私に聞きますか？」

それは、行っちゃダメです。

全員思ってる事ですが……。」

海「そこ、普通に本人に言えよ！」

ダ「なんでですか？」

海「お前ら、本当にこの世界に生まれてきて良かったな。」

全員「「「?????」「」「」

海「まあ、いいよ。理由は後で言うから。」

今、言うんじゃない！

気になるじやろ！

海「……………。思ったけど、なんで口喧嘩してるの？」

ズテツ

こいつはいきなり何を言い出すんじゃ！

海「おおー！芸人顔負けや！」

訛ったぞ

海「それよりさ、お茶会しようよ。」

「分かったわい。」

19 煎餅大好きじいちゃんとお茶会 (後書き)

アンケート受付中!

感想待ってます!

次回「煎餅大好きじいちゃんとお茶会」

ちなみに、途中「ダ」が出てくるけど、

あまり知られてないって言うか、

存在感があまりない、

ダルメシアン中将です。

20 煎餅大好きじいちゃんとお茶会 (前書き)

祝PV2万アクセス突破！

煎餅大好きじいちゃんとお茶会は今回で最後。

20 煎餅大好きじいちゃんと中将達 3 お茶会

〔海視点〕

この人と口喧嘩すると、こっちが疲れるね。
超大人げ無いよこの人。

ガ「そういえば、お主は、本当に異邦人なのか？」

周りの中将達もそれ聞きたかったって顔してる。

「まあ、合ってるよ。」

ガ「~~~~~！本当か！」

モ「いや、もう私達、色戻ってますよ？」

ガ「ほ、本当じゃわい！」

大丈夫か？

「っていうかよー。噂すくね？」

モ「まあ、そうだな。」

「あってるの多いけど……。
間違ってるのも結構あるんだよ。」

ガ「ほう。」

「で、さっきのだけど。」

たぶん、この全員、向こうでそのまま勤務すると……。」

ド「すると?」

「たぶん、軍法会議にかけられるな。」

ガ「わしでも。」

「うん、全員ってさっきいったけど?」

モ「そうか、確かにここではかけられないな。」

「この人って、個性多いし強いよな。」

モ「まあな。」

「あまりにも強すぎると……ね。」

モ「それは無いだろ。」

「いやあるよ。」

現実世界に一回あります。

「どっかの国であった」って新宿にいた警備員が話してた。愚痴
だったけど。

- 30分後 -

いろいろ取引とか契約をすませました。
えーと、海軍御用達（中将以下）の、
運搬・配達系の仕事です。表向きはね。

だって、あの四皇の二人の海賊団の所にも行きたいし。

で、あとは、雑談。

モ「さっきから気になってたが、その刀は？」

「ああ、これ？」

モ「そうだ。名前は？」

「これは、降魔剣。

自分では抑えきれない生まれつき白い炎をいつも、封印してる
」

モ「降魔剣・・・封印。」

「この3本は、斬魄刀。

この黒いほうは、黒鷹くろたか

でこっちの水色のほうは、青龍せいりゅう

最後に、この銀色のほうは、銀虎ぎんこ」

モ「斬魄刀・・・。

降魔剣には名前は無いのか？」

「え？あるよ。

名前は、白鳳凰はくほうおう」

モ「白鳳凰」

「それぞれ、能力があるけど。」

モ「それは？」

「今度話すよ。」

全員「「「いや、今話せ。」」」

「むう。分かったよ。」

黒鷹くろたかは、【闇】系の能力全般。

青龍せいりゅうは、【水】系の能力全般。

銀虎ぎんこは、謎が多いため分からない。

最後に白鳳凰はくほうおうは【火】系の能力全般。」

ダ「ある意味最強じゃないか。」

「でも、銀虎ぎんこは【電気】系の能力全般だと思っただ。

モ「ほう。」

「じゃあ、俺、もうお暇するよ。」

モ「どっか行くのか？」

「うん。ちょっと旅？かな。W7とか。」

モ「気をつけるよ。」

「おう！」

「この人、モメンガ予想と全然違う。
もっと怖いと思った。」

20 煎餅大好きじいちゃんと中将達 3 お茶会 (後書き)

アンケート受付中!

締め切りは9月26～27日。

次回「W7編 “元”CP9とガレラカンパニー」

21 W7編 “元”CP9とガレーラカンパニーと新聞

（海視点）

今、隼はやぶさになってW7目指して飛んでいます。
やっぱり飛ぶと気持ち良いね！

お？あの噴水島はW7だー！

本当に「【イタリア】の都市【ヴェネツィア】」をモデルにして
るんだな。

『アクア・ラグナ』も『アクア・アルタ』から採ってるし。

あ！ガレーラカンパニーだ。

もう着陸しないと・・・。

スタツ

「ガレーラカンパニーの1番ドックの職長さーん！」

??「なんじゃ？誰じゃ？」

おおー！カクだー！

本当に四角っ鼻だな。

カ「聞いてるか？」

「お、おづ。」

カ「で、なんじゃ？」

「アイスのおっさん・・・じゃ、分からないか。

アイスバーグ市長にちよつと会いたくて。話と届け物。」

カ「こつちじゃ。」

「なあ、カクでしょ。」

カ「！？なんでじゃ。」

バサツ、バサツ。クークー。

「お！鷗！ありがとう！」

「クークー！」（うん！）

「なあ、名前は？」

「クク！」（ポポ！）

「ポポ！ありがとな！」

「クークーー！」（じゃあーな！）

「あれ？なんで社員達も固まってるの？」

全員「「「異邦人って、コイツのことが―――！―――！―――！」」」

ええええ！？

そつだ、新聞読もう！
ん？なにになに？つて………

「ええええええ！！！！俺のこと載ってるつうつ！！！」

全員「「「やっぱコイツかあああ！！！！」「」

カ「ちよつと、いいかの？」

全員「「「はい！すみませんでした」「」

あつ、持ち場に戻つた。

・社長室・

コンコン

ア「ンマー。誰だい？」

カ「カクじゃ。客を連れてきた。」

ガチャ

「どうも。新聞に載ってる【異邦人】こと俺です。」

ア「ンマー！君だったのか！」

「ええ、

あ！俺の職業は、海軍御用達の運搬・配達（極秘も）屋です。

表向きはね。」

ア「そうか。・・・、表向き？」

「海軍以外にも同じような事をしようと思いついて、後、賞金稼ぎもやるのかと。」

ア「こっちも頼もうか。」

「わかりました。」

で、海軍から頼みがあるって、これです。」

ア「わかった。ゆっくりしとけよ。」

「はい。」

・ブルーノバー・

ブ「海か。」

「カク、話したん？」

カ「すまんの。」

「いや、ありがとう。説明しなくてもいいみたいだし。」

後、特別に今日閉店してくれてありがとう。『“元CP9”の
皆々へ』

ジャ「なんで知ってるんだ？」

「あつ、ジャブラ。」

カ「ん？なんで名前知ってるんだ？」

「全員知ってるぞ？」

まず、【麒麟】カク。」

カ「合つとるの。」

「【狼】ジャブラ」

ジャ「ああ、俺だ。」

「【豹】ロブ・ルッチ、【ペット】鳩のハットリ」

ル「ああ。」

ハ「クルツーパー！」

「【空気扉】ブルーノ」

ブ「そうだな。」

「【泡】カリファ」

カリ「ええ。」

「【チャック】フクロウ」

フ「チャパパ〜」

「【歌舞伎】クマドリ」

ク「その〜、と〜お〜〜り〜〜ロジャ」「〜るせえ!」「」

で、いろいろ話したけど、省略します!

21 W7編 “元”CP9とガレーラカンパニーと新聞（後書き）

海がおとなしくなっちゃった・・・。

アンケート受付中！

次回「W7編 市民達と怪獣バーさん達とフランキー一家!？」

22 市民達と怪獣バーさんとフランキー一家!?(前書き)

W7編は今回で最後。

22 市民達と怪獣バーさんとフランキー一家!?

どこだ?ここは、どこだ?

??「おい!なんか迷ってる奴いるぜ?」

??「本当だな。」

誰が喋ってるの?

もしや・・・、ここ裏町か!?

??「金奪おつぜ!」

??「そつだな、ひさしぶりの獲物だ。アニキ喜ぶだろう。」

おい相手に聞えてるぞ!

裏町・金・アニキ・・・フランキー一家か!

とりあえず、フランキー一家の屋敷に向かうか。

確か、ここを真っ直ぐ行って・・・、

右曲がって、左・・・在った!

??「コイツ、俺達の屋敷に向かっているぞ」

??「あつ、来た。」

そろそろ、出て来いやああ! (あの人の真似です)

「フランキー一家隠れてない出て来い!!」

??「なんだよ。お前、旅の人じゃねえのかよ。」

??「そうだ、そうだ!」

?????「????どうしたんだ?」

ああーいっぱい出てきたー。

「なんで、あんなことしてるんだ?

汚ねーぞ?ザンバイ?」

ザ「なっ!なんで俺の名前を・・・!」

「他にも、タマゴン、コップ、キエフ、シヨルゾウ、怪力デストロイヤーズ。」

タ達「????なっ!」

??「なんだー?なんだー?お迎えも無しか?」

ザ達「????アニキ!俺達の名前を知ってる変な奴が!」

「今、変な奴って行った奴、地獄に落とすぞ?」(黒笑)

ザ達「????すみませんでした!」土下座中

一応死神の力もってるから出来るんだぞ?

「で、その一番上が“元カティ・フラム”フランキー。」

フ「なんで知ってるんだ？」

「その二人が、キウイとモズ」

二人「「なんでしってるわいな。」」

「で、その2頭【キングブル】ソドム&ゴモラ。」

2「「バヒツ!?（なんで!?!）」」

フ「おい、聞いているのか? ああん?」

「今日の新聞の見出しに載ってる人物は・・・」

フ「人物は？」

「俺だ。」

全員「「えええ!?!?!?」」

「改めて、俺は櫻井 海。海って呼んでくれ。」

キウイ「【異邦人】だわいな。」

「そう呼ばれてる。」

フ「ん〜! スー〜 パー〜!」 シャキーン!

「そんじゃ。」

- 町 -

市民「おい！海君！水水肉あげるよ！特別サービスだよ。」

「ありがとう」

それから、いろいろなものを貰った。

- ・水水肉・飴 どちらも大量。
- ・グランドラインの地図
- ・エターナルポース
- ・お金

感謝しないと。

そうだ、【怪獣バーさん】ことココロさんに会いに行ってから、この町から出よう。

- 駅 -

いたいた！

「どうも、新聞に載ってた【異邦人】こと、海です。」

コ「んががが！あんたか。」

伝説は本当だったんあ「ぐびぐび

ものすごい、アル中だな。

「また会おうな。」

【人魚】 ココロのバーさんに、
【その子供】 チムニーと【ウサギ】
ゴンベ

よし、次はどこ行こうか。

22 市民達と怪獣バーさんとフランキー一家!?(後書き)

アンケート締め切り迫る!

次回「ローグタウンに行こう! 1」ナバロン」

23 ローグタウンに行こう！編〜ナバロン〜（前書き）

この話は海軍絡みが多いです。
今回はナバロンで休憩します。

23 ローグタウンに行こう！編くナバロンく

海です。

今、雲の上を飛んでいます。

何故かって？

下の雲がサイクロンだからだよ。

いくらサイクロンは無理でしょ。

「豆知識」【サイクロン】

サイクロンとは？

∴アラビア海やベンガル湾などインド洋で発達した熱帯低気圧の呼び名。

さらに詳しくすると・・・

サイクロン(cyclone)は、

熱帯低気圧のうちインド洋北部・インド洋南部・太平洋南部で発生するもの。

英語のcycloneは、低気圧・暴風全般を指す語。

お？雲が無い所発見！

.....。

ちょっと、ちょっと待って。

あれって・・・ナバロン？

結構行っちゃったな、
ロングリングランドとか、行きたかった。
記憶喪失の島には行きたくなかったから良かったけど。

たまにナバロンを知っていない人がいるため説明。

【ナバロン】

- ・『ハリネズミ』と呼ばれる鉄壁の大要塞。
- ・海軍G-8アニメオリジナル支部がある島の名前。
- ・映画では『デットエンドの冒険』においてレースの偽ゴール地点として出てきた。

???「誰だ。」

「あつ、海軍ドレイク少佐だー。」

ド「!」

???「うおおお!」

(実際はこんな声は映画・アニメでは出てません。
ただ、趣味の釣りをしているだけ。)

「釣りしてる、ジヨナ中将(わざとです)」

ジヨ「ジヨナサンだ!」

「うわー自分の名前に『さん』つけてやんの。」

ド「違う!そういう名前なんだよ。」

「おおー!鯛だー!」キラキラ

ジヨ「鯛が好きか、刺身か？煮込むか？」

「刺身！」

ジヨ「よし、分かった。ジェシカ、頼む。」

ジェ「はいはい。（野菜を食べたくないからでしょ。）」

ジヨナサンは、「にんじん・ピーマン・ブロッコリー」が苦手・・・

子供か！お前は！

・ 食べ終わってー

白（いつの間にか海は寝ています。

ド「こいつの髪の毛をかき回すともものすごい気持ち良いな。」

白（まあ、確かに。

ジヨ「おお！本当だ！」

・ 30分後、港 ・

「じゃあな！また来るぞー！」

ド「／／いつでも来い。」

ドレイクって照れ屋だな。

ちなみに、ドレイクの声優って海軍系の声優が多いぞ？

- ・ X・ドレーク（元海軍本部少将）
- ・ 海軍本部ジョン・ジャイアント中将（巨人族）
- ・ 海軍本部ドールベルマン中将（コートの色が違う奴）
- ・ 海軍本部ストロベリー中将（髪型が変な奴）
- ・ 海軍本部カイゼルヒゲ中将（アニメのみ登場、後々この小説にも登場。）

・ 海軍 G - 2 支部（エースが潜入した支部）コーミル中将

な？海軍いっぱいあるだろ？

他のアニメ見て、分かったけど、この人、

『治安系』が多い。

次はアラバスタ王国でも行こうかな？

休憩場所として。

23 ローグタウンに行こう！編〜ナバロン〜（後書き）

アンケート締め切り明日か明後日になりました。

次回「ローグタウンに行こう！編〜アラバスタ王国〜」

24 今**は**原作のどこだー!？(前書き)

アンケート明日(9・28)まで!
アラバスタ編は次回!

24 今は原作のどこだー!?

海です。

今は、飛んでるだけだから、
分かったことを書くよ？

まず、海軍本部で分かった事。

・スモーカーが大佐で、たしぎが軍曹。

・コビーが曹長で、ヘルメツポが軍曹。

・エースがG-2支部に潜入してない。

・原作主人公ルフィが生まれてない!?

・黒檻ヒナが中佐。

・エニエス・ロビーでバスターコール発動。

W7で分かった事。

CP9（長官除く）は、解散して、W7で働いてる。

4人（潜入組）は秘書・職長。残りの3人はブルーノバーで働いてる。

・フランキーは解体屋をやっていて変わってない。

・アイスバーグは市長兼ガレーラカンパニーの社長。

・パウリーは副社長兼艦装・マスト職長。

以外は原作通り。

- 雑談（4人）

仁「あ！海！」

海「仁！？」

大「仁！海！」

海「大輔！？」

仁「大輔！」

海「どうなってるの！？」

白「はいはい。皆さん、作者の都合上、集まってもらいました。

」

海「ああ！そういうことか！」

仁「でも、原作主人公ルフィがいないってやばくね？」

大「にじファンの小説の中でもルフィがまだ生まれてなくて、

原作始まって小説見たことないぞ？」

白「でも、もしもいなかったらどうなるのかな？って思って。」

大「まあ、確かに。」

仁「でも、駄文っていうより、グダグダだな。」

白「そうなんだよ。元々、理数系で国語が苦手の人だし。」

海「なんか、似てない？」

白「いやいや全然。」

仁「でも、俺達が登校してる学校って、どこだ？」

海「そうだよ。俺達は仮想の人間だけど。」

白「光が丘の中学校。」

「うちが登校してる学校だよ。」

大「ほら、やっぱり、白龍が登校してる学校じゃん。」

仁「そーいえば、『国連にいる天然日本人』でも海が主人公だけ
ど、

モデルとした小学校って？

「これも、白龍が登校してた学校みたいだけ。」

海「名前なんだっけ？たしか……」

白「光が丘第六小学校。」

「今は、夏の雲小学校。」

海「それだ！」

大「で、同じクラスだよな。」

白「ストップ、ストップ！そこまで！

うち、学校ではれるじゃん！

班ノートで、ばらそうと思ってるのに……。」

海「何班？」

白「もういいや。え？3班。

って、同じ中学で同級生しか分からないだろ！それは！

読者の事考えろ！」

海「そーいえば、俺の格好って？」

白「あー。冬の時の格好だよ、うちの」

海「へー」

仁「この小説で特に今回、個人情報結構だしたな。」

白「分かるのは、うちの学校に登校してる人だけだから。

べつにいいやって思った。」

大「おい、俺、今、空気になってたよ！？3分くらい。」

白「それじゃあ、これで終わりにしよう。」

海「なんでだ？」

大「スルー！？」ガーーーーーン！

白「あれじゃあ、短いじゃん。」

海「確かに。」

仁「大輔？」

白・海「ほっとけ。」

大「……ぐすん。」

24 今**は**原作のどこだー!?!? (後書き)

次回「アラバスタ」

25 アラバスタ王国〜ペルと上空で会話、
チャカ登場〜（前書き）

アンケート今日までだよ！

感想等の所に書いてね！

25 アラバスタ王国へペルと上空で会話、チャカ登場へ

ども、海です。

今は、ここに帰って、アラバスタ王国の真上を飛んでいます。

はちんぱん
隼じゃないよ？

ワッ
鷲だよ？

だって、「トリトリの実 モデル隼」ファルコンの能力者がいるじゃん。

??「ん？鷲？珍しいな。」

あ！ご本人登場！

「アラバスタ王国護衛隊副官のペルさん、こんにちは。」

ペ「!?!まさかっ！異邦人って言われてる・・・！」

「そう。【異邦人】って言われてる、櫻井 海です。

『海』って呼んでください。」

ペ「じゃあ、私の事は『ペルさん』じゃなくて、

『ペル』って呼んでください。」

「おう!・・・ペル。質問していい?」

ペ「なんでしよう?」

「なんでこっちが名乗らなかったのに知ってんの?」

ペ「昨日、号外がありまして。

横からだけど写真が載ってまして。」

「あゝ、なるほど。」

ペ「『異邦人』っていうのは……」

「本当だよ。」

噂は、ほとんどが間違ってるけど……。」

ペ「合ってるのもある、と。」

「そういって。」

ペ「そうですか。！」

もし良かったら、王宮の中を案内しましょうか？」

「え！？行けるの！？？」

ペ「ええ、行けますよ？」

「ペル、行きたい！」

ペ「では、急降下します。

後ろについて来てください。」

「うんー！」

「フーーーーーー」

あ！ペル、獣型になってる。

今気がついたけど、今の速度、

俺が隼になつて普通に飛んでる速度と同じだ。

俺が早いのか？

それとも、ペルが遅いのか？それは無いか。

現実（仮想）世界で隼（本物）達などを、

どんどん追い越して、隼みたいな飛ぶ速度が早い鳥達が怒って、奇襲を受けた経験あつたな。

あれは怖かった。いろんな意味で。

『どんな意味だよ！』って、つっこまないで！

あ、王宮見えた。

元々目が良いけど、鳥になるともっと良くなるから、たまに目眩がする。

どっちかと言うと、現実世界で言う、

『目が疲れてる』って感じになるけど。

ペ「海、着きましたよ？」

それにしても王宮デカッ！

ペ「海？」

「？・・・！！」

「ごめん！ちょっと考え事だから、気にしないで？」

ペ「ええ。分かりました。」

今は、飛んでません。
王宮の中を歩いてます。

・王宮の中・

??「ペルと、・・・！櫻井 海か!？」

「うん・・・、できれば『海』って呼んでほしいな。」

??「すまない。私の名前は」

「チャカだろ？」

ペルと同じでアラバスタ王国護衛隊副官・・・」

チャ「ペル？お前、話したか？」

ペ「いいえ。」

「2人は、動物系悪魔の^{ソオン}実の能力者。」

チャ「あってる。」

「ペルが、トリトリの実 “モデル^{ファルコン}隼”。

チャカが、イヌイヌの実 “モデル ジャツカル”。」

ペ「なぜ、知ってるのですか？」

「一応、情報屋だよ？」

二人は納得した顔だ。

原作を知っていて、しかも関係者って事がばれたら・・・。
考えるだけでも・・・寒気が・・・。
(作者は関係者ではありません。)

25 アラバスタ王国〜ペルと上空で会話、チャカ登場〜（後書き）

次回「アラバスタ編〜カルーとビビとイガラム〜」

26 王宮ア、カルーとビビとイガラムア（前書き）

今回は「アラバスタって言ったらこの人！」って感じにしてるつもりです。

26 王宮、カルーとビビとイガラム

チャオ!

どもー、海です!

「チャオ」ってどの言葉?

そんなことは置いといて、

今は王宮の中。

ペルとチャカは、兵士達の訓練の教官の為いない。

暇だなー。

超カルガモ部隊に会いたいなー。

??「グエエー!ー!ー!」(おーい!ー!ー!)

ん?動物?

??「クエ!ククエ!クエ!グエー!」

(おい!ここだ!右だ!だから、右だつて!ー!)

ん?右?・・・。

??「クエ!クククエエー!ー!」

(僕だ!よろしくな!ー!ー!)

「おう!」

あいつつて、超カルガモ部隊隊長のカルーだよな。

あれで子供か……。すごい。

??「カルー！今までどこにいたのよ！さがしたのよ！」

ん？もしかや……。ビビ女王？

??「あつ、こんにちは。名前は教えないわよ？

だって旅の人でしょ？」

「ああ。」

もしかして、ビビの性格上、名前を自分でばらすんじゃない？

??「だから、もしも私が『アラバスタ王国ビビ女王』ってばれたら。」

「ビビ。」

ビ「え！？」

「今、情報屋だから名前を知っているけど。
今確実に、自分でばらしたぞ？」

ビ「あああー」。」

原作でもあったな。

ウイスキーピークで、クロコダイルと自分の名前をつつかり。
大丈夫か？ビビ、大丈夫か？

??「ビビ様！」

「????」「ビビ様!」

カ「クエー!」(来たよー!)

「そうだな、カルーの言う通り、
ペルとチャカと・・・モオーツワルト?・・・イガラムか
!」

ペ「海もいたんですね。」

??「これは、ゴレツh・・・」

マ〜マ〜マ〜
すみません。

アラバスタ王国護衛隊隊長のイガラムです。」

「あ、どうも。」

イ「それでは、用事があるので。

ビビ様、行きますよ?」

「じゃあ、俺はもう直ぐこの国から行く所あるから、
町を少し散歩して行くよ。」

ペ「そうですね。」

「ビビ!ペル!チャカ!イガラム!カルー!またこの国に来るか
らなー!」

「ビビ」絶対だね!」

「ああ、絶対に来る。」

ペル「気をつけて。」

「ペル、ありがとう。」

チャカ「次は手合わせをお願いします。」

「わかった、次はよろしくな。」

イガラム「マ〜マ〜マ〜。お元気で。」

「Thanks you!」

カルー「クエ、クエー!」

(また、絶対に来いよー!)

「ああ、今度は全隊員に会いたい。よろしく。」

どこ行くのかな?

26 王宮「カルーとビビとイガラム」(後書き)

次回「アラバスタ王国編」クロコダイル!??」

アンケート3件しか来なかった・・・orz。

今日から、3日間特別に受け付けます。

詳しくは、12話を読んでください。

このまま、来なかったら、悪魔の実を食わせます。

自然系ロギアのミズミズの実は食わせようと思っております。

「一方」さんの意見から採りました。

27 町を散歩しよう編 くろこダイル!?! (前書き)

クロコダイルと少し絡みます。

ロビンは……。たぶんいない。

27 町を散歩しよう編 くクロコダイル!??

HELLO!

どーも、海です。

今ですね、町にいます。

さすが、アラバスタ王国。

ちよつと、アラバスタ王国についてまとめてみよう!

【アラバスタ王国】

・サンディ島にある、砂の国（砂漠）。

・世界政府加盟国

・偉大なる航路でも
グランドライン

有数の文明大国。

・人口 1000万人前後

・ログがたまる期間は5日以内。

（次の島は秋島）

つてところだ。

それで今はアルバーナにいる。

【アルバーナ】

・アラバスタ王国の首都

・国内最大の都市

・大きな円状の台地の上に建設された都市

やっぱり、首都は活気があっていいな。

しかし、さっきのままの服じゃあ、
今頃、倒れて気を失ってるだろうな。
平熱低いし。

でも、寒さには強いんだよ

服に秘密液体を吹きかけました。

(現実世界に実際あるかどうかは不明)

秘密液体だよ。

名前を考えてなかったんだよ。

これを吹きかけたら、めっちゃ涼しいよ。

白)「これ、無いのかな？」

なかったら、開発して欲しいと思う。」

なんでいきなり出てくるんだよ。

(邪魔って言えねえよ。あいつ今、寝ぼけてるし。

(只今、午後10:55)

しかも、低血圧だし。起きたばかりの白龍は恐い。

学校だとそれは抑えてるみたいけど。

地下鉄(大江戸線)に乗ってて、寝ていて駅員に起こされた時、
抑えきれなかったみたい。

あいつも光が丘に住んでるから寝れるんだよ。

大江戸線の終点は光が丘だし。

おっと、話がずれたね。

えーと、今、レインベースにいるよ。

いきなりだけどこめんね？

レインベースとは、
「夢の町」と称される、ギャンブルの町のこと。

この町の中の・・・あつた！

『レインデザイナーズ』

これ、本当にあるんだな。

新聞によると、

ロビンが昨日、偉大なる航路に、グランドライン入ったようだ。

ロビンは原作通り、『ハナハナの実』を食べているようだ。

ガチャ、カラン、カラン

店員「いらっしやいませ」

「ちよつとさ、店長に会いたいんだけど。」

店員「店長？社長ですか？」

「ああ、七武海のクロコダイル」

定員「!?!」

??「ああ？俺に何か用か？」

「あ。」

本人がいきなり！？
つてか結構目の前にいたし。

クロ「ちよつと来い」

「無理」

クロ「なんでだ。」

「ただ、本人見たかっただけ。」

本当にフツクあるんだな。

クロ「用事が無いなら出てけ」

「なあ、一つ質問していいか？」

クロ「なんだ。」

「B・Wってあるの？」

クロ「はあ????」

無いみたい。良かった。

「なんでも無い。気にするな。」

「じゃあな。」

クロ「なんなんだ。あいつは。」

27 町を散歩しよう編 くクロコダイル!?! (後書き)

本当にちょっとだけ絡みました。

次回「アラバスタ王国編最後 く上空であの人(鳥)がいた!?!」

28 再び上空へあの人(鳥)がなんでここに!?? (前書き)

アラバスタ編最後です。

そーいえば今日までです。(AKT)(5文字)

それでは、それでは。

28 再び上空へあの人(鳥)がなんでここに!??

上空へ

あー、クロコダイルに会っちゃったよ。
でも、バロックワークスB・W無くて良かった。

あれー?あれって何?
鳥?

でも、青い炎纏ってるよー?
もしかして、『不死鳥マルコ』??
まさかー、いるわけ無いよー。

ここ、アラバスタ王国の上空だよ。
なんで進まないっていうと。

「上からアラバスタ王国を見たら超綺麗」ってペルが言ってたんだ。

呼んでみようか・・・な・・・。
いらなみみたい。

向こうが俺のことに気がついたようだ。

マルコ「よい。」

「『不死鳥マルコ』だよな?」

マルコ「そうだよい。」

「で、なんでここに?」

マルコ「ちょっと待てよい。お前は『異邦人』櫻井海。海で合ってるか?」

「ああ。俺は海だ。

で、なんでここにいるんだ?」

マルコ「親父知ってるか?」

「白ひげだろ?」

マルコ「そうだよい。

で、親父が会いたがってるよい。」

「俺に?」

マルコ「そうだよい。」

「マルコ、

ちょっとローグタウンに行つてからでいいか?」

マルコ「ローグタウンかねい。」

「ちょっとさ、

『アラバスタで有名な葉巻があるから行くなら買って、

ローグタウンにある俺の駐屯地まで来てくれないか?』って、スモーカーに頼まれたんだよ。

ほら、ちゃんと葉巻は買ってるんだよ。」

ガサツ

マルコ「分かったよい。

付き添うよい。ローグタウンはこっちだよい。」

「サンキュー」

・ローグタウンまで4km・

マルコ「疲れてないかよい？」

「ん？まだまだ平気だぞ？」

マルコ「そうかよ・・・い。」

「どうした？」

マルコ「下に海賊船がいるよい。」

「こつちには気がついて無いみたいだな。

マルコ、俺が行ってもいいか？

マルコはここにいて欲しいけど。

俺、一応賞金稼ぎやってるからさ。」

マルコ「（気をつけないとねい。）行って来い。」

「ああ。」

なんか警戒されたな。

ん？海賊旗は・・・クローバをバツクにした骸骨か。

確か、クローバ海賊団で。

船長の【クローバ】のサツクは懸賞金1600万ベリー。

副船長の【猿】のバンジョーは懸賞金500万ベリー。

トータルバウンティが2100万ベリー。

安っ！

『クローバ海賊団』なんて、少しかわいい名前の海賊団だけど。

ピースメイْن じゃないんだよ。《モーガニア》なんだよ。

俺は《モーガニア》系の海賊団だけを捕まえるつもりだから。

ヒューーーーー、スタンツ。

サ「誰だ貴様！」

「ん？賞金稼ぎさ。」

サ「なんだと！貴様！」ブンツ！

「棍棒振り回すの？ダッセーな。」

ブチツ

ん？向こうの何かが切れたな。

よし、能力開放。

サ「!!!!????能力者か!?!」

バ「動物系ソオンの能力者かウキツ!?!」

「残念。悪魔の実の能力者では無い。」

サ「何!?!」

今、ホワイト・タイガーで人獣型。

「油断するなよ?」

ザシユツ!

うわー、相当血が噴出すな。

なんか持ってた手刀で部下達の首を落とす。

サ「なっ!」

バ「俺達の部下に何しやがるウキツ!」

「油断するなって言っただろ?」

それはお前らも含まれてる。」

バ・サ「「は?」」

「縛道の一、塞」

バ・サ「「ウツ!!!なんだ!この感覚は!」」

ギョッ（縄で縛った音）

このとき俺は記者が乗った船が近くを通った事にきずかなかった。

コイツ意外と重い。

・上空・

マルコ「早かったねい。」

「いこうぜ！」

マルコ「分かったよい。真っ直ぐだよい。もう直ぐだよい。」

お！見えてきたぞ！

ついにローグタウン編が次回から始まるぞ！

28 再び上空へあの人(鳥)がなんでここに!?! (後書き)

ついに出了!

BLEACHの技!

次回「ローグタウン編」駐屯地」

29 ローグタウン上陸〜駐屯地〜(前書き)

ローグタウン上陸。

ローグタウンは次の編(東の海編)で。

29 ローグタウン上陸〜駐屯地〜

〜マルコ視点〜

今日は親父が会いたがってる海に会ったはいいけど、新聞には職業が何かは書いてなかったねい。

それでさつき海が海賊（賞金首）を捕まえて帰ってきたけど、危ないよい。

見た事無い技を使い、能力者。

でも、おかしいよい。

能力は1つだけだよい。

ホワイト・タイガーになって、見た事無い技を使い、今は、驚になってる。

いったいコイツは何者なんだい。

【異邦人】は認めてるようだけど。

こいつの目的地のローグタウンが見えたよい。

〜マルコ視点 終〜

〜海視点〜

なんかさつきよりマシだけど警戒心すごいよ!?

『賞金稼ぎ』って言う言葉に反応したのかな？
でも、本当の話をしないとまずいし……。
白ひげ海賊団の幹部だよ！？
無理にもほどがあるよ。
勝つ自信はあるけど。

・ローグタウンまで500m・

よし、急降下だ。

スタツ

「マルk・・・コホン。マル、ここで待ってくれ。」

マルコ「マルってなんだよい！！？？」

「マルコって言うとすぐばれるぞ？」

マルコ「・・・わかったよい。」

「おっ。」

・ローグタウン海軍本部駐屯地・

「ここだな。」

た「！」

「ふあ〜。やっぱり眠いな。」

た「海さん！久しぶりです！」

「あ〜、たしぎ！ひさし〜。」

た「（ひさし？）スモーカーさんの所ですか？」

「そうそう。たしぎ、悪いけど、案内してくれるかな。」

た「いいですよ。」

「ん？どうした？」

た「海さん、本部のモモンガ中將から聞きましたよ？」

その刀達のことを。」

「（刀達って・・・。）それで、どう思った？」

た「この世界にはその刀みたいな物は無いし、

本物もありません。」

「まあ、確かに。」

（無理がありすぎだろ。世界が全然違うだろ。）

た「それで、この刀達は最強伝説なんです。」

だから、見ただけでも、光栄です！
あつ、ここです。」

コンコンッ。

ス「入れ」

ガチャ

た「スモーカさん、たしぎです。」

「よお！久しぶり。」

た「ここにいてもいいですか？」

「いいんじゃない？」

ス「いいぞ。」

た「ありがとうございます！」

ス「それで？」

「ああ、葉巻。

アラバスタの葉巻。

お金貰ってたし。ほら。」

ス「すまない。」

「あ！たしぎ！」

た「へ？」

「刀好きだよね？」

た「はい！！」

「さつきここに来るとき海賊捕まえてさ」

ス「なんて言う名前だ。」

「クローバ海賊団」

ス「俺が留守の時にリバースマウンテンに行って、
偉大なる航路に入った海賊だな。」

「超弱かったよ。」

ス「それで？」

「たしぎ、俺この刀要らないから、あげるよ。」

ヒヨイ

た「！！！！良業物、花州かしゅう！！！」

「じゃあな！」

ス「どっか行くのか？」

「まあ、そんな感じだな。」

ス「また、来いよ。」

「おう、また。」

（町）

やべっ、マルコ待たせたままだ。
タッタッタッタッタ

??「ふん、ここか。」

ハートの海賊団、船長 トラファルガー・ロー？

??「^{キャプテン}船長！これ海賊王が処刑された処刑台だよ！」

船員 戦闘員 『白熊』ベポ？

??「「うるせえよ！ベポ！」」

船員 シヤチ & 船員 ペンギン??

ベ「すみません。」

シャ・ペ「打たれ弱っ！」

やっぱり本物だ。

でも、マルコが待ってるから、行かないと。

ハートの海賊団、シャボンディ諸島で会おうぜ？

29 ローグタウン上陸〜駐屯地〜（後書き）

ローグタウン編は無しになってしまいました。
今回から、「白ひげ海賊団編」開始！

次回「白ひげ海賊団編」エースとサッチ〜」

30 モビーディック号へエースとサッチ

（エース視点）

よお！俺は、ポートガス・D・エース。

白ひげ海賊団2番隊隊長をやってる。

本当は海賊王の息子なんだけどな。

読者！内緒だぞ！

白）いやー、無理でしょ。

なんでだ！これは俺にとって極秘にしてるんだ！

白）だってよー、原作でも書かれてるし、

アニメでも流したし。

（エースが死んだことになってるって事は言えねえ。）

あああああー！！！！！！

あ……あ……あ……あ……あ……あ……

白）大丈夫か！？

………、魂抜けてるぞ？

はっ！危ねえ！

今、三途の川が見えてロジャーが手振ってた。

船員「マルコ隊長が帰ってきたぞー！！！」

お！？帰ってきた！異邦人いたのか！？

「おーーーーーい！！マールコー！！！」

～エース視点～

～海視点～

ああー暇ー。

ただ飛んでるだけ。

マルコ「着いたよい。」

「あ、本当だ。シロナガスクジラの船首の船だ。」

あ！エース！生きてた！良かった。

この世界に来て一番最初に確認したかった。

エース「おーーーーーい！！マールコー！！！」

あははは、声が、相変わらず大きい。

マルコ「あの野郎。」怒

ん？あのリーゼントは・・・サッチ！？

サッチ「よ！マルコ！」

そして始めまして！サッチだ、よろしく！」

「よろしく」

エース「なあなあ、マルコから聞いたぞ。

情報屋なんだろう？

ティーチの奴どうなった？」

「え？・・・いや、それは・・・。」

サッチ「まだ、ティーチの奴の情報は無いってことか。」

「ああ、ごめん。」

サッチ「いや、まだ始めたばかりって聞いたな確か。

すまねえな。

エース、お前も謝れ！」

マルコ「そうだよー！」

エース「ぶつぶつ・・・。」

「ごめん。」

「ああ。」

船員「隊長！親父が呼んでいます！」

マルコ「分かったよい」

サッチ「行くぞ。」

30 モビーディック号へエースとサッチへ（後書き）

アンケート終了！

結果、食わせます。

次回に。

次回「白ひげ海賊団編〜白ひげと悪魔の実〜」

31 悪魔の実の能力者々白ひげと悪魔の実々(前書き)

青工ク最高!

31 悪魔の実の能力者〜白ひげと悪魔の実〜

- 廊下 -

「サッチ、ティーチって能力者？」

サッチ「おう。」

ロギア
自然系悪魔の実 ヤミヤミの実の能力者。」

エース「つまり、闇人間だ。」

マルコ「ティーチは『黒ひげ』って言われてるんだい。」

これは、原作通りってことか。

サッチ「着いたぜ。」

コンコンッ

エース「親父ー！来たぞー！」

白ひげ「入れ。」

ガチャ

「はじめまして。」

『白ひげ』こと“エドワード・ニューゲート”さん。」

白ひげ「!!!」

あー、やっぱ言わなければ良かったかな？

エース「親父？」

「海軍本部中将達に聞いたよ？」

白ひげ「あの、鼻垂れ小僧が？」

「え？あ、まあ。」

本当に言うのかよ。ガープ中將は違うと思うけど。

白ひげ「異名が増えたぞ。」

今日の新聞のここに載ってる。」

ヒョイ

ん？……………。

（記事一部）

【異邦人】こと櫻井 海、

知能が高いと言われるクローバ海賊団を沈める！

我々がアラバスタ王国に向かって船を進めていた。

それでウイスキーピークの近辺の海上でクローバ海賊団を発見！
ただど様子がおかしい。

我々が乗ってる船は商船で海賊船から50mしかなかったからだ。
でもよく見ると、

上から鷲が急降下してきたのだ。

甲板から1mの所で驚が人になり、その人は櫻井 海だった！
すると体の構造が変わってきた。

一度ホワイト・タイガーになり、人獣型になった。
それで手で副船長と船長以外の船員の首を、
目にもとまらぬ速さで落としていく。

すると、元の体に戻り、2人に向かって手をむけ、
何かつぶやいた。

そしたら、2人が倒れたのだ。
それでそのまま生け捕りに。

で、記者団で決めた新しい異名は『白神の海』

櫻井 海は悪魔の實の能力者じゃないと思われる。

最初に驚になり、次にホワイト・タイガー、知らない技。

櫻井 海は賞金稼ぎだ。

でも賞金稼ぎの中では謎だらけだ。

このつづきは明日の記事に書きます。

「はあ!？」

白ひげ「グララララ！」

エース、サッチ。コイツの記念品として、あれを持って

来い!」

「記念品?」

エース&サッチ「持ってきたよー!」

「早っ!!」

「って、悪魔の実……!!?!?!?!?」

白ひげ「そうだ。二つ食べ。」

「お、おう。」

ビスタ「親父、海が死ぬぞ?」

白ひげ「大丈夫だ。」

「んじゃあ、いただきます。」

ガブツ、ガブツ

「~~~~っ!!」

サッチ「大丈夫か!?

「ちよつと待ってるよ、ジュース持ってくるからな!」

ダダダダダ

白ひげ「この悪魔の実は、

ロギア自然系とソオン動物系の二つだ。」

エース「おそろいな!」

マルコ「ソオン動物系は「希少種だ」

白ひげ「自然系は、

ミズミズの実 水人間だ。」

エース「青雉が大敵だな。」

ビスタ「たしか、ティーチが食べた実の次に最強の実だよな。」

白ひげ「動物系が、自然系ロギアより稀少な幻獣種よりも、

珍しい希少種。

名前は知らん。」

「とりあえずありがとう。」

サッチ「海、ほら。」

「ありがとう」

船員「親父ーーーーー！赤髪が来たぞーーーーー！」

白ひげ「グララララ！行くぞ、息子達と海。」

31 悪魔の実の能力者々白ひげと悪魔の実々（後書き）

希少種の名前は次回！

次回「赤髪海賊団来る！希少種の名前明らかに！」

32 赤髪海賊団来る！希少種の名前明らかに！

（シャンクス視点）

今日は白ひげ海賊団の船“モビー・ディック号”で、宴会をした
いんだ！

本当の目的は、マルコとエースと白ひげと、

今日の新聞に載ってた『白神の海』に会ったためだけだな！

おっと、紹介してなかったな。

みんなも知ってると思うが一応。

赤髪海賊団船長のシャンクスだ！よろしくな！

ガゴンッ

「白ひげー！」

白ひげ「赤髪、何の用だ。」

「別に。」

何で言わなきゃいけないんだ！

「マ〜ル〜コ〜！エ〜ス！海〜！」

エ「あはは。」

マ「毎回、毎回、しっしっいよいー！」

海「俺!？」

「君が『白神』の海、か？」

海「ああ。」

白ひげ「そうだ。赤髪。」

「ん？なんだ？」

白ひげ「希少種を知ってるか？」

希少種？おいしいのか？

ベン「お頭、食べ物だけど不味いぞ。」

「はっ！声に出ってたのか!？」

白ひげ「出た。」

「悪魔の実の希少種だ。」

もしかして、

「動物系ソオンの?」

ピスタ「そうだ。」

サッチ「希少種は世界に一つだけ。」

白ひげ「名前が分からないんだが。赤髪、知ってるか？」

「さあ？ ベン！知ってるか！？」

ベン「希少種……」。

ああ、たしか、“セキセキの実”だ。」

エース&海「セキセキ？」

ベン「脊椎動物の「セキ」だ。」

「最強ー！」

ベン「でも、何故？」

白ひげ「海に食わせた。2つ。」

「なあ！海！うちの船に乗らないか？」

海「いや、遠慮する。」

ガーーーーー！

「よし、なら！ここで宴をするぞー！……！……！」

「「「「「うおおおおー！」「」「」「」

あ！海が耳を手でふさいでる。
大きい声は苦手なのか？

「海ー！こっち来いよ！」

海「ん？」キヨロキヨロ

ルウ「後ろだ！」

海「あ！」

「海ー！」ダダダダダダッ

ヒヨイ（海がかわした時の効果音）

ドテッ（シャンクスが転んだ時の効果音）

船員「お頭、コントでもやってるんですか？」

全員「ハハハハハハハハ！」

「違う！ってか、ベン！ひどい！」

ベン「勝手に転ぶからでしょ。」

「海、なんで避けるんだよー。」

海「酒臭せーんだよー！」

「なっ！」

海「俺は、まだ、未成年だー！」どーん

「まあ、子供だし」

海「ぎゃああああ！こっち来るな――！！」

2つの船内だけでは無く、

近くの島にも、海の悲鳴が響くのだった。

32 赤髪海賊団来る！希少種の名前明らかに！（後書き）

次回「主人公説明2&斬魄刀・降魔剣説明」

次々回「番外編 雑談1」

この2つは今日更新します！

33 主人公説明2 & 降魔剣(前書き)

斬魄刀の説明は次回に後回し！
今日更新します！

33 主人公説明2 & 降魔剣

主人公

【名前】

桜井 海さくらい かい

【容姿】

- ・ 白いシャツ（シンプル）（無地ではない）に薄水色のジーパン、長くて黒いパーカ（フード付）（ノースリーブ）
- ・ 基本的に白の運動靴
- ・ でもたまに、違う色の靴を履く。
- （pumaとadidasとNAIKI）
- ・ なんでも入る（動物は入らない）リュック

【身長】

168cm

白（・・・orz。

【トリップ特典】

- ・ 潜水能力
- ・ 絶対記憶

【能力】

- ・ 特殊能力
- ・ 悪魔の実

Ⅱ ミズミズの実Ⅱ

ロギア

- ・ 自然系悪魔の実

- ・ 悪魔の実の中で唯一かなづちじゃない
- ・ 水の中で能力を使うと、陸上より威力が増す。

この悪魔の実はアンケートより。一方さん、ありがとうございます。

「セキセキの実」

- ・ 動物系希少種^{ソオン}
- ・ 世界でたった一つの希少種。
- ・ 脊椎動物になれる。
- ・ 水中で生活できる動物がある為、かなづちにならない。

この悪魔の実は自分で考えました。(オリジナル)
最初はPAPAさんが答えてくれた、『スライム』にしようかと思いました、

「『スライム』って、何だ?????」と、
職場体験中にずっと考えてました。
答えが見つからず、家に帰ってインターネットで探しましたが、見れば、見るほど、だんだん分からなくなってしまった為です。
PAPAさん、すみません。

降魔剣

【名前】

白鳳凰^{はくほうおう}

【能力】

- ・ 白い炎を封印できる。
- ・ 海楼石の成分を作ることができる。（雑談2で出てくるよ！）
- ・ 具象化

燐（青の被魔師の主人公）の降魔剣の、
青い所を白くして、白い所を青くしたバージョン。
いつもはリュックに入ってる。

33 主人公説明2 & 降魔剣（後書き）

次回「斬魄刀設定」

次々回「番外編 雑談1」

2つとも今日更新します！

34 斬魄刀設定（前書き）

百目鬼さんの、「鬼の日記帳」を見てたんですけど、

『青雉』って風邪引くの？

一応人間だから引くのかな？

祝PV5万突破！

3 4 斬魄刀設定

斬魄刀

【名前】

黒鷹くろたか

【能力】

闇系の能力全般。

【容姿】

(動物)

名前の通り、黒い鷹。

(人)

・青年

・18歳

・黒髪でコビーの少し長い髪形。

(バンダナは無い)

・身長170cm

・よく海に案内をしている。

・焼き鳥が好物。

・普通に話す。

(たまに、ツッコミ役)

・冷静

【名前】

青龍 せいりゅう

【能力】

水系の能力全般。

【容姿】

(動物)

四聖獣の青龍。

(人)

・緑みがかかった黒髪。

・20歳

・身長180cm

・海の頭を撫でるのが好き。

・シヨートヘア

・悪魔の実の能力と相性が良い為、
特訓の教官になつてる。

・魚が好物。

・たまに、どっかの国の言葉が出てくる。

・ボケ、ツッコミ役

(両方ともOK)

【名前】

銀虎 ぎんこ

【能力】

電気系(・空気系?)の能力全般。

【容姿】

(動物)

名前の通り、銀虎。

シルバータイガー！

(人)

・銀髪で志摩(青の祓魔師に出てくるピンクの高校生)みたいな髪型。

(でも、銀さんの髪型に似てるかも??)

・身長173cm

・クール

・22歳で一番年上

・海に勉強を教えている。あと、情報をすばやく伝える。

・母乳が大好物。

・関西弁(いろいろ混ぜる)

・基本的にツツコミ。たまに、ボケ。

三人とも、海の影響ですーっとその歳海と、いつも一緒にいる。

34 斬魄刀設定（後書き）

次回「番外編雑談 1」の「斬魄刀の三人」

今日、更新します！

(35) 番外編 雑談 1 斬魄刀の三人 (前書き)

あまり、自分でもよく分からなくなって来た。

(35) 番外編 雑談 1} 斬魄刀の三人}

〓 謎の空間 〓

海「ん？どこ？」

黒鷹「主！」

海「黒鷹！どこ、どこ？」

黒鷹「いや、俺もその質問をしようよと……。」

青龍「主」 「わしゃ、わしゃ

銀虎「主、どこ、どこぞ。」

海「(あれ？関西弁は?) 青龍！銀虎！」

銀虎「で、どこなん？」

海「知らねー。」

突如、黒いドアが現れる。

ウイーン

海「自動ドア!？」

白「あー、皆さん。集まってもらいました！」

黒鷹「ここ、どこだ」

白「え？うちが創った謎の空間。」

銀虎「そのまんまや。」

海「で、なんで呼んだんだ？」

白「海、あんたは、副司会だよ。」

海「え！？」

白「ゲストがあの人だもん。」

銀虎「海、間違えてやんの。」

海「う、うるせえ！」

白「それで、雑談をしよう。」

青龍「いいな、それ！」

黒「銀虎、なんか情報とかあったか？」

銀「うん？現実世界？それとも、ONE PIECE？」

黒「海・青」「両方！」「」

白「海！お前、司会放棄すんな！」

銀「まず、現実世界から。

まず、上海万博が終了。」

白「もう、終わったのか」

海「早いな。」

青「お前らは、年寄りか！

昔の頃を思い出してる年寄りか！」

銀「次に、日本に台風6号近づく。」

黒「今は、俺達には関係ないな。」

銀「それじゃあ、ONE PIECEな。

海軍の極秘資料盗まれたようだ。」

白「海」「大丈夫か！？海軍！？」

銀「次。

東の海でって言ってもローグタウンな。
アーロンが捕まったようだ。」

青「魚人って厄介だよな。」

海「核攻撃すればいいじゃん！」

白「まあ、確かに。」

黒「物騒な事を言うな。」

銀「そうやで、日本は昔、世界で唯一、核攻撃を受けた国や。昔の犠牲者に失礼や。」

海「すみません。」

白「そーいえば、お前の野望ってなんだ？」

海「んー？完全崩壊させることかな？ここの世界を。」

青「原作がすでに崩壊してるからか。」

黒「この小説ってどこが完結？」

白「ええ！？それ言う！？」

まあ、これが終わっても、第二弾を作るつもりだからな。でも、どこで第一弾終わるんだろ。」

銀「分からないんかい！」

白「だってよー、超ーー先のことじゃん。」

青「まあ、そうだよな。」

海「言っちゃえ！」

白「だから、決まってるじゃない！」

でも、この第一弾は150話以上はいかせるつもりだけど。」

青「ええ！？そんなにいく！？」

白「いくでしょ。このスピードで行けば。」

黒「なら、200話位いけば？」

白「うーん、その時は、その時で決めるよ。」

海「ふーん。」

青「なあ、青の被魔師のアニメ、終わったよな。」

白「25話で。短いよー！」

黒「読みきり版じゃないのか？」

白「そうなの！？」

黒「いや、よく知らないが。」

青「まあ、終わったことは置いて。」

銀「ちよっとー！置いてかないでー！
うちを忘れたんかー！？」

4人「あ……。」

銀「ひどいやでー。」

白「ほい、苺牛乳やるから。」

ヒョイ　パシッ

銀「苺牛乳〜」

白「さっきの泣きそうな顔はどこ行った。・・・」

青「すごい変わり方だな。」

黒（六番隊副隊長の変眉みたい・・・。）

白「それでは、三人、ありがとうございました。」

青「いやいや、また呼んでくれ。」

黒「楽しかった。」

海「よし、刀に戻れ。」

白「海、番外編 雑談2では、ここで、
赤髪海賊団と白ひげ海賊団が来るからな。」

海「ほーい」

(35) 番外編 雑談 1 } 斬魄刀の三人 } (後書き)

関西弁よく知らない・・・。

次回「番外編 雑談2

} 赤髪海賊団と白ひげ海賊団 }

今日(10.3)はここまで。

(36) 番外編 2 〱 赤髪海賊団幹部・白ひげ海賊団隊長と船長2人〱 (前書

遅くなりましたー！ー！！！

明日は2話更新します。

(お詫びに。)

(36) 番外編 2 〱 赤髪海賊団幹部・白ひげ海賊団隊長と船長2人〱

〱 謎の空間 〱

白「今日は、大勢いるからな。」

海「えーっと、18人か。」

ウーーン

シャン「おおー！なんだ！？このドアすげー！」キラキラ

エース「すげー！自動だー！」キラキラ

白「エースとシャンクスがキラキラしてる。」

白ひげ「グララララ！小僧か。」

白「まあ」

ベン「まあ、座るか。」

白「えー、今日は集まってもらいました！」

海「雑談だよ。」

ブルルルルル！（結構高い音）

白「はい。

分かった。」

海「どうしたんだ？」

白「コピー用紙買ってきてだってよ。

海、後は任せる。」

海「おう。」

シャン「そうだ！その刀さ、能力持ってたんだろ？」

なんか作ってみるよ。」

海「おう。」

なにすればいいんだよ。

海「（青龍、青龍！）」

青「（うん？呼んだか主。）」

海「（なんか作れないか？）」

青「（うん。この世界なら、

『海の化石』って呼ばれる、【海棲石】なら作れると思う。

やってみるよ。海も少し能力開放と霊力を少し上げて。」

海「（おつ。）」

〓 5分後 〓

全員「」「」おおおお！！！！」「」

青「（できた。お疲れだな主。）」

海「（ああ、ありがとう）無茶振りしないで、疲れたよ。」

シャン「そうだ、もう本編行っても良いんじゃないか？」

海「でも、「それなら、この手紙を見る」ん？」

（内容）

海、うちは家に帰ったよ。
今の時間に空いてるかよ。
ちゃんと、頭使え。

白龍の海より

海「……………じゃあ、本編に行くか。」

(36) 番外編 2 ～赤髪海賊団幹部・白ひげ海賊団隊長と船長2人～ (後書

短っ！

次回「37 白ひげ海賊団編最後」

実は、青龍も海楼石をつくれます。

37 なんて海軍が最上級厳戒態勢になってるのー！？（前書き）

鷹の目が暇つぶしに少し出ます。

原作では新世界の超新星のあの人途中から、

ナレータをやっています！

あの人ですよ？あの人、あの人。

37 なんて海軍が最上級厳戒態勢になってるのー！？

（海視点）

前回の番外編でまんまと白龍の罠？に、はまり今、本編に戻りました。

シャン「罠にはまったな。」

全員「アハハハハ！馬鹿だった！」

「まあ、そうだ・・・な。」

シャン「ん？海、どうした。」

「シャンクスの永遠のライバルの、鷹の目、がいる。」

ミホーク「ミホークと言え。」

「へいへい。」

シャン「用は？」

ミホーク「海だな？」

「あ、俺？」

ミホーク「3時の方向を見る。視力が良いと聞いたのだが。」

「艦隊？」

シャン「艦隊だと!？」

「あ……海軍だ。」

エース「海軍!？」

「だいたい、20隻以上はあるよ。1・・・2・・・3・・・」

シャン「エース、エース、エースを狙え〜」

「古っ!」

エース「で、何隻？」

「20・・・21・・・22・・・23・・・24・・・25・・・」

マルコ「何隻なんだよ!？」

「27・・・28・・・、29隻!多っ!!!」

白ひげ「グララララ!狙いは、海じゃあねえのか?」

「俺っ!?!なんで!?!」

ミホーク「行ってみれば分かる。」

「知らねーのかよ!?!」

白ひげ「まあ、とにかく行け。もう、そのまま行け。」

サッチ・エース「えええー!? やだよー!」

「サッチ、エース。また来るから。」

行かなきゃいけないのか!?

表情には出してないけど、結構寂しいよー!

海軍め! 一体、何の用だ!

「じゃあ、行くよ。」

シャン「今度は、俺の船にも来いよー!」

「ああ、じゃあな!」

つたく、いまは驚。

「海軍!」怒

乗ってんの、誰だ!」怒

＝海軍サイド＝

（海軍本部）

ウーーーーー

今日の昼頃、いきなりバスターコールとは違う警報が、海軍本部の中で鳴り響く。

内容は、協定（仮）と運搬（極秘含む）・情報屋・賞金稼ぎをやっついて、

最近、世界でも注目を集め、

海軍に友好的な『白神』こと櫻井 海が関係していることだった。それは、赤髪海賊団と白ひげ海賊団が仲良く宴をしていることだ。仲良くやっっているならいいが、

問題なのが、櫻井 海が宴に参加しているのだ。

しかも、主役。

いったい何をやっているんだ！

（軍艦）

海上には、中将達が乗っている軍艦でいっぱいだ。

29隻もあるから、周りは、圧迫感で怯むだろう。

ちなみに、中将達っていうのは、

巨人海兵、つる中将、ガープ中将を除く人達のことだ。

中将達の顔は全員険しい。

表情があまり分らない人でも分かるほどだ。

そりゃ、そうだ。

海軍に友好的な人はたくさんいるが、

海賊と仲良く宴をしているっていうのは、聞いた事が無い。

しかも、2つとも新世界にいる四皇だ。

1つは赤髪海賊団。

もう1つは世界最強の大海賊、白ひげ海賊団。

さすがに、これは無いだろう。

四皇の内の2人と仲が良い人なんて聞いた事が無い。

望遠鏡を持つてる海兵達が一生懸命に向こうの動きが無いか見て

いる。

なにかあれば、知らせてくれるだろう。
でも、すぐに動くと思う。

元帥が赤髪とライバル関係の鷹の目に伝えてるからな。

望1「ドレーク少将！鷹の目が着きました！」

「引き続き、監視をしている。」

望1「はっ！」

さあ、どう動く。

望1「ドレーク少将！『白神』が、ここに行く準備をしています。」

「分かった。」

望2「少将！『白神』が驚になってこちらへ猛スピードで来よう
とじています！」

「全員、整列でもしてろ！」

海兵達「「はっ！」「びっ！」

確かに、すごいスピードで来てるな。

海「海軍……！」怒

相当、怒ってるな。

邪魔されたらそうなるか。

ここには、来ないだろうから、警戒しているか。

それじゃあ、部下達がこのままだと疲れてしまっただろうから、持ち場に戻ってもらうか。

「全員！持ち場に行き、警戒せよ！」

海兵達「」「はっ！」「」

（海視点）

今は、軍艦にいる。

なんか、中将達がいっぱいいるよ……。

バスターコールも真っ青だな。

モモ「だいたい、貴様は！何を考えてる！」

オニ「悪と仲良くなるなんてな。馬鹿か？」

はい、見ての通り、中将達から説教されています。

土下座はしてないけど。

中将達は俺を見下して説教中。

いつもは座ったり、俺が膝に乗って会話やお茶会をしています。

中将達曰く、いつも溜まってるストレス状態で、

海と会話するとどっかへ行く、だとか。

まあ、お菓子貰えるし、タダでお茶とか貰えるから、しょっちゅう会いに行くよ。

その代わりに、愚痴話を聞かなきゃいけないけど。

「ダ、貴様のせいで、海軍全体が“最上級厳戒態勢”状態なんだぞ！」

ええええー！！！！！！！！

「最上級厳戒態勢！！！！！！」

原作で、エースが捕まった時、シャンクスが白ひげに会いに行つたときに出た警報じゃん！

俺ってどんな見かたされてるの！？

極秘をばらそうとしてると思つたのか！？

「ドー」極秘情報をばらそうしたか？」

「なんでそうなるの！？」

「ドー」ならよかった。」

なんでばらす必要があるんだよ！

「つていうか、俺ってどうゆうー存在なの！？」

「モモ」何って、大切な存在だぞ？」

「ヤマ」ある意味、天竜人より大切な存在だぞ？」

「あ、バスターコール組の一人、ヤマカジだ。」

「大げさな。」

ヤマ「本当の事なんだがな。」

モモ「大丈夫みたいだから、こちらは海軍本部に戻るとしよう。」

ヤマ「元気だな。」

「ああ、また、会おう！今度は、各支部に行くつもりだから、
！」バサツ、バサツ

よし、一気に東の海イーストフルに行こう！
やっぱり、フーシャ村だな！

37 なんて海軍が最上級厳戒態勢になってるのー！？（後書き）

学校に登校してるけど、風邪引きました。

のどなので平気だと思う。

ナレータ役はドレークでした。

次回「東の海編開幕」フーシャ村」

38 ドーン島上陸 ～フーシャ村・作戦計画～（前書き）

風邪には気をつけて。

くしゃみしながら更新してるし……。 （笑）

38 ドーン島上陸 ～フーシャ村・作戦計画～

「フーシャ村」

～海視点～

ここは、東の海。

そして、原作主人公ルフィの出身地フーシャ村がある所だ。

なんちゃって。ナレータってやりにくいな。

フーシャ村って一番平和だと思う。

なんで、ここに来たかというと、

簡単に言えば、ゴア王国を潰すため。

あんな国いらねえよ。

天竜人の真似して何の得があるんだ？

カラン、カラン。

マキノ「いらっしやい。」

「こんにちは。」

ああ、この人が。

マキノ「あれ？もしかして白神の海？」

「正解。」

マキノ「そう。ここに泊まってもいいわよ?」

「ありがとう!」

マキノ「ふふっ」

- 個室 -

借りてる個室の中にいます。

では、早速、作戦計画でもしよう。

ゴア王国つてくだらねえからな。

計画内容

- 1 ・偽ワイン作り、偽札作り。
- 2 ・偽ワインを送る。
- 3 ・偽札をたくさん王族にあげて、不確かな物の終着駅を貰う。
- 4 ・偽ワイン・偽札を送り続ける。
- 5 ・少し時間を置く。送り続けるけど、近くの無人島を開拓する。
- 6 ・偽ワインを送るのをストップする。
- 7 ・狂ってきた所で世界政府の情報室にばれないようにハッキングを
して、ゴア王国の名前を消す。
- 8 ・そのままゴア王国を崩壊させて、ドーン島を貰う。
改革を行う。

これでいいだろう。

それじゃあ、偽ワインを造るか。

まず、ブドウジュースに麻薬?をいれる。

それで、三日間発酵させる。
すると、わかんなくなる。
そうだ、貴族にもあげよう。
これをたくさん造る。

次は偽札作り。

たしかリユックの中に・・・、あった！

じゃーん、コピー機！

ただのコピー機じゃないよ？

ちゃんと、改造して、偽札を作る為のコピー機なのさ。

く40分後く

おおー！

20億ベリー完成！

明日は、青龍と特訓でもしようかな？

それとも、実際に町に行ってみようかな？

38 ドーン島上陸 ～フーシャ村・作戦計画～（後書き）

駄目文ですね・・・。

なんか、ゴア王国潰したくなりました。

次回「ドーン島編 ～町に行ったけど森に避難～」

39 町に行っただけど森に避難。青龍と能力確認。(前書き)

今日から暖かくなりました。

最近、地震酔いが酷くなった。

39 町に行っただけど森に避難。青龍と能力確認。

「ゴア王国」

港では、多くの観客でいっぱいだ。

真ん中だけ、道が空いている。

その道は、一段高く、レッドカーペットが敷いてある。

そして、観客達は、世界政府の旗を持っている。

周りは世界政府の役人・護衛隊・海兵が居て、厳重な警備をしている。

嫌な予感がするんだな。

なんか、原作とアニメで見た事あるんだよな。

天竜人が世界政府の視察船に決まった定期に乗って、東の海に遊びに行く。

最悪〜！

しよがない、森に行くか。

「コルボ山」

いきなりだけど、池にいる。

「青龍。出てきて！」

青「おお〜」「わしゃわしゃ

青「よし、俺と相性が良いから、能力の教官になってやる。」

「ありがとう〜。」

青「それじゃあ、まず、頭の中で水が地面から飛び出す映像を思い描いて。」

ん〜、……………バシヤッ

青「その調子！」

次は、空間で。」

……………

空間に水が浮いてる！

青「最後、あ、基礎ね。自分が水になっていると思ってみて。」

ん？なんか体が涼しい。

うあああ！

全身が水になってる！

青「おお！んじゃ、応用編いくぞ？

それで、セキセキの実の能力使ってみる。」

んー、じゃあ、豹！

青「おおー！豹か！いいぞ！じゃあ、水の中だ！」

ドボンッ

青「そのままミズミズの実の能力を！」

じゃあ、竜巻！

ビューーーー、

青「お、おい！池が無くなる！能力を止める！」

え〜、じゃあ、竜巻よ、上へ！

なんだこの台詞。

青「こんつのっ！バカ！池が無くなる所だっただろ！」

「もう、しない。」

青「はあ、今日はここまでだ。」

「ええ〜！まだやる〜！」

青「お前な。イヤホン取れ！」

ガサガサ

カー、カー、カー

「・・・・・・・・」

青「いいな？お前の能力は強いからな。

俺はもう刀に戻る。

明日には、添加物入りワインを送ることができるから。」

「ありがとう。」

青龍には感謝しないと・・・。

よし、明日は、届けに行くか。

目指せ！「ゴア王国崩壊！そして農業系が盛んな島に！」

39 町に行っただけど森に避難。青龍と能力確認。(後書き)

なんか、風邪で、やる気が無く、省略しちゃった……。
次回「工作作戦は順調！」

40 工作作戦は順調

〓 個室 〓

パカッ（蓋の音）

おー、おー、できてる、できてる。

それじゃあ、この酒樽持って行くか。
でも、どーやって？

不確かな物の終着駅はブルージャンとか、金が無い奴に取られるから駄目。

鳥になっても、酒樽持つてる鳥なんていないから却下。
遠回りはヤダ。

後は、特殊能力しか無いな。
ブルーノ能力みたいな扉だけど。
空気じゃなくて不思議な物質でできてるんだ。
でも、もっと不思議なのが、俺は触れることができるけど、
他の人は触れないんだって。
所謂、幻覚だ。
黒だし。

しかも、声に出さないで、心の中で行きたい場所の所を言ったり、
頭の中で映像を浮かべば、ドアの向こうに行きたい場所がある。
某ネコ型ロボットのどこ〇もドアだ。

ガチャ

わいわいわいわいわい

おおー賑やか賑やか。

チーン

あー！ご臨終の音じゃないよ！ベルの音だから！

兵「誰だ！」

「手紙を書いた張本人。海です。」

実は、事前に手紙を書いていた。
いきなり来たら、疑われるし。

兵「はっ！失礼しました！」

（おいおい、14歳って書いてあったけど、大人びてるな。
しかも、背が平均より低いし。だいたい、165cmくらい
か？）

王族「……、入りたまえ。」

なんだよ、偉そうに、言いやがって。

まあ、いいや。

どうぞせ、ここは貰うから。

「広間」

ガヤガヤ

おー、貴族と王族全員集合してるな。

しかし、ほとんど、いや全員顔がブサイクだな・・・。

そんなに服が綺麗でも、顔で決まる、なんて言えないな。
この作戦が水の泡になるよ。

司会「えー、それでは！今日は、「海」って言う、

少年が、ワインを送りたいって、言いました。

ワイン試飲会を開きます！」

海「あー、こんにちは。

敬語が苦手なんで普通で言うからな。

最初は試しに飲んで下さい。

最後は、ワインを好きなだけ買って行ってください。

それだけです！では！」

よしよし、作戦は順調だな。

添加物入りは一口飲めば、ずーっと飲みたくなるからな。

こっちは、儲かって、向こうは、だんだん全体が崩壊していくか
らな。

本当に、魔の物質だな。麻薬は。

（30分後）

取引成功。

あー、緊張した。ばれると思った。

そして、添加物入りワインは、見事に完売！
儲かった、儲かった。

〜1時間後〜

はい、念願1の不確かな物の終着駅を全部貰いました。

とりあえず、そこに行きますか。

40 工作作戦は順調（後書き）

はい、見ての通り、作戦が猛スピードで進んでいます。
東の海は、ほとんど貰うつもりなんで。
第二弾で必要になるからさ。

次回「不確かな物の終着駅を開拓。そして、革命軍。」

41 不確かな物の終着駅を開拓。そして、革命軍。（前書き）

ちよつと、革命軍登場。

不確かな物の終着駅を開拓します。

作戦には、書いてなかったけど。

あまり、期待しないでください。

幹部だけです。有名じゃない幹部。

41 不確かな物の終着駅を開拓。そして、革命軍。

（革命軍幹部視点）

今日、不確かな物の終着駅に来て欲しい。
と、海と言う人物に言われた。

そのため、来たのだが、いない。

バサツ、バサツ

ん？鳥？

！！！！『白神』！！

海「革命軍の皆さん。後ろにいる人達を引き取ってくれませんか？

後ろの人達は革命軍入隊希望です。

ほとんどが、運動神経が良い人達です。」

「いいでしょう。」

海さん、一つ質問をしても？」

海「なんですか？」

「ここをどうするのですか？」

海「ここは、もう、俺の土地となっています。」

ここを開拓して、農業、漁業、酪農が盛んな島にして、
人権などを平等にします。

そうすれば、自然と治安が良くなりますし。」

「なるほど、その手がありましたか。

参考にしても?。」

海「いいですよ。」

「ありがとうございます。」

この方法はドラゴンさんに、すぐ報告だ。

海「では。」

「ええ。なにかありましたら、連絡を。」

海「はい。」

〜革命軍幹部視点 終了〜

〜海視点〜

よし。

早速、開拓でもしよう。

ゴミは、もつ、リサイクルして、リュックの中に収納してある。

まず、このレンガでも剥がすか。

バリツ、バキツ

こんな音が続く。

ちなみに、シヨベルカーで剥がしてる。

（5時間後）

やべつ、いま、10時だ。5時間もすぎたのか。

まあ、朝ごはんはいいや。

たった今、レンガを全て剥がし終えて、土がむき出しだ。ここは、田んぼにしよう。

まず、山から川を引く為の川道を作り、田んぼを50つくる。

（開拓開始から、8時間経過）

3時間掛かった。

まあ、早い方だな。

マキノさんに頼んだおにぎりでも食べよ。

もぐもぐ

ちなみに中身は、鮭とツナマヨだ。

俺の大好物なのだ！

あゝ、美味しかった。

作業を再開しよう。

く 開拓開始から、10時間経過く

えーと、今は、トンネルを掘ってます。

上は、山。

田んぼ畑

フーシャ村。

これなら、簡単に行ける。
後、10Mだ。

意外と早く終わるな。

ガゴッ

・・・、やった！

トンネル完成！しばらくは俺しか通れないけど・・・。

今日、完成したのは、

- ・レンガ剥がし
- ・人達を革命軍へ入隊させる
- ・田んぼ作り(50)
- ・川引き
- ・トンネル
- ・水車

あー、新潟を思い出すなー。
水車は無いだろうけど。

もちろん、革命軍は無い。

しかし、たくさん完成したな。
明日は、近くの無人島に行こう！

41 不確かな物の終着駅を開拓。そして、革命軍。（後書き）

短いです。

すいません。やる気が全然ありません。

熱無しの風邪を夏と秋に、毎年引いてます。が、

慣れてるはずが、なぜかどんどん悪化していく・・・（泣）

ついに、声が出ません・・・。

でも、そのかわりに、小説がバンバン更新できます！

もちろん！洋楽を聴きながら！

次回「3つの無人島開拓」

42 3つの無人島開拓（前書き）

今日は3話くらい更新する予定。

42 3つの無人島開拓

〈ゴア王国の国民視点〉

最近、王宮の所に大量のワインやお札が届いている。送ったのは、違う島から来た、14歳の青年。私達、国民は我慢してるのに！何なのよ！あの子！

でも、高町の人は気づいてないけど、私達は気づいてるわ。貴族や王族達が、変な行動をし始めたの。

なんか、夜中に奇鳴をあげたり、変なダンスを踊ったり、歩いてても、ふらふらしてるし。

これ全員だから、気づかないみたい。

もしかして、あの青年が仕掛けたのかな？

ならいいわ。

この王族・貴族達にはうんざりしてるから。

税金が高いのよ。40%よ？

だから、今、私達はあの青年を希望の光として、期待してるわ。頑張ってるね。

〓 無人島 〓

その頃、海は、無人島に居た。

無人島は、三つと言ったが、くっ付いている。

上から見ると、ミッキーマウスだ。

（海視点）

えーと、今、……ミッキー島に居ます。
島の名前、今つけた。

早速、作業をしています。

この島、ドーン島からそんなに離れてなかった。
便利です。

作業の流れ

- 1 ・雑草抜き（そんなに無い）
- 2 ・少し、木を伐採
- 3 ・港造り
- 4 ・沖繩にある、伝統の家をたくさん造る。
シーサは、無い。
- 5 ・畑作り
ちなみに、葡萄を育てる。

4？

ああ、それは、この島、よく小さい台風が上陸して来るんだよ。

で、今は5番目。

職人「ここに植えれば良いのか？」

「え！？あ、そっちの方が、専門なんだから、
お任せで。」

職「おーい、みんなー！
俺達で完成するぞー！」

他職「「「うおおお！」「」」

はい、葡萄を育てていて、葡萄ジュースも作ってくれる、
職人達を雇いました。

「後は任せたぞー！」

職「おう！任せな！」

どうしよう。

何をしよう。

作戦計画は順調だから良いけど、
今、六番に入ってるからさ。
先にハッキングでもするか。

カタカタカタカタカタ

〜10分後〜

意外と早く、できました。

もう、7番終わっちゃったよ。

じゃあ、最後の8番行きますか。

42 3つの無人島開拓（後書き）

短いすね。

その代わりに、更新しますから、許して下さい。

次回「最終作戦実行」

43 ドーン島編最終話 最終作戦実行 (前書き)

ドーン島はこれで最後です。
結構、過激です。

43 ドーン島編最終話 最終作戦実行

無人島をミッキー島にし、開拓が終わったその頃、
ゴア王国は……。

「ゴア王国」

大変な事になってた。

特に、高町。

町は荒れ果て、貴族や王族が殺し合いに似たようなことをしている。

殺し合いなのか？

あれは、殴り合いだけど、長い時間殴り合った為、血だらけになっている。

何故か。

それは、ワインとお札を突然送らなくなったからだ。

衛兵は、全員クビでない。

普通の一般国民には、被害が、出てない。

この情報は、流れたようだ。

顔は、不安と期待が混じっている。

そりゃそうだ。

いきなり、こんな事になるなんて、誰も思いつかない。
麻薬なんて、この世界には、流通してないから。

ちなみに、旧不確かな物の終着駅は、というと。

フーシャ村の人達や、国民の中で農業経験がある人が、田んぼで働いている。

人達は、畑も作っていた。

野菜畑を100?。

トマト、きゅうり、スイカなど。

夏野菜が人気のようだ。

種は、海が、事前に渡していた。

「野菜を作りたいなら、これを使って。」と。

話が戻るが、国民達の不安と期待は何か。

不安は、まず、貴族達と王族達がここに来ないからだ。

それは、王宮が崩れ、高い壁が無くなりはじめたのだ。

この二つは、海が夜中にやっていた、地道な工作。

あと、レンガ敷きの道が一部だけになってしまったのだ。

海がここを、完璧に農業と、漁業の町にするために、

やっていた。これも、これも、夜中に。

期待は、もう二度とこんな生活をしたくないからだ。

ちよつとずつだが、だんだん変わり始めているのが、

分かってきてるみたいだ。

町の風景も変わり始めている。

町中、レンガだらけだったのだ。

海以外どこを見ても、レンガだったのが、土や花、木が見え、

「ここは変わるんだな」と誰もが、そう思うのだった。

そして、海は、王宮を壊し始めている。

では無く、もう壊し終わってた。

王宮は、滅茶苦茶デカイ。

どうやったか。それは、爆弾だ。
そう、爆破解体だ。

こういうデカイ建物は、爆破が簡単で良い。
海は、爆弾を持ち、貴族の家に入っている。
家は、町より、荒れ果てていた。
そこに、爆弾いや、火薬を置く。

（1時間後）

ズ、ドオオオオン！

海が爆発スイッチを押したのだ。

この小説には、「ズ、ドオオオオン！」と、書いてあるが、
言葉では表せないほどの、轟音が聞えている。
これは、フーシャ村にも聞えていた。

「フーシャ村」

ズ、ドオオオオン！

爆発が起きた時、村人は驚きの顔と呆れている顔があった。
なぜ、そんなに慌てないか。

それは、海が話していたのだ。

「明日、高町を爆破解体するから。轟音がここまで聞えてくるか
ら。」

トンネルの向こうに行くのは、やめたほうが良い。

でも、どうしても、行きたいなら、朝早くか、夕方からだな。」

しかし、いくらなんでも、音が大きい。

それは、一つずつでは無く、一気に爆破させたからだ。

「旧高町」

高町だった所は、戦後みたいだ。
焼け野原になってる。

ついでに、高い壁も爆破させた。
貴族や王族の生き残りはいない。

焼け死んだのか？と思った海だが、骨まで焼いてしまい灰だらけ
になっていることを

確認した。

海は、「やりすぎだな。もうちょっと、火薬を少なくすれば良かった。」と、

頭を片手で、抱えていた。

これは、「ゴア王国崩壊事件」と、記事に載せられ、
ここによく来ている、天竜人達は失神しそうだったという。

（3日後）

あの、爆発が起きてから、三日が過ぎた。

海は、高町を市場にしている、

ドーン島は、酪農・農業・漁業が盛んな島になっていた。

ミッキー島も、順調だ。

税金は40%から、5%にした。

貰うのは、海だ。

海曰く、「これで、東の海をさらに平和にする。」と言っていた。

島民達は、海に感謝していた。

しかし、海が「今日、違う島に行き、平和にする。」と、
いきなり言い出した為、慌てていた。

でも悲しみながら、島民達は、お礼を言い、海を見送った。

海は、次の島へ向かう。

43 ドーン島編最終話 〽最終作戦実行〽 (後書き)

前회가、あまりにも短く、文字数も少なかつたので、頑張りました。

そして、すべて、ナレータで書きました。初めてです。

次回「シエルズタウン編開始！」

44 シェルズタウン前編

「シェルズタウン」

海「それにしても、基地でかいなー。」

シェルズタウンには、海が到着していた。

原作通りで、モーガンが恐怖支配をしているが、本部は知らない。

海「本部に連絡しようかな？」

ブルブル ガチャ

ガ「なんじゃ？」

モモ「ちょっと、ガープさん！その電伝虫、私のです！」

ガ「別にいいじゃろ。借りるだけじゃ！」

モモ「返してください。」

海「もしもし、聞えますかー？そこの5人？」

ガ「海か？」

海「うん！」

モモ「どうした。」

電話をしている向こうには、中将5人がいた。

バスターコールでもやるのか？（笑）

海は、モーガンのことを分かること全部を5人に話す。すると、

ガ「よし、わしが行く！着くまで、なんとかしてくれ！」

海「お、おう。」

モ「私も行こう。」

海「なんで!？」

モ「向こうは、斧をつけてる。快速船でガープさんより早く行くから。」

海「おう。。。」

海は強い分類に入る。

別に援軍はいらないのだが、むこうがものすごく、大切な存在として、心配してる為、

モモンガが向おうとしてるのだった。

モ「そう言うことから、じゃあ、ガープさん、先に行ってください。」

ガ「ガハハ、行って来い！」バシッ

モ「痛い。。。」

ガ「ぶわっはっはっは！！（笑）じゃあの！」

ガチャン！

海「（モモンガ、可哀想。ご愁傷様です。）」

海は、電伝虫を持っていない。

実は、そこらへんを歩いていた・・・いや、警備をサボっていた海兵を捕まえて、

基地に行き、電伝虫を借りていたのだから。

海曰く、

「だって、サボったらモーガンから、制裁されるからさ。

ただ、サボるだけで制裁されるのは可哀想だよ。」

海は、モーガンを捕まえる決意をしたのだった。

44 シェルズタウン前編 (後書き)

短っ!?

もう一つ更新します。

次回「シェルズタウン後編」

45 シェルズタウン中編（前書き）

風邪が治り始めた！

声は出ないけど・・・（泣）

たぶん、東の海編で100話突破します。

だから、東の海編は、ものすごい長く長いです。

45 シェルズタウン中編

モモンガが、快速船でシェルズタウンに向っているその頃、
海は……。

「海軍基地」

海「おい、お前誰だ？」

海兵「え……え……、スーカです。」

スーカは、誰か。

さつき、警備をサボってた海兵だ。

モーガンの部隊でサボるなんて、赤犬がいるようなもんだから、
相当な度胸がある。

海「スーカ、モーガンは今、何をしてる。」

ス「は、はいっ。只今、討伐に行っております。」

そう、今モーガンはいないのだ。

海にとって格好のチャンスになっている。

海「（イヤッホーイ！まさか、いないなんてな！

モーガン、おとなしく捕まれよ？）」

海がモーガンの家に向かって突進して行く。

スーカーが怯えて失神している。

ドドドド、ポイツ、ドカアアン！

どこから出したのか、

機関銃で家を壊し、特にガス管。

ガス管にマツチを投げた。

すると、爆発音が聞えてきた。

家は火事じゃあ、済まされない。吹き飛んでいる。

町民達は避難をしていた。

でも、町には被害も出てなく、完璧にそこだけを狙うように、爆発させたのだ。

見事なコントロール。

爆発が起き、家が吹き飛んでいたその時、
港には……

「港」

モ「あの爆発はなんだ……。」驚

快速船が到着していた。

軍艦は、もう直ぐ到着するようだ。

「基地」

モ「なんだこれは……。」

モモンガが吹き飛んだ家を見て驚愕している。
いや、ほかの海兵・町民が驚愕している。
していないのは、海のみ。

ガラガラ

海「ぷはー、いやーここまで瓦礫が飛んでくるとはー。」

余裕の表情で、瓦礫の山から出てきた海。

ス「なっ!」

海「おお!モモンガ!やっと来たんだな。

はつきり言っつて遅えーよ。予定より10分遅れてるぞ!」

モ「すまない。それより、これは・・・お前がやったのか?」

海「ああ!」

モ「!!!???」

海「モーガンが居ないからやった。」

モ「はあ・・・。」

怒る気より、呆れの方が多かったようで、
ため息をつくモモンガ。

〈10分後〉

ガ「なんじゃ、まだ来ておらぬのか。モーガンは。」

ボ「ええ、そうみたいですな。」

海「モーガンと同じような奴が居る、ネズミ支部大佐だ。」

モ「分かった。2人を捕まえよう。」

海「あ！なあ、なあ、ちょっと、全員集合。」

海「良い考えがある。」（ニヤリ）

なにか企んでいる海。

3部隊を使って何をするつもりなのか。

それは、次回で分かる。

45 シェルズタウン中編(後書き)

次回「後編」

46 シェルズタウン後編

「基地内」

海が3部隊全員に簡単な作戦を話し、それぞれ担当する場所に行く。

言うておくが、簡単な作戦だ。簡単。

そう、こういうのは慣れてないだろうと、簡単な作戦にしたのだ。

まずは、モーガンの部隊の海兵達は、

いつもと変わらないように仕事をしている。

これも、作戦だ。

いつもと違えば、絶対にばれる。

規律にうるさい人なら、直ぐ分かる。

次に、モモンガの部隊は……。

「モーガンの職務室」

モモ「こんな、物まで……。」

海兵1「中将！これ！賞金稼ぎ達の刀です！」

モモ「あいつは、何をしたいんだ。」

海兵1「どうします？」

モモ「とりあえず、私達の軍艦に置いてけ。こづいづのは、全部だ！いいな！」

海兵達「」「」「はっ！」「」「」

海は作戦を言ってる時こづ、言ってた。

「モーガンの職務室と職務室に繋がっている部屋の物を調べて貰う。」

さすがに、一人じゃ無理だ。

ちゃんと証拠を残さなければ……。」

そして、ガープの部隊は……。

「町」

海兵1「僕は、海軍本部の海兵です。」

モーガン支部大佐を捕まえる為に来ました。どうか、逃げないでください。」

「まあ、町民達はモーガンの事には触れないようにしてるからな。

最初は、支部海兵にしようと思ったけど、

支部海兵じゃあ、信用できないよな。

もしかして、モーガンが指令を出した可能性もあるし。

だから、ちゃんと本部海兵って、言うように。」

と海が言っていた。

それで、町民達は、

町「本部か、本部なら信じてもいいよな。」

どうやら、信じてくれたようだ。

海兵2「今から、一人ずつ事情聴取らしきことをします。

その方が詳しくきけますし。では、前の人からどうぞ。」

ガープの部隊は事情聴取してもらっていた。

海だけだと無理な事を、3部隊にして貰ってたのだ。
簡単で、簡単じゃない作戦だった。

〜2時間後〜

海「あ！戻って来た。」

モモ「終わったぞ。」

ガ「ガハハ。」

海「言葉で言えよ。」

ボ「ごめんな、海。ちゃんと、聞いてきたから。」

海「ありがとう。」

んで、モーガンがもう直ぐ来るから。」

モモ「では、行こう。」

海「ああ、行くぞ！」

「モーガンの軍艦」

モー「なんだ？本部の軍艦と本部の快速船が一つずつあるぞ？」

海兵1「大佐！大勢の海兵が港に！」

モー「お迎えか？ふむ、良い気分だ。」

海兵2「大佐！大勢の海兵の中に、海兵では無い青年がおります
！」

モー「放つとけ」

海兵3「あの軍艦は、本部のガープ中將です！」

モー「ガープ中將はよく東の海に来てるからな。」

海兵3「で、快速船に乗ってきたと思われるのが、
本部のモモンガ中將です！」

モー「！？何故分かる！」

海兵3「大勢の海兵の中に2人がいます！」

モー「（嫌な予感がしてきた）……。
青年は分かるか？」

海兵3「ううん。わかりません」

海兵2「!!!大佐!『白神』です!」

モー「『白神』だと?」

海兵2「はい!間違いありません!(やった!これで、恐怖支配は終わる!)」

モー「(嫌な予感が、当たったな。まさか、『白神』が来るとはな。)」

ガゴンッ

モー「いや、これはどうも。モーガンです。」

モモ「第153支部モーガン大佐を軍法違反として、逮捕する。」

ガ「前から、変だと思ってたんじゃ!」

海「ちゃんと、証拠は、あるからな。

家は……。」

全員「……家?」「」「」

モー「なっ!吹き飛んでる!」

海「俺がやった。」

全員「……えええええー!!!???」「」「」

海「過激だったな……。」

モモ「まあ、良い。海、ありがとうな。」

ガープさん、よろしくお願いします。」

ガ「わかつとる。ほれ、行くぞ！」

海兵達「」「」「はっ！」「」「」

海「あ、斧を何とかしろよ。」

ボ「はい。では、モモンガ中将、ネズミ大佐を。」

モモ「うむ。」

ガ「出航じゃ！」

モモ「それじゃあ、海。ネズミ大佐は、任せとけ。」

海「ありがとう。」

モモ「それじゃあ、出航だ！」

（3日後）

町民「もう、行くのか？」

海「まあな。」

海兵1「また、こちらへ来てください。待っています。」

海「ああ、」

リップー中佐「『白神』こと海に、全員、敬礼！」

ビシッ

海「！！！！　ありがとう！！」ビシッ

リップー「いつまでも無事である事を祈っております！」

海「ああ、じゃあな！」バサッ

リップー「はい！」

バサッ、バサッ

無事に、モーガンを捕まえた海と3部隊。

そして、ネズミ大佐を捕まえたと報告が出た。

この作戦は、シエルスタウンで後に、語られる伝説になったのだ
った。

46 シェルズタウン後編（後書き）

なんか、前回は予定しなかった中編を入れてしまいました。（＾
＾ヾ

昨日、夜遅くに書いてて、父さんに怒られました・・・。

次回「シモツキ村編開始」

47 シモツキ村編〜ゾロと出会う〜

海「あー、ここ、どこだ？・・・・・・岩？

岩が動いてるぞ？上下に。??？」

ゾロは、

「シモツキ村」

そう、シモツキ村だ。

シモツキ村と言えば、ゾロの出身地だ。

その村の丘に見える巨大な岩があるのだが、今、それが上下に動いているのだ。

珍しい光景だ。

珍百景に登録してほしい。できるのなら。

海「・・・！ゾロか！なんだ。え？え？E？なんだって！？
ゾロ！？ゾロって賞金稼ぎじゃなかったけ！？なんている
の！？」

おおー！いー！なんで、いるんだよー！！！

ゾロって、ウルトラ方向音痴じゃあなかったか！？直った
のか！？」

いや、きっと奇跡だ。絶対に奇跡だ！

だってよ、ウルトラ方向音痴の奴が、海のと真ん中から帰
ってこれるかって！？」

いないだろ。ありえないって。俺は信じないからな！

・・・。。

って、今、俺、誰に話してんだ??誰????」

海は混乱しながら、そこへ向かって行く。

ゾ「1・・・2・・・3・・・4・・・5・・・6・・・7・・・
8・・・」

海「(あーーーーー！！！！！)

やっぱり、本物！？偽者じゃなかったの！？

・・・いないよな。こんな岩持てる人っていないよな。

ガープと巨人族以外はいないよな。

え？白ひげ？白ひげは持つ前に、能力で壊すだろ。

でも、あいつつてすごいんだぜ？

57巻の第556話「正義は勝つ！！」の4～5Pに載っ

てるけど、

巨人海兵のロンズ中將を一捻りだぜ！？ありえないって、

巨人族だよ！？

巨人族を一捻りつて、ものすごい腕力をもってるよな。

・・・

って、だから！俺は！誰に！話してんだ！！だ！れ！に！

」

ゾ「45・・・46・・・47・・・48・・・49・・・50。

さっきから気になってしょうがねえのだが、おめーは、誰だ

」？

海「あー、通称『白神』。櫻井 海さ。」

ゾ「！！！？？」

海「あ、道場行っても良い？」

ゾ「ああ。良いぞ。ここだ。」

海「あ、目の前にあった。」

ゾ「（『白神』か……。良いライバルになりそうだ。）」

海「（くいなって、原作通りにもう、いないんだな。）」

海「お邪魔しまー！ー！ーす！ー！ー！！！！！！」

ススススー！ー！ーパンツ！

勢いよく開けた為、道場の中で練習していた全員が、
一斉に此方を見る。
ある意味ホラーだ。

すると、この道場の師範でもあり、故人のくいなの父親でもある、
コウシロウさんが歩いてくる。

コ「こんにちは。静かに開けてくれないかな？」

海「あはは、すみません。」

ゾ「コウシロウさん、コイツ、『白神』です。」

海「コイツってなんだ！？」

ゾ「いいじゃねえか！別に気にするな！」

海「ちよつと、道場を見学させてください。」

ゾ「ああ!？スルーか!？」

コ「ええ、良いですよ。どうぞ、中へ。」

ゾ「師範まで!？」

コ「面白い。櫻井 海さん。通称『白神』。

あなたの実力を少しだけでも良いですから、見せてくださいな。」

ゾ「(もしも、手合わせするのなら、俺とやってほしい。

海の刀を見てみたいからな。

手合わせの時は、よろしくな。」

海の実力を見たい、コウシロウさんとゾロだった。

47 シモツキ村編〜ソロと出会った〜（後書き）

海が混乱している所を書いてみたかっただけです。

そういえば、今日、昼（11：46）に地震ありました。

大丈夫でしたか？

次回「ソロと手合わせ」

48 ソロと手合わせ

「道場」

ゾ「俺は、ソロだ。お前と同じで、賞金稼ぎをやってる。よろしくな。」

海「ああ、よろしく。でも、正確に言うと、おまけなんだけどな。」

ゾ「やってるもんは、やってんだ。」

コ「あの、海さん。」

海「あ、はい。なんでしょう。」

コ「一度、ソロ君と手合わせをしませんか？」

海「何故ですか？」

コ「一度、一度だけでも良いですから、あなたの実力の一部を見てみたいんです。」

「お願いします。」

海「え？あ、あ……はい。」

コ「光荣です。良いですよね？ソロ君。」

ゾ「はい。一回やって見たかったんで。」

コ「では、1時間後に大道場の真ん中で。」

海「はい。」

コウシロウさんは、行ってしまった。

ゾ「俺もまだやる事あるから、後でな。」

海「・・・お、おう。」

ゾロも行ってしまった。

海「（おい、誰が良いと思う？）」

青「（俺とやれよ。能力とか、始解とかしなくて良いから。）」

海「（するか、馬鹿。やったら、ばれるから。）」

青「（そうだな。いつも通りでいいからな）」

海「（いつも通り？・・・分かった）」

〓 大道場 〓

「大道場」と名前がついている通り、ものすごく大きな道場だ。手合わせは、ここでやるようだ。

一足先に海が来ていた。

海「広っ！！まあ、ここでやるのか。すぐ、終わりそうなんだけど……。」

これ言ったら終わりだな。」

ゾ「何がだ？」

いつの間にか来ていたゾロ。

海は気づいてない。

海「え？手合わせしたら、すぐに勝ちそうだなーって、思って。」

ゾ「俺は、六式の「剃」が使える。」

海「誰が？」

ゾ「俺だ。いい加減に後ろを見る。」

クルツ「……！！！」

海「なんだ、来てたのかよ。」

ゾ「終わったからな。刀見せろよ。」

ざわざわ

ゾ「あー、後でな。観客来ちまったようだ。」

海「おー、たくさんいるー。」

弟子1「お前、大丈夫か？」

ゾロ先輩って、この道場の中で、師範に続いて2番目に強いんだぜ？」

ゾ「コイツ、誰だと思う？」

弟子2「え？一般人じゃあ、ないんですか？」

コ「答えは、後にしましょう。

2人とも、真ん中へ。」

ゾ&海「「はい。」」

コ「海さん、構えはしますか？」

海「いや、しませんが。」

コ「そうですか。では、いつでもいいですよ。」

海「（青龍、行くぞ。）」

青「（・・・いいから、早くやれ。いちいち報告すんな。）」

海「（はいはい。）」

コ「始め！」

ゾ「剃！」

シュンッ

ゾロが「剃」を使って、海の背後に回り、刀を振り上げ落とす。
・・・しかし、

海「瞬歩」

瞬歩を使った為、

ゾ「何!？」

空振りとなった。

コ「やりますね。」

海「油断は禁物。瞬歩。」

シュツ、ギラッ

ゾ「うっ・・・、参りました。」(礼)

海が瞬歩で、空振りしてしまい驚いていて油断していたゾロの背
後に回りこみ、

首筋に刀を添え、ゾロが負けた。

コ「今のは？」

海「瞬歩」

ゾ「俺もいつか習得するからな。」

海「あはは、やってみな。」

ゾ「なんだとー！コラ！」

海「『剃』は、どのくらいで習得した？」

ゾ「1年半」

海「ふーん、あのさ、見て分かったと、思うけど、瞬歩の方が早いからな？」

ゾ「わかってる。絶対に習得してみせる！」

海「ああ、分かった。」

コ「言い忘れました。勝者、『白神』の海！」

3人以外「『ええええええええ！？』」「『『』』」

弟子1「マジで！？『白神』！？」

弟子2「なんでそんな奴が！？」

海「あー、コウシロウさん。ここに、一泊して良いですか？」

コ「いいですよ。」

海「ほんじゃ、皆、今日よろしく。」

そう、シエルズタウンからやって来た海。

何故、シモツキ村なのか。

1つ目、東の海は原作通りに行きたい為（島）

2つ目、ここの人達は優しそうだから。

と言う理由で来たのだった。

48 ソロと手合わせ（後書き）

なんか、グダグダですね・・・。

次回「一泊」

短縮していますが、見て頂けると嬉しいです。

（16：30）

＝道場＝

ゾ「いつも通りに、今日も掃除するぞ！・・・、海もか？」

海「ああ。」

ゾ「素直になれよ。任せとけて。」

海「いや、今日と明日の朝までお世話になるんだし。

これくらいはさ。まあ、手伝わせてよ。」

ゾ「・・・ハア。分かった。だけど、頼れよ？」

海「分かったって。もう、俺は14だから、それくらいわかるよ。」

ゾ「そうか。おい！ボケーっとするな！」

弟子達「「はい！」「」「」

海「（いやー、日本人としてそれは無理でしょ。“日本人”と言う肩書き？は捨てられないし。

恐るべき“日本人”と言う肩書きパワー。

しかし、変な所では、發揮して欲しくないな。」

（17：00）

ゾ「よし、掃除はここまで！夕飯作りに行くぞ！」

弟子達「はい！」

海「ゾロ、俺も行って良い？料理は得意だよ？」

ゾ「頼む。いつも不味いんだ。微妙に。」（苦笑）

海「ああ。行こうぜ！」走

ゾ「あつ、待て。」走

（17：10）

海「遠っ！なんでこんなに遠いんだよ！」

ゾ「鍛錬の為だ。改善はしないみたいだしな。」

海「そう。あ！コウシロウさん！今日の夜は？」

コ「手伝うんですか？」

海「料理は得意だからな！」どーん

コ「わかりました。今日は和風です。これを・・・。」

海「ん？鮎の塩焼きと味噌汁とご飯と野菜の炒め物か。」

ゾ「お？鮎か？」

海「そう書いてあるだろ？コウシロウさん、任せてください。」

コ「ええ。」

ゾ「じゃあ、風呂の準備でもするか。お前が1番だからな？」
わ
しゃ、わしゃ

海「お、おう。（なんか、青龍に似てきてるよっな？）」

海は、よく、頭を撫でられる。

“末っ子”とか“子供”扱いされる。

〜18:00〜

海「ゾローーーーー！！！！」

大声で叫ぶようにゾロを呼ぶ。すると、

ダダダダダダッバンッ

ゾ「どうした!？」

海「あー、作り終わった。」

ゾ「そうか。先に食べとけ。眠いだろ？」

海「あはは、正解。」

ゾ「もうすぐ、風呂ができる。・・・お前って熱いの苦手か？」

海「ああ、寝ちまうんだよ。」

ゾ「おいおい。まあ、食べとけ。」ぽんぽん

海の頭を軽く叩くゾロ。

海「・・・いただきます。」

〜20分後〜

海「ごちそうさまでした〜。風呂入りに行こ〜。」

片付けはゾロ達がやるようだ。

49 一泊前編（後書き）

うちもお風呂で寝てしまいます（笑）

だから、苦手です。日本人なのに・・・。（苦笑）

次回「後編」

50 一泊後編(前書き)

ついに、50話突破！イエーイ！
今後、更新がんばりまーす！
それでは、それでは。

風呂場に向かう海。
ガチャ

「風呂場」

海「あ、ゾロ。」

ゾ「おー、ちょうど終わったとこだ。」

海「ふーん、サンキュー。じゃ、俺入る。」

ゾ「おう。更衣室は、そこだ。」

目の前にあった更衣室。しかも、でかでかと書いてある。

海「（こんなに大きく書かなくても分かるだろ。普通に書けばいいのに。）」

早速、服を脱いだ海。

海「寒くないな。ここって、日本に近いから、寒いと思った。」

日本に近いのは何故かは、後々。
ちなみに、只今、風呂場の外の気温は23。結構、暖かいです。

ガラッ

〓風呂場内〓

海「うおっ！蒸し熱っ！まあ、いいや。シャワーは？あ、あった。

」

く10分後く

ザブンッ

今、海は風呂の中に入ってます。

風呂の温度は、37度。たぶん、ぬるい分類に入ります。

海「あゝ、気持ち良い〜。なんか、歌おうかな？うん。風呂・

・風呂……。

あ！「良い湯だな」があるじゃん！」

そう、こういう時、海は（作者もそうです。）眠気飛ばしの為に、必ず何か歌っている。

海「全部歌おうかな？」

どうやら、全部歌う気だ。

読者の皆さんは、歌詞を知っていますか？

海「ババンバ バン バン×4

良い湯だな 良い湯だな

湯気が天井から ぽたりと背中に

つめてエな つめてエな

ここは北国 登別の湯

ババンバ バン バン×4
良い湯だな 良い湯だな
誰が唄うか八木節が
いいもんだ いいもんだ
ここは上州 草津の湯

ババンバ バン バン×4
良い湯だな 良い湯だな
湯気にかすんだ 白い人影
あの娘かな あの娘かな
ここは紀州の 白浜の湯

ババンバ バン バン×4
良い湯だな 良い湯だな
日本人なら浪花節でも
うなるかな うなるかな
ここは南国 別府の湯

ババンバ バン バン×4・・・。
あー、古いな。これ、俺が生まれてない頃の歌じゃね？
いつのдар。まあ、そんなの気にしてる場合じゃないな。」

全部知っていたらどうか。

白「えーと、久しぶりです。ちょっと話したい事が。」

それは、「歌詞」が結構出てくるって事です。そこは、文句
を言わないでください。

文句言われたら、更新スピードが遅くなるかも・・・。
それでは、続きをどうぞ。」

海「あー、30分くらい入ってたかな？そろそろ出るか。
途中から、記憶が無いって事は、寝てたな・・・」

ザバツ トテトテ ガラッ

〓更衣室内〓

ガチャ

海「うお！なんだよ！」

ゾ「あ、今上がったか。」

弟子達「」「先輩、先にどうぞ。」「」

ゾ「いつもすまねえな。じゃあ、入ってくる。海、着替えるよ？」

海「それくらい、分かるから！」

ゾ「フンッ」

海「なんだよ。」

〓10分後〓

海「ふあゝ。眠っ。」

弟子1「（着替えるの遅いですよ。）」

弟子2「（まあ、眠いからだろ。）」

弟子1「(そうだな。)」

海「なあ。」「寝ぼけている

弟子2人「はい!(びっくりした。)」

海「寝る所どこ?」

弟子達「」「目印を書いて置いたので、そこをたどれば行けますよ?」「」

海「ありがとう。」「

ガチャ バタン

弟子1「なあ、大丈夫なのか?あいつ。」「

弟子2「大丈夫だよ。」「

弟子3「そうだよ。」「

弟子1「そうだな。」「

|| 大道場 ||

海「大道場?ここで、寝るのか。俺のは・・・、あつた!」

ちゃんと、『白神』って書いてある。

海「ふあゝ。先におやすみ。ZZZZ」

いつも、12時過ぎに寝る海。

しかし、只今の時刻、22:38

結構、早い。疲れてるし、昼寝をしてない為、早く寝れたのだっ
た。

50 一泊後編(後書き)

次回「シモツキ村編最終話」
今日の内にも更新。

51 翌日（前書き）

ほとんど、会話文。

ゾロ「!!!??」ビクッ

海「俺の安眠妨害した奴！誰だあああ！」

ゾロ「すまない。俺だ。低血圧か？」

海「いや。ごめん。あまりにも、今、気持ち良くて……。」

ゾ「……………」

弟子1「先輩！海さん！師範が……。」

ゾ「分かった。お前らは飯食ってる。俺たちは3人で食う。」

弟子達「……はい！」「」「」

「家」

コ「朝からすみません。」

海「いえいえ。で、なんでしょう？」

コ「刀の事です。あ、食べながらも。」

ゾロ&海「……いただきます」「」

海「この刀は、“斬魄刀”と“降魔剣”なんだ。」

コ&ゾ「!?!?」「」

海「4本とも、強いよ。」

ゾ「あの、伝説の刀が本当にあつたのか!?!?」

海「今、実際にあるから、本当だろ?」

ゾ「ああ。」

コ「世界は広いですね。」

海「うん。(まあ、ここの世界は狭いけどな。)

コ「そう言えば、海さんは今日の9時に島から出るのですか?」

海「いや、予定を早める事にしたんだ。だから、食べ終わったら、行く。」

ゾ「もう、行くのか?」

海「ああ。・・・ゾロ。」

ゾ「海。」

ゾ&海「親友になってくれ!」「」

ゾ&海「・・・。あははは!」「」

海「良いぞ?」

ゾ「こっちもだ！また来いよな。」

海「当たり前だ！他の人達に伝えといてくれ。・・・ごちそうさまでした。」

じゃ、もう、いくよ。」

ゾ「俺は、絶対に“瞬歩”を習得するからな！」

海「ゾロ。その前に、六式すべて習得したらどうだ？」

ゾ「そうだな。じゃあな！」

海「おう！」

海は、次の島へ飛んで行った。

51 翌日（後書き）

なんか決まった終わり方になってるような？
次回「海上レストラン『バラティエ』編開始！」

52 海上レストラン編 ヨサク&ジョニー

あー、暇だなー。誰か、いないかな？

??「おい、貴様！賞金稼ぎか!？」

??「そつだよ。賞金稼ぎさ。」

??「俺たちは、ヨサクとジョニーで有名さ。」

ん？海賊と賞金稼ぎの・・・ヨサクとジョニー!？

えーと、あの海賊旗は、「サボテン海賊団」か。面白そうだな！俺も参加しよー！

海賊「はあ？知らねーな。」

ヨ「東の海の賞金稼ぎさ。」

海賊「俺はな、偉大なる航路から来てんだよ！」

ジョ「何!？偉大なる航路だと!？」

海賊「そうさ、俺様は【サボテン】セコー、サボサボの実を食べたサボテン人間さ。」

懸賞金は、8000万ベリー。海賊団の船長。どうだ！

俺様は、東の海を縄張りにしようと思ったんだ！良い考えだろ？ホニー？」

ホニー「ああ、船長、良い考えだ。俺は、海賊団副船長。」

人間。

【ハチミツ】ホニーだ。八二八二の実を食べたハチミツ

懸賞金7500万ベリ。覚悟しな。」

ヨ「トータル「ちょっと、僕がいる。」誰だ!」

フォー「僕は、幹部のフォー、メンメンの実を食べた麵人間。

懸賞金7000万ベリ。デハハハ!覚悟はあるか?」

ジヨニー「トータルバウンティが2億2000万ベリ!」?

海「なんだ、3人でそれくらいかよ。」

セコー「貴様は!.....!?は.....はく.....」ガタガタ

ホニー「船長?」

セコー「野郎ども!退散だ!」

フォー「なんで!」?

セコー「『白神』だ!勝てねえよ!」

全員「.....はああ!」?」?」?」

海「逃がすか。縛道の一塞」

セコー「これが!」!

フォー「解け!」

海「無理だな。2人手伝ってくれるか？」

ヨ&ジヨ「おう！」

海「海軍基地行く？」

ヨ「当たり前だ！」

海「じゃ、行ってきて。俺、海上レストランで待ってるから。」

2人「お・お・おう。」

海「じゃあな、待ってるよ〜！」

ジヨ「行っちゃまったよ……。」

52 海上レストラン編 ヨサク&ジヨニー（後書き）

短いよー！

次回「海上レストラン『バラティエ』再びガーブ登場！」

53 首領・クリークとガーブ部隊（前書き）

祝PV10万突破!!! イエーイ!

53 首領・クリークとガープ部隊

「軍艦」

ガ「 #%「バリバリ

海兵1「あ！ガープ中将！！！！甲板で煎餅を食べないでくださいよ！

雑用が困った顔をしていますよ！

あと、食べながら喋らないで！何言ってるか分かりません！

ガ「&# ¢# 別に良いじゃろ！」

海兵2「よくありません！」

見張りの海兵1「中将！空から、何か来ます！」

一気に緊張ムードになる、海兵達。

バサツ、バサツ

海「ハ口〜！」

ボ「びっくりさせないで下さいよ、海さん。」

海「ん？どうしたの？」

ボ「いきなり、空から猛スピードでこっちに何かが来たら、緊張するでしょ。」

海「あはは、ごめん。疲れたからさお邪魔しようって。」

ガ「なんじゃ、そういう事か。わしらは、ハサボテン海賊団を探してたんじゃ。」

海「あー、それなら、さっき倒したぞ？賞金稼ぎの2人組を見つけたけど、

困ってたからさ参戦したんだ、あの2人は今基地に居ると思
うけど、換金中で。」

ボ「そうですか。」

ガ「出番無しか。」

見張り「前方に海賊船！首領・クリークの艦隊です！」

ガ「砲弾は？」

ボ「もう、ありませんよ。一つもありません。」

ガ「なんじゃとー！ー！」

海「はあ。（黒鷹、聞えてるか？）」

黒「（なんだ？出番？）」

海「（そう、出番だ。闇を出して、一気に潰そうかな？って。）」

黒「（いいぞ？そんな簡単な事は朝飯前だ！いつでもいいぞ！）」

海兵1「中将!どうしますか!?!」

ガ「しばらく、様子を見るんじや。砲弾飛んできたら、ボガード、よろしくな。」

ボ「はい。もちろんです。」

しかし、艦隊はここに一直線に向かってきてる。
ドーン!

ついに、砲弾まで飛んできた。

スパーン

ボガードが砲弾を斬ったから軍艦には傷が無い。

海「はあ、これじゃあ向こうの砲弾切れを待つしかないだろうが。

(黒鷹、本船以外の船を潰すぞ。)

黒「(了解!)」

海「ちよつと、行ってくる。“瞬歩”」

海兵2「え!?!あ!ちよつと!海さん!?!」

海「いくら、50隻以上の艦隊でも、斬魄刀には勝てないだろ。

(黒鷹!よろしく!)」

海は、艦隊の中央の位置の海上に降り立ち、刀を抜いた。

首領「んあ?刀?」

海に刀を突き刺す。まるで、氷の上から突き刺すように。
すると、刀から黒い液状のような物が本船以外の周りにくっ付いていく。

だんだん船が沈んで行く。

「その時軍艦では」

吃驚していた。

ガ「なんじゃ！あれは！船が！」

ボ「なんですかあれは！」

海兵2「船が！沈んで行く！？」

海兵1「50隻以上もある艦隊が！」

海兵3「あれ？本船だけ残ってる？」

海兵2「本当だ！」

「その時本船では」

首領「はあ！？なんだ！あの黒い液状のような物は！」

ギン「闇じゃねえのか？」

首領「馬鹿言うな。刀から闇が出るわけ無いだろ？」

ギン「じゃあ、なんで船が船員ごと潰れていくんだ？」

首領「何—————！！！」

〓海上〓

海「おーおー、混乱してる混乱してる。これが目的だけど。」

黒「（もう、開放して良いと思うが・・・）」

海「そうだな。開放!!」

ブワツ ガラガラ、バツシャン!!

海「うわー、なんか、黒ひげになった気分だよ。何この感覚。」

一気に闇が盛り上がり、瓦礫となった船が宙を舞い、海に落ちた。

海「本船行くか。」

〓本船〓

ギン「首領^ト、やった張本人が来るぜ?」

首領「あの野郎!俺様の力を思い知らせてやる!」怒

海「そんなに怒るなよ。」

と、言いながら斬魄刀を振り、船員を斬っていく。

ちなみに海の格好は死覇装を着ている。

首領「貴様!なんて事しやがる!」

海「まあまあ、落ち着けや。お前は今、何しようとしていた?」

首領「海軍の軍艦を打ち落とそうとしたただけだ！ 貴様は海兵か？」

海「いや、全然違う。一応賞金稼ぎだ。たまたま、あの軍艦に乗っててな？」

しかも、あの軍艦は、海軍本部のだぞ？」

ギン「海軍本部か・・・。」

海「そう。しかも乗ってて、一番偉い奴が海軍本部中将の“英雄”ガープ。」

首領「はあ！？ なんでそんな奴がここに！？」

海「まあ、ガープが、ここ、東の海出身だからよく来るんだよ。」

首領「知らなかったぜ。・・・って、違う！ お前・・・と・・・！？」

ギン「首領ト、一からやり直そうぜ？ その方が良い。だろ？」

『白神』の海さんよ？」

海「ああ。その方が良いぞ。今回は見逃してやるよ。」

しかし、次回、こんな事したら、ただじゃ済まされないからな？」

ギン「ありがとう。行こう。」

首領「分かったよ。」

海「それで良い。もうやるなよ。よし、軍艦に戻らないと。」

〓軍艦〓

海「ただいま。」

ボ「海。おかえり。今のって、“斬魄刀”か？（まあ、そんな訳無いよな。）」

海「ん？そうだけど？」

ボ「！？」

海「なあ、なあ、どこ向かってんの？」

ガ「海上レストランじゃ！」

海「お！ちょうど、俺も行くところとしてた所だよ！行くっ、行くっ
っ！」

〓海兵達の休憩場所〓

海兵1「はしゃいでる所、可愛い！」

海兵2「このギャップがな。」

海兵3「ジヨナサン中将が、「海の頭を撫でるのは夢中になる。」
って、言ってた！」

海兵2「触ってみたい！」

海兵4「まあ、そうだけどな。」

少尉「大丈夫じゃないのか？」

ドレイク少佐によると、「人懐っこい性格を持つてる」「って言っていたが。」

海兵1「サン少尉！それは、本当ですか！？」

少尉「ああ。」

海兵1「絶対に！」

海兵達は何故か触りたがっている。

軍艦は、海上レストランへ向かっていた。

53 首領・クリークとガープ部隊（後書き）

疲れたら、よし！アイス食べよう！

そこ、突っ込まないで！うちは、一年中アイスを食べてるから！
次回「サンジ登場」

54 ゼフとサンジ・再びガープと口喧嘩（前書き）

実は、バラティエ編（原作）は、あまり知りません。

54 ゼフとサンジ・再びガープと口喧嘩

「バラティエ」

ヨ「ジヨニー、今日は、大儲けだな！」

ジヨ「ほとんど、海のおかげだろうが。」

ヨ「それにしても、遅いな・・・軍艦？」

??「客か。」

ヨ「ん？」

「軍艦」

海「お！いたいた！」

ガ「ぶわはっはっはっは！行くぞい！」

海「お先に失礼！」

海は、軍艦の淵に足を掛け、そのままバラティエに向かってジャンプした。

海「ヨサク〜！ジヨニー〜！」

着陸は成功したようだ。

??「白神？」

海「ん？ゼフだっけ？」

ゼ「そうだ。あの軍艦は？」

海「ガープ」

ゼ「ああ、あいつか。」

ガ「赤字か？」

海兵達が戦闘態勢になる。ボガードは、刀に手を置いてる。

ガ「おぬし、生きておったのか！死亡説も出てたのにの〜。」

海兵1「中将！今は料理長でも、元海賊ですよ！」

海兵2「しかも、賞金首だった人ですよ！捕まえないのですか！？」

ガ「・・・大丈夫じゃ。食べに行くぞ。客じゃ。」

ゼ「チビナス、連れて行け。」

サ「分かったよ。こっちだ。」

ヨ&ジヨ「俺たちも、行くか。」

海「あ！ちよつと待てよ！」

ガシッ、ガシッ

海「え！？なんで！？なんかいけない事した！？」

海は、海兵達に肩を掴まえられている。大勢の海兵達に。

海兵2「行くのか？」

海「あのな、大丈夫だって！俺、さっき何もされなかっただろ？」

海兵3「そうだが・・・。」

海「ほんじゃ、食べに行こうよ！」グイグイ

海兵達の袖を引っ張る海。強制的に連れて行くようだ。

海兵1「しょうがないな。」

ボ「ガープさん。寝てるよ。」

海「ったく。」（ニヤリ）

ボ「（また、なんか考えたな？）」

海「（消火器で頭殴ってやる。）」

なんでも入るリュックから、普通に家にある消火器ではなく、それよりちよつと大きい消火器を取り出した。スーパーにある、消火器と同じくらいの大きさだ。すると海は、消火器を持ち上げ、ガープのちよつと真上の位置になるように調整し、高さを1mになるよ

うにした。

海兵1「何する気だ。」

ボ「いや、分かるでしょう。あれで、殴る気ですよ。まあ、席に着きましょう。」

海兵達は席に着く。そして、傍観している。

海兵4「ボガードさん、止めないのですか？」

ボ「いつも、暴動らしき事を起こしてるので、たまには逆の立場になって貰いましょう。」

ちよつと良い薬かもしれませんよ？」

ボガードの言葉で、納得した海兵達は出された料理を食べ始める。

その頃、海が居る所では・・・。

海「（まだ、起きないのか？もう、殴りたいんだけど！）」
すると。

ガ「なんじゃ？お！いかんいかん。寝ておったわい。」

海「（よし！今だ！）」（ニヤリ）

ブンツ、ゴーーーーーン！

消火器をガープの頭に向かって振り落とした。振り落とす速さは良い方だ。しかし、重力には、逆らえないから、もつと速く落ちていく。そして、見事に命中した。

ガ「!!!!!!!!!!!!!!!!????????????」ふらふら

結構重い消火器がものすごいスピードで、後頭部に落ちてきたから、さすがのガープも脳震盪を、起こしていた。

真似しないでください。夢の中だったらいいけど。

ボガード＋海兵達サイド

海兵2「痛そ〜。」

ボ「やりすぎですよ。でも、良いか。殴られた気分を味わってください、ガープさん。」

海兵1「中將の拳骨より痛いよ、あれは、絶対に！」

料理人達サイド

ゼフ「拳骨の気分を味わえ。」

サンジ「うわー……。」

他の料理人達は、痛々しい光景に声が出ないようだ。

海＋ガープサイド

ガ「海か!？」

海「復活すんの早っ!?!もう一発やるか?」

ガ「とにかく、落ち着くんじゃ!

(機嫌がヤバイわい。しかし、もう一発食らったら、流石のわしでも、死ぬわい。

何か方法は無いかの?誰か、助けてくれ。)

ゼフ「いい加減に、機嫌を直せ。外の空気吸って来たらどうだ？
いや、チビナス。料理を、外に持って行け。チビナスも、
外で食べたらどうだ？」

海「わかった。」

サンジ「こっちだ。」

ガ「すまない。助かった。」

ゼフ「ふん。」

「外」

サンジ「ここだ。ほら、料理だ。俺の自信作だ。」

海「うおー！うまそー！」キラキラ

サンジ「俺も食うか。」

海「いただきます！」もぐもぐ

サンジ「お前って、『白神』の海か？」

海「そうだよ？君は？」

サンジ「サンジだ。ここの副料理長をやってる。どうだ料理は、
おいしいか？」

海「ああ！こんなに美味しい西洋料理初めて食べた！」

サンジ「そうか。それは、よかった。」

海「なあ、なんか夢ってあるの？」

サンジ「夢？あるさ！なあ、オールブルーって知ってるか？」

海「5つの海の食材が集まる所だろ？」

サンジ「お！知ってんのか！？俺は、そこに行きたいんだ！」

海「頑張れよ。」

サンジ「ああ。」

海「サンジ、友達になろうぜ？」

サンジ「良いぞ！」

海「一つお願いしても良い？」

サンジ「なんだ？」

海「レシピ教えて！俺、料理は得意なんだけどよ。」

サンジ「ちょっと、待ってな！」

タッタッタッタッタッタ

〜2分後〜

サンジ「これをあげるよ。レシピだ。これを見ながら作るといいぞ?」

海「ありがと〜!」ガシッ

サンジ「うお!いきなり抱きつくなよ!」(まあ、いいか。違う世界から来たもんな。)

サンジ「ん?海、あのじいさんが呼んでるぞ?」

海「え?」

〓中〓

海「なんだよ。」

ガ「なんで、わしだけ・・・わしだけ・・・なんで、わしだけなんじゃ!」

海「はあ?????なんの事さ?」

ガ「なんで、わしだけ、そんなに冷たいんじゃ!」

海「……………」(呆れてる)

ガ「海兵達やボガードとは仲良く話して、料理人達にも仲が良く

なつて。

おまけに、そいつと抱きついて！わしは・・・わしは・・・わしは・・・。

わしは！その変な物体で頭を殴られただけじゃないか！！！！
シクシク

海「変な物体じゃない！消火器だ！あと、泣き真似すんじゃないか！！！！
！！！！」

ガ「なんじゃと！！おぬしは、わしの孫じゃろ！！」

海「はあ！？馬鹿か！？いや、馬鹿なんだな。」

ガ「絶対に海軍に入れてやる！」

海「ふざけんな！！俺は、行く所があるんだよ！！」

ガ「付いていくもん！！」

海「~~~~~っ！！もついい！！後悔させてやるからな！！」

ガ「ふん、やってみるんじゃない！」

ボ「（また、変な方向に。あとで、海と話をしてみますか。）」

54 ゼフとサンジ・再びガープと口喧嘩（後書き）

もう一回更新する予定。

次回「愚痴大会」

55 愚痴大会とTVスタッフ?と、サンジ、仮海軍入隊(前書き)

これ、暇つぶしみたいなものです。
おまけ的な。

55 愚痴大会とTVスタッフ?と、サンジ、仮海軍入隊

ポ「ガープさん。」

ポガードが手招きしている

ガ「なんじゃ?」

ポ「ガープさん、疲れてるでしょう?だから、軍艦に戻って、寝て良いですよ?」

ガ「すまないの。じゃ!遠慮なく失礼するわい!」スタスタ

ガープは軍艦に戻って行った。

ガ「誰じゃ!この、ナレータ役は!」

仁「俺だけど。何か。」

ガ「呼び捨てにするんじゃない!さんを付ける!」

仁「はあ。「困

ガ「じゃ、もう一回!3・・・2・・・1・・・(どんぞー!)」

(仁)じいさんは「カーーーット!」

仁「何?」

ガ「言つとおりにするんじゃない!」

仁「いや、「さん」付けだろ?」

ガ「違うわい!」「ガープさん」じゃろ!もう一回!3・・・2・・・
・1・・・(どうぞー!)」

(仁)じ・・・ガ「NOー!」

ガ「詰まったじゃろ!もう一回!3・・・2・・・1・・・」

(仁)ガープさんは軍艦へ戻って行つた。

ガ「・・・カット!これで、いいんじゃ!じゃ、寝る。ZZZ

Z

仁「ったく、なんだよ、このジジイ。年寄りには、大人しくしてろ
つて。」

海サイド

ボ「で、何を?」

海「愚痴大会ー!ー!第一回開催ー!ー!」

海兵1「ストレス発散みたいなの?」

海「そうそう。では!そんじゃ、お前から!」

海兵2「僕から!?・・・言いますよ?

僕が2年目になった時、

ガープ中將がこの前僕を砲弾と間違えて投げたんです!

そのまま、気づかれなかったんですよ!ガープ中將が!」

海兵1「あの時は、ビックリしたよ。俺たちは気づいたけどな。」

いちいち、海兵って書くのがめんどいので、省略。(1とか2とか。)

4「気づいたのが、10分後だったな。」

ボ「ボケてるんでしょう。」

海「いや、もうボケてるよ。普通、投げたら分かるでしょ、触り心地が違うと思うし。」

あ、お前の名前は?」

2「ミノです。階級は1等兵です。」

海「膝貸して?」

2「え?良いですけど。」

海「よっと。なんか、このまま、寝ちやいそうだな。」

2「(お!本当に人懐っこいかも!)海さん、頭、撫でてもいいですか?」

海「喜んで!気持ち良いからな!撫でられるのは好きなんだ!」

2「ありがとうございます!(やったー!)」

4 & 1 & 他「「「「（ずるい！）」「」「」

ボ「後は、本部に居る時だけど、人使いが荒いんです。あつ、軍艦でもそうですね。

煎餅を持って来いだの、書類をやれわしは寝るだの、もう、さんざんですよ。」（苦笑）

海「確かに、それはひどいな。」

4「俺は、青雫大将に、書類やれって言われてさ、期限ギリギリに終わったら、

また、頼まれて期限前に終わったら、

またまた頼まれたから、期限の後に終わらせたら

大将から「駄目でしょう、俺が偉くできないし、サカズキに怒られるし、

寝れないじゃないの。また、頼むからね。うん、移動する？

あーでも、ガープさんにおこられるな」って言って、

俺は絶対にそこには行きたくないと誓いました。

後、大将を見つけると遠くに行くようにしています！

最悪ですよ、もう。」

海「うわー、そいつ、上司失格じゃん！」

4「しかも、「だらけきつた正義」ですから。」

海「うん、駄目だ、ありゃ。」

4「海さんありがとうございます。ストレス発散できました。」

海「良かった。」

（青雉、お前を見つけたら、仇うつてやるから、覚悟するんだな。）

と、そんな風に進んでいく愚痴大会。
しかし。

ガ「何やつとるんじゃ？」

海「（起きやがった。）なんでも無い。どっか行け。」

ガ「！？」「ガーーーーン！」

海「もう、夕方か。サンジ！」

サンジ「なんだ？」

海「お前って、海軍とか入るの？」

サンジ「入って、夢を叶えたいけど・・・。」

ボ「入っても、良いですよ？コックが不足してるので。」

サンジ「本当か！？今から、支度して来る！」

「中」

サンジ「今まで、クソお世話になった！」

ゼフ「行ってきな！死ぬんじゃ無いぞ。」

サンジ「俺は、死なねえよ！」

「軍艦」

サンジ「今日から、お世話になる！」

海「出航しようぜ！サンジ、こっちだよ。」

サンジ「ああ。」

ガ「出航じゃ！」

55 愚痴大会とTVスタッフ?と、サンジ、仮海軍入隊(後書き)

まさかの、サンジが仮海軍入隊!

次回「ココヤシ村編開始!ナミ登場!」

そして、今日、練馬区の最高気温30 超え!?

後、次回は今日更新する予定。

56 コロヤシ村編〜見張り役〜(前書き)

ナレータはあまり気にしないでください。

こう言っの苦手だから・・・。

後、1〜10巻までをBook Offで纏め買いしました。

ナミが出てきません！期待していた読者の皆さん！本当にごめんなさい。

明日、更新します。後、今回は短いです。

56 コロヤシ村編〜見張り役〜

「軍艦」

艦長室では……。

ガ「(ひどい！なんで、わしだけ、冷たいんじゃ！)」シクシク

ガープは、艦長室で泣く泣く書類を片付けていた。

(仁、まったく反省無し！)

場所が変わり、食堂では……。

サ「飯、できたぞ〜。」

2「おお！あの、食材でこんなのできるのか!？」

コック「すばらしい。さすが海上レストラン副料理長。

しかも、大量の料理を素早く作るなんて……

海軍本部のコックになるね君は。」

サ「マジですか!？」

(よっしゃー！海軍本部に綺麗なお嬢さん達が居るといいな

〜。v v)「

コック「君は……、食べ終わってるのかな？」

サ「食事なら終わったが。」

コック「そうか、今は、作るのに専念してくれ。後で、中將が来

るからね。

中将は、物凄い量を食べるからな。1日5食だよ、基本的に。

だから、ここはコックが多いんだ。

海軍本部は、たくさんいるから、不足してるんだ。巨人族もいるし。」

サ「頑張ります！」

（作るのは楽しいからな。でも、女性達には、スペシャルコースを・・・(妄想中)）」

コック「大丈夫か？目がハートになっているような？幻覚か？」

今、食堂には、ガープと海以外の人達が食事をしている。で、海は今何をしているか。

「甲板」

海「あー、俺、海兵じゃないんだけど・・・。しかも、酔ったし・・・。うう。」

何故、見張り役をしなければならぬ！まあ、ガープが居ないからいいか。

あの人、戦闘以外役に立たないからな。戦闘以外の時は、粗大ゴミだもん。

たしか、誰かに言われてたよな？「この、筋肉脳が。」って。誰だ？

まあ、いいか。」

甲板で、見張り役をしていた。

海は愚痴を言っている。たまに、ジョン・マクレーン並になる。

え？ジョン・マクレーンって何？って？

映画「ダイハード」の主人公だよ。不運の刑事。

ブルースがやってるんだよね。

（作者から）

今日は、短いです。「ダイハード」は昨日やってみました！

日曜毎週（10月のみ）やってるよ！アクション映画大好きです！

はい、関係無いことをかいてしまいました。すいません。

今、眠いので（寝ぼけ状態）続きは、次回で。

56 コロヤミ村編〜見張り役〜(後書き)

次回「続き」

57 海賊船に居たナミ発見！（前書き）

昨日は、すみません。

今回は、タイトル通りにナミが登場します。

海賊船を見つけて、戦っている時に発見します。

57 海賊船に居たナニ発見！

〓 食堂 〓

海「あー。食べ終わった？」

見張り「ごめんな！交代だ。おい！交代の時間だ！」

海「見張りって何人居んの？」

見張り「ん？昼は、雑用が担当なんだ。僕は、雑用だし。」

海「夜は？」

見張り「新兵のみだよ。」

海「へへ。頑張れよ！」

見張り「ああ！（なんか、この子、強そう。）」

海は、いつの間にか食堂に居た。そりゃそうだ。1時間も見張り役をしていたのだから。

サ「海、遅いぞ。飯なら、あのじいさんが全て食っちゃったが・・・どうする？」

海「自分で作る。料理は得意って言っただろ？」

サ「ああ、何作るんだ？」

海「あ！インスタントがある！」

サ「インスタント？」

海「ああ！サンジ！湯、沸かしてくれないか？」

サ「？分かった。」

そう。なんでも入るリュックの中に、インスタント系の食べ物が大
量に入っているのだ。

しかも、使ったら減り続かなく、逆に数が戻る。ゴミ？を戻すと、
だが。

「不思議なりユック」と、誰もが思うはず。

これは、海が中学生になった時に、夢でゼウスに会い、起きたら、
布団の横に置いてあったのだ。

〈夢〉

海『ゼウス』

『ここは？どこだ？夢？』

「おーい。海よ。」

『ん？後ろ？・・・あんた誰？』

「なっ！わしを知らないとは。」

『だーかーらー、誰なんだよー。』

「わしは、神。名前は、ゼウスじゃ。」

『ゼウス？聞いた事無いよー！。』

「みたいじゃの。海、家族はいるか？」

『居ないよ。聞いた所、生まれて5年がたった時に、突然親が居な
くなったとか。』

「すまないの。わしなんじゃ。それを行ったのは。」

『はあ！？どう言う意味だよ！じゃあ、俺の親は、どこに居るんだ
よ！！！教えるよ！！』

「ここに居るじゃろ？海の親は、わしじゃ！」

なんと海は、ゼウスの息子だったのだ。

「わしの息子だから、特殊能力も付け、運動神経も良くしたんじゃ！」

『ええ！？じゃあ、俺は、神の息子！？』

「そうじゃ！それでの、中学生になる記念に、このリュックを与える。」

『リュック？』

「なんでも入る、リュックじゃ！四次元リュックじゃ！」

決して、ドラえもんの真似では無いぞ？」

『なあ、ゼウス。俺、頭を良くして欲しかったよ。』

「大丈夫じゃ！今、準備中だ！来年の春に完成する予定じゃ！」

「そこまでは、自力で頑張れ！」

『お、おう。』

「お？もう、時間じゃ！また、呼ぶからの。ほれ！行って来い！」

と言う、出来事があったのだ。

しかし、海は予測ができなかった。

まさか、それがトリップしてからなるとは思いつかなかっただろう。

話を戻そう。

サ「海！湯、沸いたぞ！」コトツ

海「サンキュー」

カップラーメンだ。「マルちゃんのごつ盛り、ワンタン醤油」

海の好物の一つだ。カップラーメンが。

ズルズルズルツ もぐもぐ

海「フアンジ！ふゆずひょうじゃい！」もぐもぐ

サ「あ？口の中に食べ物入れながら言うな！」

3「あはは！何言ってるか、分かんねーよ、海。」

ボ「もしかして、「サンジ！水ちょうだい！」じゃないか？」

海「ひゃふが・・・ゴクンツ。さすが！ガープの補佐だ！」

ボ「いえいえ。って、ガープさん！いつまで、食べてるんですか！！

書類仕事してください！」

ガ「いやじゃ！食べたら、寝るもんねーだ！」

海「ふおどもふあひよ。ふあーふ！ふえんじえふおっしゅつふるふよー！！」

ガ「??？」

ボ「海。食べながらは、駄目ですよ？」

（もう、ガープさんから、海の補佐をしたい。）

3「なんていってました？海。」

ボ「子供かよ。ガープ！煎餅没収するぞ！！」だそうです。ガープさん？」

ガ「なんじゃとー！それだけは、勘弁してくれ！

じゃが、マナーが悪いぞ？海？」

海「ふおはえには、ひはれふあくふあい！」

ボ「お前には、言われたくない！」です。」

ガ「なんでじゃ！」

3「（いや、わかんないの？）」

海「ふあいかい、ふいふおのふいふらふあすふあんだには、ひはれふあくふあい！」

ボ「毎回、食い物食い散らかすあんたには、言われたくない！」

だそつです。まあ、確かに。」

ボガードが海の通訳をしている。ちなみに、海の通訳ができる人のほとんどが海軍所属。

海賊も、居るが。白ひげ・サッチ・ビスタ・ベン・マルコ・ジヨズだ。今の所確認（海賊）できるのは、この6人だ。やっぱり、常識人は分かるようだ。通訳をしている。

ガ「ボガードも、ひどいぞ！」

海「ふあーいえり「食べ終わってからにしましょう海。「ふあい。

もぐもぐもぐもぐもぐ・・・ゴクンッ。ご馳走様でした！

あー、そういえば、砲弾なかったら、こいついらねえなっと思つて。」

ボ「確かにそうですね。」

海「だから、もう、出番ないから！艦長室で、書類片付けてる！」

ガ「人使いが、荒いぞ！海！」

海「うるせえ！！煎餅食われなくなったら、片付ける！」

ちなみに、煎餅は、ここにある。

もし、やっていないって、海兵が言っていたら、一枚ずつ食っていくからな！」

ガ「分かったわい！」ダダダダダダッ

ボ「行きましたね。」

海「うん。あいつ、邪魔。」

ボ「（こりゃ、嫌ってるな。）」

6「ボガードさん！前方に海賊が！」

ボ「すぐ行きます。班に分かれて「魚人です！」魚人？アーロンなら、つかまつただろ？」

6「別の魚人です！」

海「俺も行く！」

ボ「足手まといになるなよ？」

海「大丈夫だ！」

「甲板」

前方、後方、左、右には海賊船が。

見事に囲まれてしまった海軍と海。しかも、魚人だ。

しかし、マークが、「アーロン」のノコギリザメのマークなのだ。
すると。

??「貴様ら！海軍本部の海兵ら！船長のアーロンさんをよくも！」

??「俺は！いとこだ！ほとんどが鮫の魚人さ！E・Sも、
エネルギー大トロイド

飲んだからな！人間の20倍以上の力を持つてる。」

海「全員下がってる！！俺が、片付ける。」

??「貴様は？」

海「さあ？」

??「まあ、いい。」

海「（銀虎！電氣流すぞ！）」

銀「（いつでもええよ？）」

海は、死覇装の格好になる。

??「なんだ？」

「????」「何をするつもりだ?」

海「お前ら、海でやるうか。俺も行くから。」

「??」「ハツ、いいぜ?」

一方、海賊船では……。

ナ「何やってんの? 魚人相手に海は死ぬだけよ?」

で、海では。

「??」「なんだよ。貴様、能力者か? しかも、刀持ってるし。

意味無いんだよ! 魚人相手にはな!」

海「……。普通の刀では無いのだが。」

「???」「いつでもかかって来い!」

海「行くぞ銀虎! 雷鳳!」らいほう

その字の通り、雷で出来た鳳凰が、魚人たちに向かって突進して行く。

魚人でも、電気は、苦手だ。水はよく電気を通すから。

「??」「!!!」まずい! 船にあgがああああああああああ!!!」

「!!!」

魚人たち「」「」「あああああああああああ!!!」

「」「」

海賊船では。

ナ「なんなの!?? 女の子! 魚人達が全滅してる! 一旦、村に帰ろう。」

そして、ゲンさんに報告しないと……。
ナミは、喜びと驚愕が混じっている。

海「ん？残り？」

ナ「！？あんだ誰……よ……。」

海「なんだ、人間じゃん。君さ、ナミでしょ。君の村は、ココヤシ村。」

ナ「それがどうしたのよ！」

海「俺、そこに行きたいんだ。お願い！案内して？
上目遣いをお願いする海。」

ナ「しょうがないわね。いいわよ。」

（あんな、かわいい顔で頼まれたら、断れないじゃない！もう。

）

海「行こう！行こう！」グイグイ

ナ「あ！待ってよ！」

〓軍艦〓

海「ただいま〜！って、どうした？」

海兵達「」「これ……お前が？」「」

海「え？あー、そっだよ？」

海兵達「「やりすぎだろ!」「」

海「いや、そうじゃないと、倒せないぞ? な! ナミ!」

ナ「え!? あ! そうよ!」

ボ「誰だ。」

海「ココヤシ村の住民。人質だったみたいだよ。名前はナミ。」

サ「ナミすわあ〜んVV貴女みたいなレディに会えて光栄です!」

海「お前・・・」
「ゴンッ

海は、サンジの頭に拳骨をする。

ナ「なんなの、この人・・・」

海「気にするな。気にしたら人生終わるぞ。」

ナ「分かった。ココヤシ村のエターナルポースよ。」

海「おう。ありがとう。あとで、返すから。」

ナ「当たり前よ!」

海「おーい! 航海士! これで行け!」

8「え? あ。はいはい。(人使い荒いよ! もう。)」

軍艦は、ココヤシ村に向かっている。

ココヤシ村には、東の海いや、偉大なる航路・新世界以外の魚人がいる。

海の目的は、ただ一つ！

「魚人を倒す事！（今は、ココヤシ村の魚人のみ）」

57 海賊船に居たナニ発見！（後書き）

次回「東の海の魚人、全滅！」
久しぶりに長いの書きました！

58 東の海の魚人全滅（前書き）

うん。東の海で100話行くのか？

予想ではいかなさそうなんだけど・・・。あ！番外編入れよう！

うん！それで行こう！

58 東の海の魚人全滅

ココヤシ村の港には、海とナミなどを乗せた軍艦が到着していた。

「ココヤシ村」

ナ「ここよ！私の故郷よ・・・。」

海「ボロボロだな。誰・・・魚人が？」

ナ「そうなの。魚人が荒らしたの！」

海「そうか。」

ナ「あ！こつちよ！」

海「ボガードさん。残りは、復興作業をしたらどうですか？俺はちよつと用事があるので。」

ボ「ええ。そうですね。ガープさんは寝てもらいます。終わったみたいなので。」

海「じゃ、行くね！後で来るから！」バイバイ

ナ「ほらほら、こつちよ！」

3分位歩いていると。

ゴングンツ！バンツ

ナ「ゲンさ〜ん！ノジコ〜！ただいま〜！」

ノ「ナミ！？おかえり〜！」（嬉泣）

ゲ「おかえり。……で、さつきから、玄関にいる青年は？」

ナ「『白神』の海。櫻井 海よ！魚人達を一発で殺したのよ！すごいー！」

ゲ「（一発か。噂通りに強いんだな。）で、海君は何をしに来た？」

海「この村にある、魚人達の拠点はどこだ。」

ナ「ちよっ！あんた、あそこに行くつもりなの！？残りは、幹部達だけよ！？」

幹部は、そこらへんにいる魚人より強いのよ！？」

海「ナミ。さつき俺が勝つただろ？あの刀使えば、勝てるさ。魚人でも、電気は苦手さ。」

ゲ「右にまっすぐだ。」

海「ありがと！」ダダダダダダ

海は、池？プールに向かって走っていく。もちろん、死覇装の格好だ。

ナ「ゲンさん！？」

ゲ「あいつの目は、決心していた目だった。たぶん、海が村を救ってくれるはずだ。」

ノ「あの子、軍艦から、降りてきたよね。海兵？」

ナ「違うみたい。詳しいところは教えないみたいよ。残念。」

一方、海は・・・、

魚人1「なめてんのか？」

海「・・・。」

もう、戦いが始まっていた。

海の周りには、たくさんの死んだ魚人達。幹部だが。

残りの幹部達は、顔に青筋を立て、海を睨んでいる。

海は、怯んでない。逆に、余裕な態勢をしている。向こうは、戦闘態勢なんだが。

魚人2「どうした？恐くなったか？シャハハハ！」

この、クズが！魚人に勝てる訳無いだろ！シャハハハハハハ！

海「うるせえ、雷！」

海は、普通の10分の1程度の雷を魚人達に向かい撃つ。

魚人2と他「・・・・・・・・・・・・」

簡単に、死んで逝った。

やっぱり、いくら進化した魚人でも電気とか、核には勝てはしない。STRONG WORLDに出てくる、エレキ鳥の「ビリー」は、結構進化した動物たちの中でも強い分類に入っていた。エレキ鳥は電気の能力を持つてる。どんなに強い生物でも、電気には勝てない。

海「あー、なんか無駄な時間だったなー。」
再びゲンさん家へ戻る。

海「ただいま！」

ナ「本当に倒したみたいね。」

ノ「本当に助かったよ。ありがとう。」

海「おう。俺は、海兵達がいる所に行かなきゃいけないから、じゃあな！」

58 東の海の魚人全滅（後書き）

短いです！

しかし、タイトルが魚人全滅なんで、ここで一旦終了。

次回を今日更新絶対にする！

次回「復興作業」

59 復興作業開始！（前書き）

なんか、ココヤシ村編の中に、復興編が入ってる・・・
まあ、気にしないで下さいな。 （苦笑）

59 復興作業開始！

「港」

ボ「今のは……??」

たぶん、海が斬魄刀から放った小規模の雷を見たのだろう。ほとんど……いや、ほぼ全員の海兵達が呆然と口を開けていた。誰も言葉が出ないようだ。

キキキキキキキキ

海「セーサーフツ!!!……なんちゃって。エへへ。」（苦笑）

ボ「（海か。）政府？」

海「違うよ。セーフ。safe。」

ボ「ああ、そっちか。復興なんだが……。」

海「ん？あれ？作業してない？」

周りを見ると、海兵達が何をしていいか分からず、オロオロしている。

海「もしかして、復興作業ってあまり経験無し？」

ボ「ええ、どつちかと言うと、経験無しの方ですね。

復興と言ったら、軍艦に開いた穴を直す。しか、無いですね。

ガープさんが、穴を開けるので……。」

海「ボガードも経験無しの方？」

ボ「まあ、そうです。」

海「そうか。あ、一応、銃は持った方がよいよ。」
まあ、海賊は居ないと、思うが……。

海「まず、医療班は先に村に行つて！どっちかと言うと力持ちな奴は、瓦礫撤去！」

残りは、見張りと村に行つて仮設住居を建てる！以上！」

言われた通りに動き始めた海兵ら。

海「俺は……いろいろ、回るか。ボガードは？」

ボ「仮設の所へ。海は巡回ですか？」

海「だって、ほとんど経験無しだろ？間違つたら、大変だしよ。」

俺、最初は瓦礫撤去チームの方に行つて、指揮するからよ。」

ボ「分かりました。では、また後で。」

海「ああ……さてと。」

瓦礫撤去チーム！12班に分かれて！」

12班に分かれたチーム。

海「1班は海岸沿い。2班は北町。3班は南町。4班は東町。5班は西町。6班は中央。」

7・8・9班は仮設の所の瓦礫撤去。10・11・12班は俺について来い。いいな！」

海「えーとな、とりあえず付いて来い。」

ちなみに、班から発言が出てくるが、10班がミノ（いつもは2）。

11班はロス（いつもは4）。

12班はNY（あだ名）（いつもは3）が発言。

すると、元アーロンパークが在った所。

建物は崩壊している。原型を留めていない。

ミ「まさか、これを!？」

海「うん！」

ロ「これって……」

N「アーロンパークだった場所だよな。」

海「そうだよ！ここで、解体と物質分けをして欲しいんだ。」

ミ「よし！頑張ろう！」

海「じゃあ、俺、他のグループ行くから！」

〓 海岸沿い〓

海「進んでるー？」

1班「進んでます。今、木材と鉄系を分けています。これで良いんでしょうか。」

海「うん！この調子！終わったら、他の班と合流してね！じゃあな！」

「ほかの所」

ちなみに、いつもの交通手段の鳥になって、空から見てる。

だが、問題が無いようだ。

いつの間にか海は、中央にいる、ボガードの所に向かって急降下していた。

59 復興作業開始！（後書き）

なんでしょうか。なんとなくやる気が無いです。

中央町って言わないよね？え？言つの？

まあ、いいです。

次回「復興作業」仮設住居」

60 バーベキュー（前書き）

実は、もう、第二弾を考えてます。原稿？も書いてます。

それで、「（仮）海軍所属」にしようか迷ってます。海賊には、ありません。

今まで通りに行くか、途中で海軍に仮で入るか。どうしよ〜〜〜T

OT

今回は作者がナレーター役です。

60 バーベキュー

〓 (村の) 中央〓

ボ「村に住んでいる皆さん！私達は、復興作業を手伝います。

どうか、不信に思わないで下さい。」

ゲ「この村の警備をしている、ゲンだ。海軍が復興作業を？

もしかして、海が言ってた海兵とは、貴方達だったんですか。
なるほど。」

3「あいつ、話してたのか？」

海「そうだよ。」ピョコ！

3「うわああ！いきなりピョッコリ出て来るなよ！ビックリしたー
ー。」

海「ゲンさん、仮設住宅無いの？」

ゲ「テントです。」

海「寒くないの？」

ゲ「別に。夜は、寝袋の中で寝ますから。問題は無いです！」

海「へ〜。(寝袋が……。キャンプの感覚だよ。絶対に。」

2「で？仮設住宅って、どうやって作るの？」

海「あー、ちよつと待って。」

スマートフォン
携帯電話を取り出し、03-JAPA-ZEUSで通話中。

『もーし、ゼウス?』

「海か?」

『うん。仮設住宅「おお、それが。パチンツ 送ったぞ。」サンキ
ユー。じゃあな。』

ゼウスは、喋るのが苦手だ。だから、最低限の言葉で終わる。なん
とも、迷惑な。

4「どつから、出たんだよ!神しか出来ない技だろ!?!」

海「(ゼウスなんだからさ。あ!あいつ、神か。)」

3「これを、組み建てるのか。簡単にできるな。

カンツカンツカンツカンツカン

〔3時間後〕

海「ふう。終わった。」

2・3・4「くくづがれだ〜。」

ボ「疲れました。久しぶりです。」

ゲ「おお!すみません。遅れてしまいました。」

3「つて、海!お前、疲れてないの!?!」

海「え?あ、まあ。」

ゲ「（なんか、いろいろと不思議な奴だな。）」

何故か、メガホンを取り出す。

海「よ〜し、全員休憩入りま〜す!!!」

（そして、バーベキューセットが出てきた。

これって、ゼウスの趣味だよな？）

ゼウスは、神だが、神として変な趣味をしている。

一応言っておこう。ゼウスは、神だ。

〓 広場 〓

海「（ココヤシ村って、広場なんか在ったか？原作では書かれてないのかな？）」

とか、思いつつ、ちゃっかり野菜、肉を焼きながらも食ってる。

少し、訂正をしよう。野菜と肉だけではない。魚も入ってる。

この世界のバーベキューと現実世界のバーベキューは、いろいろ違う。

まず、場所。

ここは、広場が基本。あとは屋内。

現実世界は、基本的に自然の近くで食べる人が多い。

次に、人数。

現実世界の倍以上の人数で食べている。

原作のW7に帰ってきた時に、大人数で食べていることが分かる。

しかし、その人数が異常だ。

軽く100人は超えている。何故か。少人数しか居なかったらしょうがないが、必ず100人以上で食べる習慣がついているらしく、

99人以下だと8割ぐらいの人は食べようとしなない。現実世界の人が見たら、驚愕か、笑っている。自分は後者だが。

そして、食べ物だ。

現実世界は、野菜と肉の人が結構いるだろう。中には野菜なしの人

もいるが。

ここは、バリエーション？が豊かだ。

野菜はともかく、肉だ。

いや、野菜は、現実世界より小さい。ここが不思議だ。この世界の人が背が高いと言うのに。

話を戻そう。肉の方だ。

普通に豚肉、牛肉を使う人もいるが、それは金持ちの人が行う。では、一般人は何を使うか。

よく、思い出してほしい。ここは、ONE PIECEの世界だ、つてことを。

海には、海王類がたくさんいるし、森に行けば、大型動物がいる。それを使うのだ。

え？海王類は魚類だから、肉じゃない？だつて？あな、魚の身だつて一応肉だろう？じゃなくて、

海王類の身つてな、魚のくせに、牛肉の味がするんだよ！
なんで魚？つて？

ONE PIECEの世界は群島世界なんだよ。赤い土の大陸なんて元々島が繋がってるだけだし。

だから、少し歩いたらどっかの方向に海が見えるんだよ。

（1時間経過）

何故か、ほとんどの人（海兵も含める）・・・海とボガード以外の人が酔いつぶれていた。

海が、自分以外の食べ物に酒をかけてたのだ。

ボガードは、酒に強いようだ。本人曰く「ただの水ですよ。」だそうだ。マルコと同じだ。

続きは、次回で。

すみません。睡魔に何度も襲われています。許してください。

60 バーベキュー（後書き）

誤字など変な箇所があったら、報告お願いします。
次回「復興作業中編」タイトルは考えて無いです。

61 ハプニング

復興作業が始まってから、3日。ちょうど、トリップしてから1週間が過ぎた。

村は海兵・村人・海が復興作業をした為、早く完全復活していた。めでたし、めでたし。

で、書くことが無い……。

それで、この3日間で起きたハプニング？を紹介しよう。まず1つ目。

海が行った事により、ボガードと海以外の人が酔い潰れた事件。

『あれ？ボガードは平気なんだ！』

「何を入れたのですか？何も感じませんでしたけど。」

『酒ぶっつけた。食いもんにも。』

「そうですか。アルコール度数は？」

『10%だけ。』

「なら、大丈夫です。水と同じです。」

『あはは、お前スゲーな。俺は駄目だ。14才だから。』

「（異世界は、駄目なんだな。）」

ここは、14歳から飲酒が許されてる。ってだから！海賊が多いんじゃないの！？」

……すみません。とり乱れました。そして、翌日になり、

（翌日）

村「あ〜？あれ〜？記憶が無いよ〜？？」

3「あれれ？途中k……zzz」

海「こいつ……酒弱いんだよな……。」（汗）

ボ「（後、いつの間にか、ガープさんも参加してたんですね・・・。）」

（3時間後）

4「海！なんで、途中から、記憶がないんだ？」

ボ「海が、さくふごつおふおつごー！」

ガ「何やっとなんじゃー！！！！！！！！！！」怒
ボカツ

海「うう・・・。」泣
とりあえず、事情を話したところ・・・、
ガ「なんで、酒をかけたんじゃー！わしの部隊には！弱い奴も居るん
じゃぞ！！！！」ガミガミ
説教タイム到来。

そして最後、ハブニング発生！NYが誤報を流したのだ。
いや、間違えたただけだ。しかし、アニメで海軍が出てきたら見てほ
しい。

下士官（1等兵まで）は、上官に報告する時だけでは無く、普通の
時もそうだが、大声で報告などをする場合が多い。したがって、N
Yが大声で、「6時の方向に海賊船が！！」と言ったのだ。それで、
銃で威嚇射撃をしたが、大砲がこちらに向けて撃って来たのだ。よ
く見ると、海軍船ではないか！！

そう。海軍が海賊と間違えられた海軍に威嚇射撃をしてしまったの
だ！！しかし、射撃が止まらない。海は気づいている・・・が、
ガープ部隊は気づいてない。ボガードは気づいているようだ。ただ、
声を出しても発砲の音で聞えない。だから、止まらない。

一方、海賊船と間違えられた海軍船の中では・・・。
モ「・・・・・・・・。」

海兵「中将！なんか、撃つて来ました！銃で威嚇射撃をしております！」

モ「何やってんだ、あの部隊は。常識人がいるのに……。」
モモンガの部隊が乗っている。シエルズタウンから快速船なのに、ゆっくりと航行していたようで、補給のためにココヤシ村にしようとしたが、ガープ部隊に威嚇されてるのだ。これは、もう意地でも行かないと無理だ。だから、砲撃をしながら本来の速度で向かっている。

続きは次回！

毎回すみません。反省します。

61 ハプニング（後書き）

ココヤシ村編が次回で終わりそうな予感。
だから、次回のタイトル決まってない！
明日は2話更新が目標！

62 いつの間にか、島出てるー！ー！？

港サイド

海「いい加減に止めんかあああああ！」

ついに、怒った。しかも超微量に覇気が出ている。

ガ「うおっ！なんじゃ！海賊なんじゃぞ！」

海「ちげーよ！あれは、快速船！海軍の快速船だ！モモンガが乗ってる！」

ガ「なんじゃとー！ー！早く言わんかい！」

ボ「言っても、銃砲で聞えなかつたみたいですし。」

ガ「止め！威嚇射撃止め！」

すると、海兵達は警戒しながらも銃を下ろす。

ガ「警戒もせんていい。モモンガが乗ってるんじゃ！海が今言っただじやる！」

海兵達は、自分達の専属では無いが上官、しかも中將に対して警戒、威嚇射撃をしてしまった事で、顔が青白い。

ガコッ

快速船が村に到着して、モモンガが降りてきた。

モ「ガープさん、何やってんですか！」

ガ「ぶわはっはっは！海が言ってくれるまで気づかなかつたんじゃ！」

モ「海。それは、本当か？」

海「うん。向こうが快速船を海賊船と間違えたんだよ。」

モ「（この人もう、駄目ガーブだな。）」

海「で、補給？」

周りを見ると、モモンガの部隊の海兵達が忙しなく走り回っている。
モ「そうだ。」

海「ふあゝ、眠いよゝ。4時間は、やっぱり……………」

モ「ん？どうした？」

歩いて近づくと、

モ「寝てるし。」

立ったまま寝ている海だった。

ガ「なんじゃ？寝とんのか？」

ボ「明らかにそうでしょう。」

何故眠いのか、低血圧では無い。そんなに寝る事を重視しない海。
ちなみに、高血圧でも無い。

ただ、昨日の夜遅く、バーベキューの片付けをされていて、終わったのが、午前3時。3時に寝て、7時に起きたため、眠気が飛ばなかったと言つ。叫んだ時は少し、眠気がとんだとか。

少佐「中将！補給完了しました！」

こいつは、海軍本部少佐。名前はレッケン。モモンガの副官だ。

モ「では、こちらは行くとさ」

ガ「待つんじゃ！わしらは、先に本部に行く。海をよろしく。出航じゃ！」

ちよつと、待つてください！どういうことですか！？」

ガ「軍艦で行ったら混乱するじゃろ。快速船の方が良いと思う！」

しかも、こっちは砲弾切れなんじゃ！」

モ「分かりましたって、もういない。レッケン少佐。海を頼んだ。」

少佐「了解。出航の準備をしろー！」

〈5分後〉

〓快速船〓

快速船は、軍艦より2倍以上速い。その為、大きな波が無ければ揺れることは、あまり無い。だが、わずかに揺れるため……、

海「はっ！……どこ？」
起きてしまった。

少佐「こんにちは。中將の副官のレッケン少佐です。」

海「ああ、どうも。ここは、どこ？」

少佐「快速船の医療室です。疲れや眠気はもう無いですか？」

海「うん！すっかりしたー！」

少佐「よかった。」

海「って、挨拶忘れたー！ー！ノジコーー！ナミー！ゲンさんー！ー！」

少佐「大丈夫です。みかん貰いましたよ？」

海「え？みかん？どこ？」

少佐「食堂の秘密倉庫に入ってます。」

海「良かったー。」

ココヤシ村のみかんは美味い！和歌山のみかんみたいな味がする。業者の名前が分からん！

少佐「朝ごはん食べに行きませんか？」

海「うん！行く行く！（ここの料理も食べてみようかな？）」

〓 食堂 〓

海「ん？今日はカレーか。」

少佐「カレーって、好きですか？」

海「好きだよ。ってか、普通に食べてるし。よいしょ。」
カレーをトレイに置いた。

少佐「こっちはです。将校がいる所ですが・・・中将？」

海「ん？あれー？どうしたの？」

モ「なんでもない。」

海「なんだそれ。ん??ええ!?!?!?なんか、見てはいけない物を見てしまった。」

モ「な!?!」

少佐「?」

海「機密書類だよ。俺、その字読めるよ。日本語。」

モ「な!?!?なんでだ!?!?なんで、読める!」

海「あー、ここじゃ、今言えないな。今度だ。」

モ「分かった。」

海「ところで、どこに向かってんの?」

少佐「ローグタウンです。」

62 いつの間にか、島出てるー！？（後書き）

起きたばかりです、だから、文が変かもしれません。三度寝しました（笑）

11:30に、起きました。

次回「番外編」

(63) 番外編 青の被魔師の世界に来ちゃった!?! 1

「学校」

海「ここは、どこだ?どつかの学校なのは、たしかだと思っが。」
とりあえず、歩いてみる。

海「1年2組?」

教室を見ると、学校の制服を着た学生が授業を受けている。どうやらここは高校みたいだ。

ちらほら寝ている人もいた。が、寝ている人が問題だった。それは・
・

海「奥村 燐—————!!??」

おもわず、叫んでしまった。すると、教室が騒ぎ出す。

教師「誰ですか!?!」

海「えええ—————!?!本物—————!?!」

教師「???(本物?)」

燐「ん?どうしたんだ?なあ!雪男!どうしたんだ!?!」

雪男「兄さんの名前を大声で廊下で言った人がいるんです。」

海「奥村 雪男—————!?!え—————!?!」

雪男「僕の名前まで……。」

海「あいつ、なんで!？」

教師「ちよつと、あんた何者なんですか!？」

海「雪男つて、燐より頭良いじゃん!クラス違うと思った。」

燐「よ!俺!奥村 燐!よろしくな!」

海「!?!?おう。」

雪男「兄さん!？」

海「しかし、また異世界トリップかよ……。」

雪男「ええ!?!?異世界トリップ!？」

教室全員「……ええええええええええ!?!?!?!」

廊下からも聞える。野次馬が半端ない。

燐「お前!異世界から来たのか!?!」キラキラ

海「(ルフィみたいだな、こいつ。)」

メフィ「あゝ!貴方でしたか、「海」っていう人は。」

燐「あ!ピエロ!」

メフィ「ゼウスから、手紙が来てましたよ?ちよつと、来てくれな
いかな?」

ただーし！塾だけです！良いですね？」ググツ
メフィストは顔を近づける。

海「分かった。あと、顔近づけんな。キモイ。」

メフィ「!?!」ガビーーーーン

こうして、海の異世界（ONE PIECE以外）の旅が始まる。

(63) 番外編 青の被魔師の世界に來ちやつた!?!?1 (後書き)

番外編が続きます。100話行きたいから。

次回「青の被魔師 2」

(64) 番外編 青の被魔師 2 (前書き)

久しぶりに海視点で書きます。

……、まず誰かに聞きたい。ここは、どこだ。

特徴？特徴は、天井が高いと廊下が長い、扉が沢山ある……塾？塾か！？そういえば、原作にこんな場所描かれてた！そうか、ここが塾の廊下か。

でもな、はつきり言って、自分がいる所から半径2mくらいしか普通の人は見えないの！暗すぎるだろこれ！？悪魔が来やすいだろ！……俺は視力(夜間も含め)は良いから問題無いけど……。

？「にやー。(誰?)」

んあ？今、ネコの声？が聞えたぞ？

？「にや？(燐?)」

一応、答えておくか。あれは、燐の使い魔クロだな。だって背中黒いし、腹を白だし、尻尾は二又に分かれてるし、顔は鼻と口の周りが白で残りは黒だ。どう見ても、クロだ。

「俺は海。燐じゃないぞ？」

ク「!?!(え!?!海は俺の言葉が理解できるのか!?!)」

「ああ。お前も名乗れ。」

まあ、知ってるけど確認したいな？

ク「にゃあーにゃあー！（俺はクロ！燐の使い魔だ！）」

「そうか、クロか。今日、よろしくな。」

ク「にゃー！（よろしくな！海！）」

と、話していると、原作組が来た。

燐「お！いたいた！」

海「燐？」

ク「にゃー！（りーん！）」

燐が帰って来て喜んでいて、手（前足）を振っている。

燐「クロもいたのか!？」

ク「にゃあ？にゃー！（ねえ、燐。海も燐と同じく俺の言葉が理解できるんだって!）」

燐「え!？海も理解できるのか!？」

海「え!？あ、まあ。能力の一部だよ……。」

いやー、本当に燐って、ルフィに似ている気がする。弟の雪男は大変だな。だいたい、ガープの補佐のボガードと同じくらいの気持ちだろうな。胃炎に気を付けて頑張れ雪男。

志摩「なあ、あの子今日、昼に廊下に居た子なんちゃう?。」

勝呂「あいつが?。」

子猫丸「教師によると、異世界から来たみたいですよ。・・・坊？」

勝呂「異世界やと！？・・・何でそんなこと早く言わんかった！？」

子猫丸「坊は知っていると思いました。」

志摩「あの子、面白そうやな？」

来た、京都弁3人組。結構こいつら頭良いんだよ。俺は、気づいたら頭が良くなつてた。

燐「おーい！お前らも来いよ！」

すると、おとなしく3人組がこつちに来た。

勝呂「お前が海か？」

海「おう。ちなみに、ここでは最少年だから。俺、まだ中学生だ。2年。」

志摩「ええ！？しっかりしてんなあ。」

子猫丸「志摩さんが変なだけですよ。」

志摩「子猫丸さん、ひどいやで・・・」

勝呂「そつや、志摩は、ただの変態や。」

志摩「ええ！？坊まで！？」

海「頑張れよ。」

志摩「はい……。」「

海「無理だろうけど。」「ボソッ

志摩「え！？ちょっと！今、なんか言いませんでしたか！？」

海「いーや、別に。」「ふらふら

しえみ「志摩君！」

雪男「志摩君。」「

志摩「あ、奥村先生。しえみさあ〜んVV」

神木「ちよつと、待ってよ！」

志摩「神木さあ〜んVV」

あー、とうとうほとんど集まったな。

あと、隣がルフィなら、志摩はサンジだろうな。志摩は、性格だけ。しえみは、ケイミーかな。天然だし。

メフィ「あーもう、集まってきましたか。教室の中に入りましょう。」「

(64) 番外編 青の被魔師 2 (後書き)

短いかも。いや、短いな。

次回も番外編で青の被魔師。

(65) 番外編 青の被魔師 3 (前書き)

そう言えば、トルコで地震が起きました。

実は、その直前に寝てまして、正夢？見ました。

やっぱり正夢は怖いよ。特に地震関係の。トルコだったかは、忘れませんでした。

たぶん、トルコ付近だな……。ラクダ居たし。

「教室」

メフィ「えー、それでは。海君。君が説明しなさい。はい、手紙。」

海「え！？俺が説明すんの！？お前はなんで来たんだよ……。」

メフィ「いいから、早く。」

海「えーと、まず、俺の名前は、櫻井 海。三次元の日本東京都出身だ。」

俺は、生まれつきで特殊能力を持つてる。

この刀の内の一つが俱利伽羅。まあ、降魔剣だ。色などは、燐の反対だ。

残りが斬魄刀。一つ一つに能力を持つてる。

で、俺は異世界は2つ目だ。

あ！何故、君たちを知ってるかは、内緒だからな！」

雪男「三次元にも、日本が……。」

海「日本だけじゃないぞ？中国、韓国、アメリカ、イタリア、フランス、トルコなど。」

勝呂「三次元には、悪魔は居るんですか？」

海「あー、良い質問！三次元とこの違いは、
被魔師エクソシストと悪魔が居るか、居ないか。だよ。」

志摩「つてことは、結構平和なんちゃう？」

海「日本は平和だよ。不況が続いて、大震災が起きたけど……。」

子猫丸「ええ！？大震災ですか！？」

海「うん。通称“3・11東日本大震災”」

しえみ「東日本大震災？」

海「そう。3月11日、M9.0で最大震度7。宮城でね。」

あと、東北の太平洋側が津波の被害を受けたんだ。

東京も、揺れたんだよ。俺、その時学校サボってた。

友人が宮城にいるからさ、慌ててへりに乗せてもらったよ。」

燐「お前、ずるいぞ。俺だって！」

海「いや、寝るのも、いけないと思う。俺は大体、寝坊するから。」

燐「よし！俺も寝坊しよう！」

雪男「兄さん！！！！」怒

海「あははは！」

燐「なんだと！」

志摩「まあ、まあ。怒るのは、健康に良くないで。なあ、しえみさん？」

しえみ「え！？あ！そうだよ！2人ともいい加減にしてよ！」

燐「お、おう。ごめんな！」ニカッ

しえみ「え！？あ！あっ！うん！」照れ

志摩「ヒューー」

燐&しえみ「志摩！&志摩君！」

海「はもったよ。」

燐「うっせー！」

しえみ「そうだよ！」

海「ニシシー！」

勝呂「まあ、そういうのは、ここまで。話がずれてんだ。」

海「そうだな。他に質問ある人！」

しえみ「はい！」

海「はい、しえみ！」

しえみ「私達が持つてるこの鍵は持つてるの？」

海「いや、無いな。」

でも、すごいよなそれ。鍵によって、行ける所違っんだろ？」

雪男「そうです。」

これを無くしたら、いちいち歩いたり、電車に乗ったりしないといけない。」

海「まあ、俺は能力でたまにやつたりするけど。」笑

子猫丸「なんでそこ、笑うんですか？」

海「なんとなく。」

勝呂「いつまで、滞在できるんちゃう？」

海「もう、行かないとな。時間なんだ。」

燐「え！？もう、行くのか！？」

海「ごめんな。どうしてもだからさ。」

雪男「兄さん、諦めよう？」

燐「うん。分かった。また、会おうな！」

海「ああ、よく俺を見る。透けてきただろ？」

志摩「本当や！」

海「もう、お別れだ。じゃあな・・・。」

海は、青の被魔師の世界から消えた。次は、どこの世界へ行くのか。

(65) 番外編 青の被魔師 3 (後書き)

次も番外編！できれば、今日更新したい！
良い洋楽見付けた！

次回「番外編 BLEACH」

(66) 番外編 BLEACH 今度はどこだー！ (前書き)

BLEACH編いきます！

若干変な所あるかも。

そんなに詳しくないんで。

(66) 番外編 BLEACH 今度はどこだ！

ここは、どこだ。ゼウスによると、ONE PIECEの世界の時間を止めるから、楽しんで来いだから、戻ったわけでも無いところとか。じゃあ、どこ……!?!?

??「松本……!?!」怒

「ん?あの、銀髪の小学生は……。」

日番谷「誰が小学生だあああああ!?!」

「んじゃ、チビ。」

日番谷「チビじゃねええ!?!」

阿散井「どうしたって……誰?」

日番谷「俺は、十番隊長の日番谷 冬獅朗だ!」

「そんなの、知ってるって!」

??「お主か?」

阿散井「総隊長!」

日番谷「総隊長殿!阿散井!殿を付ける!」

山本「まあ、良い。君が、異世界を旅している「海」君で合ってるかね？」

「ああ。確かに異世界を旅してんな。3つ目だ。」

阿散井「ええ！？そんなに!？」

海「まあ、まだ旅すると思う。」

山本「うむ。臨時、全隊士を集める。君らも、集まれ。」

阿散井&日番谷「はい。」

2人が去った。

山本「去ったか。うむ。確認だがの、お主は神の息子なのか？」

やっぱり、その質問来たよ！
なんで毎回。って、2回目か。

「うん。俺は神の息子で、名前は、櫻井 海。」

山本「そうか。瞬歩は使えるかの？」

「使えるが？」

山本「なら、集会所に来い。出番はわしの話が終わってからじゃ。分かったか？」

「ああ。」

山本「なら、先に失礼するわい。」

シユンツ

やっぱり、総隊長・・・山本元柳斎重國やまもとげんりゅうさいしげくにはスゲエ。

俺もそろそろ行かないと。

シユンツ

でも、欠点あるよな。たとえば、今扉の向こうに総隊長いるんだけど、話が長いよな。

（20分後）

まだ、話してるぜ。あの爺さん。もう、眠くなってきた。ふあ。

もう、いい！寝る！

ぐううー・・・ZZZZZZZZ

（さらに、30分後）

山本「海！入って良い。」

.....。

山本「迷ったのかの？」

爺さんは、ドアノブに手をかけた。

ガチャツ ゴン

「痛～～！」

山本「こっちじゃよ。」

「爺さん、話長い・・・よ。って、隊士ってこんなにいるの!？」

山本「そうじゃ。」

「あ、寝てる人発見!あれは、山田 花太郎!」

山本「山田。寝とる。給料減らすかの。」

山田「あ!待ってください!焼肉食べてから・・・あれ?」

「なにが、焼肉だよ。って、自己紹介は「もうした。」マジですか。」

山本「今から、慣れてほしいのと、一日限りじゃから、ふれあいの?」

「こっちに、聞くなよ。そうだ!涅マユリだけ?霊圧装置造って!結構いっぱい入れるように。できれば、紐で、足首につけるやつが良いな。」

涅「分かった。」

山本「なんじゃ?霊圧高いのか?」

「おう。今は、ゼウスに抑えて貰ってるけど。」

山本「そうか。それでは、海と話したい奴はこっちへ来い。」

すると、隊長・副隊長・座席クラスの死神のほとんどが来た。

(66) 番外編 BLEACH〜今度はどこだ!〜 (後書き)

口調分かん。

次回もBLEACH編

えーと、只今、広場にいます。あ！別に、模擬戦する訳じゃないよ！こんな描写は無かったと思うけど、あたり一面芝生で川が流れるところだよ。

や「聞いている？」

「ひゃひ！」（頬をつねられてる。）

や「もう、かいつちー。ちゃんと、聞いてよ！」

「分かったから、拗ねるな。」

見た通り、やちるが俺にあだ名を付けた。「かいつちー」だってよ。一護のあだ名に「か」を付けただけじゃねえかよ。まあ、いいか。

や「どつから、来たの？」

更木「確かに、気になる。」

この説明を、毎回説明しないとイケないのか？

「俺は、はっきり言って3次元の人間だ。日本人だぞ？」

や「日本人なの！？かいつちーも、日本人なんだね！」

阿散井「なあ！お前、鯛焼き好きか？」

「ああ！好きだよ！甘党じゃないけどな。辛党でも無い??」

更木「話がずれ過ぎだぜ?」

と、まあその後、一通り話して。

ルキア「貴様は「おい、これ！ルキア！」総隊長殿?」

山本「言ったはずじゃろ。海は、ゼウスの息子だって。」

ルキア「それは本当なんですか!?!」

山本「本当じゃ。」

「でも、そのままが良いよ?硬っ苦しいの苦手だからさ。」苦笑

ルキア「じゃあ、海。海は死神代行なのか?」

「いや、多分違うと思うぞ?」

だって、斬魄刀持ってるし、鬼道使えるし、瞬歩使えるしよ。霊
圧も半端ないし。」

山本「霊圧はさっき確認した。」

更木「容量は?」

山本「未知数じゃ。しかもどんどん増えると言うつ、不思議な体質を
持つとる。」

「ゼウスの息子だからだよ。」

ゼウスって、息子だからって能力付け過ぎなんだよ！このバカヤロ
ー！

山本「そうじゃの。」

納得しやがったよ！この爺さん！このヤロー！

日番谷「でも、お前の斬魄刀の「青龍」には、勝てる。」

阿散井「まあ、そうだよな。相性が悪すぎる。」

「うるせー！小学生は、おとなしく家で宿題やってろー！ー！ー！
ー！！」

日番谷「なんだと！！」

阿散井「くっくっプッ！」

恋次は、笑いをこらえている。

日番谷「俺は、小学生じゃねえって、言ってるんだろ！後、阿散井！
笑うんじゃないねえ！」

日番谷は確かに、銀髪小学生並の身長だ。これが、笑える。

日番谷「勝手に、ナレーターすんじゃないねえ！」

（20分後）

この、口喧嘩は、20分もかかった。

阿散井「ハア・・・ハア・・・笑いすぎて、腹が痛い。」泣

「ああ。俺も痛い。」

日番谷「フンツ。天罰だ。」

「なっ、訳あるか!」

阿散井「無いさ!」

日番谷「なんだと!」

「爺さん、早く止めてよ!この、しょ・・・日番谷のせいだよ!」

全員「「「いや、お前から始まったんだよ!」「」「」

全員に言われた・・・ぐすん。これは悲しい。

ワハハハ!by白龍

おい!コリア!どっから出てきた!

うん、次回へ行こうなby白龍

おーーーーー「強制だから!」

(67) 番外編 BLEACH 2 (後書き)

強制に終わらせました。宿題やってない！？ヤベエ。
次回もBLEACH。

(68) 番外編 BLEACH 3 (前書き)

BLEACH編は今回で終了ではない。後々に、また出て来る。
一護とかの現世組編だよ。

日番谷「おい。」

「なんだ？」

日番谷「聞きたい事がある。まず、一つ目。さっきいきなり出てきたの誰だ。」

「あー、気にしない方が得さ。で、次は？」

日番谷「お前、俺のことをどう思ってる。」

阿散井「銀髪小学生じゃないっすか？」

乱菊「珍しい銀髪で短気の小さい子供よ。」

日番谷「阿散井ーっ！松本ーっ！」

やちる「ひつつー！怒っちゃだめ！」

日番谷「何故だ。」

やちる「なんとなく！剣ちゃん！金平糖ある？」

剣八「ああ。」

「（なんで、今金平糖がいるんだ。）」

乱菊「やめてー！青年2人！年上の女の子をいじめるのは良くないよー！」

「いや、お前はもう、女の子って言わねえだろ。」

日番谷「ああ、そつだ。」

七緒「そつですね。うちの隊長にも採用しようかな？」

京楽「ええ〜！ひどいやで〜！うちら、酒飲み仲間にとって重要問題やよ〜！」

銀虎「ええやん！」

海以外「「「「・・・誰？」「」「」」

銀虎「主。こんな楽しい時間の時は呼んでや！」

阿散井「主って、海の事？」

銀虎「せや。うちは海の斬魄刀や。名前は銀虎。どうぞ、よろしゅう。」

山本「銀虎か。能力は？」

銀虎「あー、電気系をよく出すけど、原子かな？うちもよく分からん。」

「俺もよく知らねー。」

阿散井「知らないのかよ!？」

山本「分からないのか。」

銀虎「ああ、ん?誰か来るでー。」

京楽「誰って・・・涅やな。」

涅「出来たよ。ほら、紐状の霊圧制御装置を編んでおいたよ。」

「マユリだっけ?ありがと〜!」

涅「今まで造った物では、最高傑作だよ。」

「ワォー!」

銀虎「なんでそこ、「ワォー」なんだよ。Wah!でしょ。」

「Wah!」

銀虎「言い直したよ!主!」

山本「涅、どの位入る。」

涅「未知数ですから、最初は総隊長の2倍が入れるようになってます。

入れる量も多くなります。」

山本「そうか。」

やちる「ねえ、銀虎って言うの？」

銀虎「そうや。どうした？」

やちる「じゃあ、銀ちゃん！って呼ぶよ。」

銀ちゃんって、神楽が銀時を呼ぶ、あだ名じゃねえか。

銀虎「ハハハ！銀ちゃんか。ええ、センスしてんやんか。」

黒鷹だつたら、黒ちゃんか？

一角「なあ、海。お前、もしかして、斬魄刀複数持ってたりするか？」

「正解。3本持ってるよ。銀虎・黒鷹・青龍。」

剣八「持ちすぎだろ。」

「ハハ！そこは見逃せよ。」

剣八「いや、出来ない。今度、手合わせしねえか？」

一角「それなら、俺も参加したい！」

「あはは……。いや、一護と手合わせしろよ。」

剣八「いや、新たなライバルの出現だな。」

「勝手に決めるな。」

一角「なあ、何刀流？」

「基本的に一刀流だが、二刀流の時もあれば、三刀流の時もある。」

剣八「三刀流？」

一角「どんな構え方だよ。」

「片手に一本ずつ持って。」

剣八「なんだ、どっちかの手に二本持つと思っただぜ。」

「残りの一本は口に銜^{くわ}える。」

まあ、ゾロと一緒だ。

剣八「やっぱ、今しようぜ！」

「いやだ。」

剣八「よし、強制だ！」

やちる「剣ちゃん、かいつちーをいじめないで！剣ちゃんのいじわるー！ー！」

剣八「どうして、そうなるんだ。」

やちる「剣ちゃんのいじわるー！」

一角「隊長、ドンマイです。」

剣八「はあ。」

日番谷「海？」

「ん？なに？」

日番谷「時間じゃねえのか？」

「あああああ！そうだった！また、会おうな！銀虎、戻れ！」

銀虎「何忘れてんだよ！」

「じゃあな！」

山本「行ってしまったの〜。」

日番谷「根がしっかりした奴だったな。」

乱菊「あの子、怖い。」

京楽「右に同じく。」

七瀬「あの意見、実現したい。」

京楽「七緒ちゃん！？」

一角「いつか、手合わせしたいぜ。」

剣八「（何故、黒崎を知っている？）ああ、一角と同じ意見だ。」

やちる「かいつちに、また会いたいな！。」

涅「霊圧の容量が半端なかった。」

阿散井「気配が独特だった。なんか、落ち着く。」

海と話してたメンバーは、感想を述べていた。

海は、次、どこへ行くのか。それは、ゼウスと作者以外分からない。

(68) 番外編 BLEACH 3 (後書き)

いつの間にか、「更木」が「剣八」になってる。
次回「番外編 銀魂」万事屋」

(69) 番外編 銀魂 1 (前書き)

いつもの、万事屋の3人組。出て来るよ。

海サイド

やあ、海だよ！・・・この、挨拶無理。調子狂う。なんだよ！この、カンペ！

「やあ、海だよ！って、言ってください。作者からの強制なので。」
って、コラア！

あいつ、何しとんねん！強制って、誰かの小説見て、影響受けたか！？

・・・、いや、本当にすみません。多分、この調子で始まるのが多くなりそうです。

って、なんでこれもカンペなの！？お前（作者）が言えよ！

これを言った俺は悪くない。これを言った俺は悪くない。これを・・・

・・・（省略）

読者の皆さん。

海です。海です。現状報告します。

また別の異世界にきました。しかも、ゼウスから、

「もう、ONE PIECEの世界の時間は止めないから。

それじゃあ、旅を楽しめよ。もう時間だから、いや、マジで。バ

イバイキーン。」

どうした！？ゼウスどうした！？アン　ンマンの影響！？

どうした！？2人揃ってどうした！？

で、通行人を除けば、普通の近代都市なんだけど、通行人が変なんだよ！！

某アップル社の音楽プレイヤーを持ってる人が居たり、ちゃんとス
ーツを着た男性が居たり。

え？どこが変なのって？ここまではセーフなの！！問題なのは次だよ！

近代都市なのに、ちょんまげしてる人が居るわー、昔の着物・・・現代の綺麗な着物違って、庶民（失礼）が着てた物だよ。それを着ている人が居るわー、葉巻吸ってる人も居るわー。ね！！

変でしょ！？あ・・・葉巻は大丈夫。・・・じゃねえよ！近代都市で吸ってる人初めて見たよ！

少し、某ぶらりり途中下車みたいなのに、ぶらりりと歩いているんですよ。報告してる時歩いていたんですよ！？え！？信用できない！？なんで！？あ、報告になつてませんね。

現在、京都？みたいな所にいます。もしかして、瞬間移動しちゃった！？

な、訳無い。ちゃんと遠くにさっきの町が見えています。

んゝ、腹減った。なんか店ないかなゝ。・・・

ちよつと、待って！ちよつと、待った。これ、万事屋？えゝうそゝ！！

マジ？万事屋が在るって事は、ここは「銀魂」の世界！？はあ！？あの、宇宙人が日本を治めている？いや、支配か。そんな所に来ちゃったの！？

あー、マジで変な所に来ちゃったよ。どうしよう。宇宙人を斬魄刀で殺しちゃうか。

やってみたいな。なんか反応が面白そう。

ん？何？今、何してんの？って？あ・・・なんでもや万事屋の前で止まってます。

今、ノックしようとしたんだよ！・・・あ、ごめん。

八つ当たりしちゃってごめん！いや、本当にごめん！

じゃあ、お礼に万事屋にお邪魔しようと思います。

コンッ、コンッ

いや、本当は音が違うから、だって障子だぜ？表現できねえだろ。文字では。

??「はあゝい。今、開けまゝす。」

あ・・・新八だな。

ガラガラ

??「どちら様ですか？まあまあ、上がってください。どうぞ。」

「どうも。」

??「銀さゝん！仕事ですよ！って、神楽ちゃん、酢昆布食べ始めないで！」

神楽「新八〜！女の子にはやさしくするねん！うち、女の子なんねん！」

新八「分かりましたから、もう。銀さんも言うってくださいよ。」

銀時「良いじゃねえか。まあ、上がってくださいな。」

「おう。」

なんか、絶対調子狂うぜ。

新八「あ、座ってください。」

銀時「あー、で？」

「ちよつとさ、確認したい事があってさ。」

神楽「確認ネ？」

「ここは、何次元？」

銀時「そりゃあ、二次元に決まってるだろ。」

自覚してるんだな。毎回、三次元って言ったら、仰天されるな。こりゃーヤベエ。

「じゃあ、ここは、宇宙生物が普通にいる日本か。」

新八「そうですね。まさか！記憶喪失！？」

「新八は、黙ってる。」

新八「すみません。」しゅーん

銀時「（おいおい、ツツコミ役の新八を黙らせたよ！？この人なんなの！？）

ってか、誰だよ！あんた！どうなってんだコノヤロー！」

「ふーん。じゃあさ「ワフツ！」定春？知らねーけど、そうだろ？」

銀時「そうだよ。」ワタワタ

「じゃあ、いつもは死んだ魚の目をしてるがやる時はやる坂田 銀

時と、

侍魂を学ぼうとして銀時の下で働く志村 新八と、

宇宙生物・・・巨大犬、定春と、

宇宙最強を誇る絶滅寸前の戦闘種族、夜兔族の神楽。で、合ってるか？」

銀時「（だから、この人何者〜〜！）はひい！」

新八「（ええ！？なんで、分かったの〜〜！！！？？）」

定春「ワンツ！（そうだ！）」

神楽「合ってるアル。」

「そうか。じゃあ、新選組の所に連れてって？」

(69) 番外編 銀魂 1 (後書き)

はあ、疲れだ〜〜。

次回「番外編 銀魂 2」

番外編4つ目は、ヘタリアにしようかと迷い中。

(70) 番外編 銀魂 2 (前書き)

いやー、今日は朝は寒かったけど昼から暑くなったな。
読者の皆さん、風邪引かないように気をつけてください。

「新選組の所に連れてって？」

って、言ったら素直に聞いてくれたようだ。

で、目の前には、新選組メンバーが居る。

近藤「えーと、あなたが……」櫻井 海「櫻井 海さんでいいですか？」

「ああ。」

近藤、微妙に震えてっぞ？向こうは、脅かされていると思ったらしい。まあ、微妙に覇気が出てるからだと思う。(覇気制御装置を付けてないから。)

近藤「櫻井さんは、異世界から来た。でよろしいですか？」

櫻井さんって言われるのって、気持ち悪いな。

「そつだ。」

沖田「じゃあ、櫻井さんはどこから来たんだ？」

近藤「コラッ！沖田！」

「まあ、いいじゃん………あ、時間経つの早っ！」

銀時「そっだよーっ、歩いてきたからねーっ。」（怯えてる）

「あ、金。3000円。一人1000円ずつな。それじゃあ、時間なので。」

全員、「？」になってるし。（笑）

「サイナラ〜。」

「銀魂」の世界から、海が消えた。

これで、異世界（ONE PIECE以外）の旅は終了した。

(70) 番外編 銀魂 2 (後書き)

銀魂って、書きにくいね！

次回「本編 ローグタウン編」

71 ローゲタウン編 く痛いく(前書き)

久しぶりに本編に戻る！イエーイ！VV

「快速船」

「………!!」

なんか聞えるぞ？なんだ？黒鷹でも青龍とかでも無い。じゃあ、だれ？

「……着いたぞー!!」

「……起きろ海!!」

ん？2人？誰と誰？

「……港に着いたぞー!!」

「……早く起きろ海!!」

あ！レッケンとモモンガだ！ヤベエ！

ガバツ

「はっ!!あー、なんだ。呼んで無いじゃん！寝よ。」

レッケン「違っっっっっっっっっっっ………!!」

「ん？だ………レッケン？」

レッケン「そうです！早く！ローグタウンの軍港に着きましたよ！
グイグイ

レッケン「痛い！痛い！痛い！マジで痛い！ルフィみたいにゴ
ムじゃねえから痛いんだよおおおお！！！！つてか、ロキア覇気使つて
るよな！俺、ソオン悪魔の能力者だし！自然系と動物系の能力者だよ！？
痛い！地味に痛い！

「軍港」

軍港には、モモンガの部隊とスモーカーの部隊が整列している。

モ「やっと来たか。」

レ「遅くなりました。」

「痛い！痛い！離せ！！！！いや、マジで痛い……………??？」

あれ？なんでスモーカーの部隊が整列してんの？モモンガの部隊は
分かるけどさ……。

あ！自分達より先輩だからか。あゝなるほど。

レッケン、まだ抓ってやがる。覇気をお前に向けて放ってやるのか？

パッ、ドテッ

いきなり、離すな！痛かった…………ぐすん。

レ「海さん、今怖いこと考えてませんでしたか？」コソコソ

「いゝや、別に。」コソコソ

レ「（絶対に考えてたよ！背中がゾツとしたよ・・・）」ガクガク

「（ハハッ！怖がつてるよ。レッケン、さっきのお返しだ。ざまあー^^・・・ざまあってなんだあ？まあ、いいや。）」（笑）

レ「ヒイー！」ガクガク

モ「レッケン少佐どうした。そんなに震えて。??？」

モヒカンのおっさんことモモンガは関係ないよ？（笑）

レ「な・・・なんでもありわふえん！」

モ「そうか？・・・海。なんかしたか？」

「ん？ずっと抓っているから覇気当ててやろうかな？って思っただけ。」

レ「ヒイイイイ！！！！！」

モ「・・・変なことを考えるな・・・レッケン少佐大丈夫か？」

レ「は・・・はひい！」

モ「全然駄目ではないか。スモーカ“准将”部屋を貸してくれないか？」

そう、スモーカーは大佐から准将に昇格したのだ。

ス「分かった。たしぎ！貸してやれ！」

.....。

「あり？たしぎは？」

海兵「え！？たしぎ“曹長”ですか！？知りません！」

海兵「部屋にいるんじゃないの？」

ス「たしぎいいいいいいいい！！！！聞えているのかあああ！！！！」

た「はい！！なんでしょうか！スモーカーさん！コーヒーですか！！？」

ス「この刀バカ！この少佐に部屋貸してやれって言うてんだ！！」

た「え！？あ！はい！こちらです！」

レ「あ、うん。」ガクガク

「あははははは。」

モ「笑い事ではない！！！！！！！！」

ボカッ

いきなり殴られたー！ー！ぐすん。TOT
しかも、めっちゃ痛い。ジーンとくるよ……。 (泣)

モ「そんなに、泣くほど痛かったか？」

「痛いよ……。この世界の人間は頑丈すぎるんだよ……。うう
ー。」 (泣)

モ「そうか、すまない。」わしゃ、わしゃ

モ「モンガは冷淡だって聞くが、俺には甘い。なんでだ？」

(海軍が大切にしていることを忘れていて、気づいてないだけ。)

モ「そろそろ、中に入るぞ。」

「分かった。」

モ「ほら、歩け。お前らは、ここで一旦休憩だ。ここに1ヶ月滞在
する。」

海兵達「」「」「はっ！」「」「」

まさかの1ヶ月滞在。何も起こらなければいいが……。

71 ローグタウン編 く痛いく(後書き)

タイトル変だね！でも、変えないよ！面倒だから。
次回「ローグタウン編」

72 次々と来る海賊達 1 (前書き)

海賊を捕まえます。

72 次々と来る海賊達 1

「駐屯地」

海がモモンガに拳骨をされた翌日。

スモーカーが海を職務室に呼んでいた。

「職務室」

ス「すまないな。海。」

「大丈夫だよ。」

ス「頭は痛くないのか？」

「ああ、もう大丈夫だ。」

ス「こっちは訓練・書類がズーッと減らない。あのサボリ大将のせいだな。」

「大変だね。」

ス「モモンガ中將が手伝ってくれるから助かった。」

「？」

ス「ずっと徹夜だった。昨日、やっと寝れたんだ。5日ぶりにな。」

「嘘だろ……あの馬鹿雑は失格だな。」

ス「ああ。」

「で、用件は？」

ス「最近、海賊が次々に上陸している。俺がこの仕事をしているから、なかなか捕まえられない。だから、偉大なる航路に入ってしまう。海、海賊を捕まえてくれないか？」

「あーなんだそれなら早く言ってよ。もちろん、引き受けるよ。」

ス「いつも、すまない。」

「ははっ、任せとけ！1ヶ月よろしくな！スモーカー！」

ス「ああ。任せる。」

よっしゃー！！！！海賊を狩りまくるぞー！！！！！！
ハンターになった気持ちだな！早速行こう！斬魄刀も使えるし！

そういえば、海兵達は疲労で倒れてるんだよな。モモンガの部隊は、見張りと報告（俺に）と書類。海賊を捕まえる人員がいなくて訳か。

プルプルプルプル、プルプルプルプル、プル、ガチャ

「はい、海です。」

海兵「海さん！町で海賊団2組発見しました！暴れているようです！至急そちらに向かって捕まえてきてください。」

「了解。」

ガチャ

2組な。どんな奴だよ。ってか短気だな。海賊って。

??「キヤーーー!。」

あ、ヤベエ！急がないと！

「町」

「おい！海賊は!?!」

町民「あそこに居るよ!って、誰?」

「サンキュー。ご協力ありがとう。」

町民「??」

分かってないか。捕まえた後に説明しとくか。

「2組の海賊団！捕まる意志はあるか！！」

無いよな。

海賊「無い！なんでここに俺様達が来たと思ってんだ！」

「そつか。覚悟はあるか？」

町民「あの子、何をしようとしてるんだ！？」

町民「無駄な戦いはよせ！相手は海賊だ！それぞれの船長が600万と700万だぞ！」

「そんならいか。」

海賊「なんだと！！」

海賊「貴様！！」

町民「終わったな。」

「言っておくが、1000万超えて無い奴は偉大なる航路で直ぐ死ぬだけだ！」

海賊「すぐ懸賞金を上げてみせる！」

「無理だ。最低でも2000万を超えないとな。俺は億超えを普通に捕まえている！」

海賊「なに自慢してやがる。」

「もう一度言っ！降参する意志はあるか！」

海賊「無い！……！」

「そうか、そうか。なら、お前らの考えが甘いつてことを分からせてやるよ。」

海賊「「??？」」

町民「何をするつもりだ？」

「名乗っておこう。俺は“櫻井 海”『白神』って呼ばれてる。」

海賊「「!!?!????」」

町民「白神!?!」

「縛道の四 這繩はいなわ」

海賊「な!?!」

海賊「貴様!! 解け！」

「降参する意志が無いから解かない。」

運ぶの面倒だな。あ！電話すればいいのか！

ちなみに俺は携帯電話で通話する。この世界では発着音が電伝虫と同じになる。

プルルルルル、プルルル、ガチャ

海兵「はい、こちら駐屯地です。」

「俺だよ。」

海兵「はっ！海さん！どうなされましたか？」

「捕獲したけれど、運びにくいから、海兵を派遣して欲しい。」

海兵「はっ！直ぐに向かわせます！少しお待ち下さい。（さすがだ。

）

「うん。」

ガチャ

町民「あんた本物なんだね。」

「ああ、こんな技使うのは居ないだろ？」

町民「そうだね。でも何故だい？」

何故海軍の仕事を俺がしているかを町民に全て話す。

町民「へえ、そんな馬鹿大将が居るって訳ね。」

「そう。疲労で倒れてるから、1ヶ月ここに滞在するってこと。〇
K?」

町民「ああ。分かった。説明ありがとう。」

「うん。」

ブルブルブル、プルプルプル、ガチャ

「はい、海です。」

た「海さん！港に海賊団4組！至急お願いします！」

「ああ、了解。」

ガチャ

通話を切った同時に、海兵が来た。

海兵「無事で何よりです！」

「はは、こんなの朝飯前だよ。あとそれ駐屯地（牢屋）に着いたら解けるようになってるから。」

海兵「はっ！ありがとうございます！それでは！」

ダダダダダダ

よし、港に行きますか！瞬歩！

72 次々と来る海賊達 1 (後書き)

次回「次々と来る海賊達 2」

73 次々と来る海賊達 2

「3番港」

あー、あの海賊船つて最低1000万ベリーはあるよな。良かった、さつきよりは強いかも。この海賊船4隻を斬魄刀で一気に真つ二つにしたいなー。

え？発想が怖いって？ハハツ！これで怖がったら無理でしょ。俺もアクション映画大好きだし。

えーと、話がずれたね。戻そう。

ちよつと、死神の姿になるうか。

容姿は、一護の死覇装に半そでの隊長羽織を着ている感じ。裏生地の色は黒。靴はそのままだけど………気にしないでくれ！

！！！！それ言われたら崩壊する！！何が崩壊するか分からんが………

ん？向こうが騒がしくなったな。何してんだろ？盗聴………

盗聴器無い！？あー！！！！そうだった！盗聴器なんて直ぐ分かっちゃうよな！！あんなに大きいし。現実世界みたいにスマートにしないと………って、分からないよ。絶対に。この世界って、まともな奴そんなに居ないもん。

まあ、向こうはどうなってるの？

「海賊船」

船長「始まりと終わりの町！ローグタウンに着いたぞおおおお！

「……………」

船員1「……………」
「オオオオオオオオオオオオオオオオ……………」
「……………」

船長2「ここまで、協力したかいがあったな！」

船長3「そつだな！」

船長1「そつだ！良いこと思いついたぞ！」

全員「……………?」
「……………」

船長4「この4つの海賊団を合併する！で、俺様で良いか？」

船長1「良いぜ？この中で一番懸賞金が高いのは、お前さんだし。」

船長2「ああ！懸賞金2000万ベリーだもんな！！新船長！」

船長（4）「おう！さあ！金と食料と女を集めて出航だ！」

全員「……………」
「うおおおおおおおお……………」
「……………」

「あゝ、取り込み中失礼します。」

船長「誰だ貴様は。」

「え？俺を知らないの？俺はモンキー・D・ルイ……嘘だよ！嘘だと気づけや！そいつ居ないから！俺はこの人間じゃねえしよ！いろんな能力持つとるし。って、喋りに来たんじゃない！……！」

船長「はあ？意味が分からないって言うより、何を言ってるか分からない。」

「そんな事どうでも良い！船長4人はな！海軍本部駐屯地の牢屋に瞬間移動させてやるよ！ほぐれ！（ほぐれ！って、ジジくさいな……俺14歳なんだけどなー。）」

パチンツ ビュンツ

船員「なっ！船長！？」

船員「元船長も居ない！？」

船員「貴様！船長達をどこへやった！！」怒

「だ〜から〜、今頃、牢屋に居るから。」

船員「なんだと！？全員戦闘準備！」

ズテツ

なんで、武器を持つだけなの！？しかも、全員銃！はあ、それで戦うつもりかよ……。永遠にかてないぜ。海軍本部の尉官にも負けるんじゃない？

まあ、真つ二つに切るから問題ないや。こっちは気にしなくても良い。

「まあ、お前らは、海王類の餌にもなってる。」

ちよつと離れよー。

船員「何故、離れる。」

「まあ、最後に見とけ。」

始解もしないで……する必要は無いか。銀虎で一振りする。

ブンツ！……スパツ！……ザッパアアアーン
！！

わー、スゲエー！！！斬魄刀はすごい！若干、海も切れた！すっげー！！！！

まあ、任務完了って事か。

あー、もう夕方かよ。夕方までだもんな。俺、海兵じゃねーし。しようがねえな。帰ろう。しかし、今日の海賊はそんなに強くないな。そつえば、たしぎも捕まえてたな。

今日帰ったら、書類を書いて、海賊を捕まえる人数を増やしてもらおう！

よーし……明日も頑張るぞー

73 次々と来る海賊達 2 (後書き)

次回のタイトル決まっています。

74 海兵達にとって、海の印象は？

「駐屯地」

「やっほー！海だよー！」

今日は6組の海賊を捕まえたよ！で、夕方だから帰宅中。家じゃなくて、駐屯地な。しかし、本当に“大海賊時代”って言うって良いの？よーし！資料室行こう！

あ、その前に。

「ただいま~~~~~!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

海兵1「あ！ご苦労様です！！」

もしや~~~~~、

「~~~~~電話に出てくれた人!？」

海兵1「?~~~~あ！はっ、はい！僕です！今日はご苦労様でした！」

「いやー、その言葉2回目だよ?」「ニコリ

海兵1「ノノノっ、すみません!！」

「謝らなくても良いのに……。」プクー

どうしたのかな？この海兵さん顔赤いよ？熱でもあるのかな？

海兵に謝られ、プクーって頬を膨らませる海。 (ナレータ)

海兵1

「(うつ、同性なのに可愛いって思っちゃったよ……。でも、可愛い。なんか、弟？いや、末っ子って感じ？だな。しかし、めっちゃ可愛い。)」

固まっちゃったよ、海兵さん。なんで???

「大丈夫？固まってるけど……。??？」

海は天然で気づかないが、思わず首を傾げてしまう。

海兵1「 / / / うつ！、だ、大丈夫です！仕事があるので失礼します！」

「あ、そう。頑張れよー！……。あ、名前聞けば良かった。あちゃー。」

あ！スモーカーとモモンガの所に行かなくては！！瞬歩！

海が瞬歩で行った後、海兵達の寮では

海兵1「はあ、はあ、はあ。」

さつき海と喋ってた海兵が走ってきた。

海兵2「おーい！どうした？」

海兵1「海さんとお話しちゃいました！」

海兵達「「「「はあああああ！？」」「」「」

海兵3「ずるい！」

海兵4「でも、ここの駐屯地には1ヶ月滞在するらしいぜ？」

海兵2「マジで？」

海兵3「なあ、どんな感じだった！？」

海兵1

「うん。簡単に言うと、“可愛い”なんか、弟とか未っ子的な感じ？」

海兵2

「ラクロワ中将専属の海兵達に聞いたぜ？本当に人懐こくって、弟とか未っ子感覚だったよ。で、頭を触るのは気持ち良かったって！髪の毛がサラサラだからって！特に！起きたばっかの海のヘアスタイルは面白いだった！」

海兵3「寝癖だな。」

海兵2「でも、起きるのが遅いから、俺達じゃあ発見しにくいんだけどなー。」

海兵4

「それ、たぶん大丈夫だと思う。昼に起きるらしい。マジで。あの子、天然でしょ？だから、人に注意されるか、鏡見ないと分からないらしいぜ！この1ヶ月間チャンスは沢山ある！」

海兵達「」「明日から、見れる可能性はある！」「」

何故か、意気込む海兵達。

でも、海の印象は、弟か末っ子っばいらしい。

海は無意識に笑顔になるから、海兵達は明日から苦勞するだろう。

いや、町の人も苦勞するだろう。

しかし、大丈夫そうだ。何故なら海賊を捕まえてくれるからだ。

この微妙なバランスで成り立ってる、ローグタウン。

明日から、何か起きそうで、起きなさそうな日になりそうだ。

74 海兵達にとって、海の印象は？（後書き）

なんか、変な文章になった・・・。

次回「ガビーン」 （泣）

変なタイトルだな・・・。（汗）

75 ガビーーーーー (泣)

タッタッタッタッタッ、キキーーーーーッ

やあ、こんにちはー！海でーす！

昨日(11・2)はパソコンが壊れてしまい更新できませんでした！

まあ、今日更新するんで、っでこここで書いて良いの？

そこは、置いといて。

今！会議室の前に居ます！

で、なんか修羅場ってる気が……。

だって、廊下にも書類があるもん！しかも、未処理！

これも？うん？ちょっと待った、これ、青雉とガープの未処理書類
じゃん！しかも、期限過ぎてるし。………っで、

はあ！？何コレ！？

半年間も期限が過ぎた未処理書類なんかあるんだよ！？大丈夫か！
？海軍！？

あ、会議室に入らないと……。

コンコンツ……ガチャ

勝手にノックして、勝手に入る。

〓 会議室 〓

うわー何コレ。珍百景に入れるんじゃない？会議室が未処理の書類で埋め尽くされてる光景。スゲエ、始めて見たよ……。

気づいてくれない……まあ、気づくはずが無い。
書類に書く音がすごいから。

「ただいまー！！帰ってきたよー」

ス「？あ、海か。」

モ「ここだ。」ヒョイ

刀を持ち上げて、目印代わりにしている。

そこに向かっているのだが、海兵さん達めっちゃ疲れてる顔してるよ。

「お疲れ様です。」

とりあえず言っとく。

海兵1「あ、おかえり〜。」

海兵2「海、モモンガ中将の所に早く行った方がいいよ？腕疲れて

「そっだし。」

「あ！分かった！」

「そっだよ、持ち上げたままだ！」

モ「海、言いたいことが分かるか？」

「まさか……書類の手伝い？」

ス「そっだ。」

ガビーーーーー（泣）

俺、そっいうのは得意だけど、この量は……。

だってよーどんどん追加されるんだぜ？なんか永遠に終わらない気がする。

でも、ここの人達のためにやりますか！

「分かったよ。手伝っよ。」

ス「何から何でもすまないな、海。」

「うっん、気にしないで。」

モ「なにか、頼みたいのがあれば、そこら辺の海兵に頼むといい。」

「うん。で、ここ？」

モ「そうだ。」

モ「モンガとスモーカーの間！？まあ、どこでも良かったけどさ・・・
。ここ？」

とりあえず、座る。

モ「この目の前にある書類を処理してくれ。」

「分かった。」

なんかこの書類いつ無くなるんだ？

これ、マジで処理しないと海賊捕まえられないじゃん！よし！徹夜
しよう！

頑張るぞー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！

75 ガビーーーーー (泣) (後書き)

変な終わり方だな。

本文にも書いた通り、パソコンが夜にいきなり壊れた。でも、朝に復活。

今日は祝日！そして、2週間後に、定期テストが！！
でも、更新はします。

次回タイトル決まっています。

では、次回へ〜。

76 魂が・・・・・・・・・・・・・・・・（前書き）

最近、タイトルが変になってきた。

76 魂が……………。

〔6時間後〕

あああああああ————— ……

魂が抜けそうです。

只今の時刻、夜の10時を過ぎました。

あれから、6時間ず———と書類書きです。

そして、何故か視線がすごいんですけど……………なんで？

モ「海。」

「何？」

モ「海、処理スピード速くないか？私達の2倍のような気が……………」

ス「確かに速い。だけど、目疲れてねえのか？」

た「どうしたんですか？……………って、海さん、速っ!？」

大丈夫？顔がムンクの叫びみたいになってるけど……………。(苦笑)

た「え!？どうしたんですか!？」

「いや、顔がまさにムンクになってるからさ。」

た「ええええええええー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！。」

あ、またなつた。

モ「大丈夫なのか？」

「鯛焼き食べたい。」

ズテツ

全員（（（この子、天然？）（？）（？）

た「鯛焼き？あー！あれ！あれか。」

ス「おい！誰か、鯛焼き持って来い！」

海兵5「はっ！！」

モ「（オニグモの職務室にも在った気が。）」

「しっかし、減らないなー、書類。」

ス「次々と来るからな。これは覚悟したほうがいいぞ。」

「そうだなー。」

モ「はあ。」

「しっかしよー、こんな微妙なバランスでよく、成り立ってるよな
ー海軍。」

ス「まあな。」

「でも、裏ではこんな事が起こってたんだねー。」

モ「ああ。」

海兵5「持って来ましたー!!!」

「ありがとうー!!!」

やったー!!! 鯛焼き!!! 大好物です!!!

モ「一つ貰っても良いか？」

「うん!」

モ「(一気に機嫌が良くなったな。)」

「あー、ふえも、よふにこれ食べてる人ってなかなか居ないよな!」

ス「居るだろ、本部に。」

モ「あー、夜中に煎餅を食べてるガーブさんか。」

「え!?! あの人夜中にも食べてるの!?!」

モ「ああ、夜中にセンゴクさんの怒声が聞えてきて……。」
苦笑)

あーあの、仏がねー。仏って動くんだねー。知らなかった。てか、
仏はさつさと東大寺へ戻れや！どっかの寺に行けや！

モ「何で夜中に煎餅食ってんだー！！」ってな。」

「あの人近所迷惑だなー。絶対に隣には行かない。」

モ「あはは……。」(苦笑)

くさらに2時間経過

モ「廊下の書類は？」

海兵1「無くなりました！後は、5つの空き部屋にある未処理書類
のみです！」

「えー！！！！？まだあるの！？」

俺、この会議室の床に在った書類全部片付けたのに……。まだ、
あるなんて……。知らなかったよ……。本当に、魂が抜け
そくだ……。

モ「大丈夫か？」

「う……。ん。たぶん、大丈夫。あと、2時間やる。」

モ「そ・う・か・・・ZZZZZ」

「って、俺以外寝てる!? まあ、いいや。書類取ってこー。」

スタスタ・・・ガチャ・・・ボタン。スタスタ・・ガチャ・
・スタスタ・・・ドサツ・・
カリカリ

あ!ごめん!これじゃあ、半分しか伝わらないね!

歩いて、5つの内1つの空き部屋に行つて書類を取つたけど・
この書類めっちゃ多い!扉開けたら、書類がお迎え状態。どこ見ても、書類、書類、書類!これ、本当に片付けるの?って感じ。

で、戻つて、大量の書類を机の上に置いて、再び処理する。

って感じ。分かった?うん、分かったみたい。8割の人が。

残りの2割の人は8割の人に聞いてよ。答えてくれる・
・
・はず。

く2時間経過く

終わったく。うわ!!もう2時じゃん!でもやる!

また、持ってきたよく。さっきの3倍。

めっちゃ時間掛かりそう・
・
・でも、や・る・ぞおおおおお
!!!!!!

「うつ……。」

ス「腹は嘘をつかない。先に行つて来い。」

モ「海、行くぞ。」

「分かつたよ。」プクー

モ「（ハムスターみたいだな。）」

あ……でも、眠気が少し残ってるな。ヤベエ。気を引き締めないと！

76 魂が・・・・・・・・・・・・・・・・（後書き）

長いのか？これは。

今日、自転車で迷子になった（笑）

次回待っててねー！

77 世界的大ニュース

食堂で、食事を済まして外にある郵便ポストに向かっている。

ちなみに、和食を選んだ。

メニューは、味噌汁に鯖の味噌焼き、きゅうりの漬物、胡麻麦茶。
うん、シンプル。

てかさー、郵便ポストってあるんだねー。

郵便力モメが居るから、そのまま受け取るかと思ったよ。

あ、在った！新聞か。

内容は？・・・・・・・・・・・・・・・・ えええ！？ヤベエじゃん
！！

思ったけど、俺って不幸？だってー、マンホールに落ちてトリップ
するしよー。

後は今日の新聞の見出し。って、この記事しかねえ！！

〓新聞〓

- 世界総人口120億突破！世界的食糧危機が起きる！！ -

って、ちょっと待ったー！！！！！！！！はあ！？なんで、
120億も突破してんの！？大陸なんて無いくせに！！はあ！？俺の
故郷だってこの前70億突破したばっかだよ！？話戻します。

(一部)

昨日、世界総人口が120億人を突破したことが分かりました。それによって、世界的大規模食糧危機が起きています。ですが、まもなく、食糧危機だけではなく、物資も危機的状況に陥ると思われます。

このような事が起きれば、数が限られますから物価の上昇は絶対に起こります。

今、政府では、特攻策は無いか、考えているようです。皆さんもいろいろ工夫しましょう。

へえ、世界的食糧・物資危機な！。すごい事が起きてるな！。

特に、水と塩の値段が上がりそうだな。めっちゃ貴重だし。

俺もなんかアイデアを与えようかな？

俺の故郷がある世界はリサイクルが得意だからな！。

しかし、此処は大変だな。

“大海賊時代”だし、“物資危機”だし、“海軍人材不足”だろ？
しかも、情報漏れてるし……。

本当にここの世界は大丈夫なのかな！。

77 世界的大ニュース（後書き）

今回は短いです。

次回は長く書くので、許して下さい。

なんで、ネガティブしか出てこないんだ……。
次回タイトル決まってもせん。

78 一週間トリップの手紙（前書き）

一応、ローゲタウン編の一部です。

78 一週間トリップの手紙

（翌日）

ごめんな。

作者が「もう、明日の話にしちゃえ！」って言っててな？こつなっ
ちまった。

つたく、白龍！お前が謝れ！

作者（すみませんでした……m）（m）

あ……素直に謝ったよ……。てか、昼と夕方どこ行ってた！

（説教タイム）

作者（青……

青？青ってどこぞ。

作者（青山一丁目駅の近くをぶらぶら歩いてた。

……マジで？明治神宮行った？

作者（行ったよ……。てか、話戻れや……！

分かった、分かったから、覇気出さないで……（泣）

うん、話を戻そう。

聞いて欲しい。駐屯地の入・出口の扉を開けたら、海軍本部駐屯地じゃなくて海上自衛隊の基地か駐屯地に居たんだよ！なんで！？戻ったの！？って思ってたなら、パーカーのポケットに紙が入ってた、

わしの息子の海へ。

元気にしてるか！？海！！わしじゃよ。ゼウスじゃ！

この手紙を見てるってことは、無事日本に一旦戻ったみたいじゃの。

本題はの〜、特別日本に一週間トリップできることになったの〜って、勝手にわしが決めたが……。での〜、場所は横須賀市の「横須賀ベース」と呼ばれる米海軍基地じゃ。海上自衛隊は隣接してるからの〜。話しておいたから、今頃、兵士達が海を探しとる。多分読み終わったら見つけてくれるじゃろ。

ちなみにの〜、向こうの世界の時間はストップしてないからの。

で、一旦戻って、自分の持つてる船とかを能力で収納したほうが良いぞ？もしもの時は有利じゃからの〜。海は横須賀の海上自衛隊員と米海軍兵と仲良くしたら良いぞ？役立つし。後、どっちでも良いがそこに泊まれ。保障はして貰えるようじゃし。

その代わりに手伝いするんじゃぞ！そうじゃないと、わしは……
……。何をするかは秘密じゃ！

良いから、仲良くするんじゃぞ？

じゃあの、元気にしとるんじゃないぞ？

ゼウスより。

って、書いてあった。

てか、ここ米海軍基地なの！？ほえ。で、隣が海上自衛隊か……。

ちょっと待った、なんで海軍ばつかし！？俺なんか関係してるの！？

とか言ったら……

兵「おい、もしかして……」

兵「そうだな。」

米海兵が来たらしい。まだよく分からない。

兵「あ、あの！」

兵「櫻井 海さんで間違いありませんか？」

やっぱり、米海兵だった。

「うん。そうだよ。」

てか、日本語喋れるんだな。向こうの世界みたいだな。向こうの進化版とかさ。(笑)

兵「あの・・・部屋を用意してあるので、そこへ案内します。良いですか？」

「へ？・・・あ、はい。」

「出入り口から6分」

兵「ここにあります！」

と、言い部屋の鍵を開けようとする米海兵。どうしたの？なんで開けない？

「・・・・・・・・・・・・・・・・あー、なるほど。カードオートロック式なんだね。」

兵「あの、このカードが部屋の鍵となっています。」

横須賀米海軍基地の部屋がカードオートロック式かは、知りませ
ん。

あれ？この海兵も同じカード持ってる。

もしかして、この一週間の付き添いの兵士？

まあ、居た方が良くと思う。こここの事よく知らないし。

まあ、ここ、“横須賀”で一週間泊まりながらいろいろ頑張ります！

78 一週間トリップの手紙(後書き)

この長さ、普通だな。

79 東京湾アクアライン

ピーーーーー・・・ガチャ

兵「ここです。」

「おお、広い！」

兵「（満足して貰えた。ホッ、安心した。）」

「ありがとう、あ！そうだ、今から用事があるんだけど行っても良い？」

兵「あ、はい！」

兵「何で行かれますか？」

「ふえ？・・・電車とか。」

兵「駅まで送ります。」

「いや、市民とかに怪しまれない？」

兵「大丈夫です。覆面です。」

「あるんだねー。軍にも。」

兵「はい。」

と、言い鍵を閉める兵士。

「車内」

兵「あの、どちらに。」

兵「良かったら、目的地まで送りますが。」

「あ、じゃあ、南房総市。」

兵「!？」

兵「(なんで、ビックリしてんだよ。)分かりました。少々お待ちください。ガソリン入れてきます。」

「うん。」

ガチャ

兵「おーいーいー!!ガソリン満タン!!」

整備兵「はっ！！」

あ、自衛隊員だ。多分だけど。

（3分後）

整備兵「ガソリン満タンOK！！」

兵「サンキュー！」

ガチャ

兵「お待たせしました。それでは、南房総市までお送りします。」

で、今、覆面車で走行中。

やっぱり、アクアライン使うみたい。俺、南房総市に車庫とか置いてるんだよ。

土地は貰ったけど。

誰だっけ？えーーーーーとっ、あ！

あの人だーーーーー！！！！県知事だーーーーー！！！！名前なんだっけ？？

そんな事は置いて・・・って、

「もう、アクアライン!?!」

兵「!?!いきなり、大声出さないでください!ビックリしましたよ・
・・・」

兵「あ、休憩します?もう直ぐつくので。」

「どどこだ?」

兵「どこだっけ?まあ、休憩場所です。」

「行く行く!」

兵「分かりました!」

もちろん、行くさ!だって、下手すると酔っし。休憩万歳!

79 東京湾アクアライン（後書き）

変なの。今日、64巻買いました。VV

そして、「ギガントバトル2」をプレイしてた。昼から。
あ~~~~！目があああ！！！！

80 海ほたる(前書き)

そういえば、悪魔の実の能力使ってませんねー。
戻ったら使うので、安心してください。
ちゃんと、使います！

80 海ほたる

「海ほたる」

「特別車両用の駐車場」

兵「では、我々は待ってますので。」

「じゃ、休憩してきます。……俺だけ？」

兵「我々は大丈夫です。」

「仮眠したら？」

兵「いえいえ。」

「はい、強制！」

兵「うつ……。分かりました。（まあ確かに仮眠とった方が良くもな。）」

よし！兵士達は仮眠を取らしておいて、自分は休憩ターーーーム
！！！！

あ……。今、誰かに言われた気がする。空耳かな？なんか「兵士達って言ったけど、何人居るの？」って。

一応答えとくよ。。。

護衛の為の車〃

覆面車（俺が乗ってる車）〃

覆面車と見せかけてる車〃

前

後ろ

という形で移動しているから、

〃 一台 3 人

〃 一台 5 人

〃 3 人（俺を除いて）

で、計算すると……… 33 人!?

多くない!?! 一人の為にこんなに兵士いるかつ、つーの!

下手すれば、政府とかの幹部を守る為の兵士とかの人数より多いぜ
!?!

ゼウスはなんて説明したのかな?

あ、エレベータ発見!

ポチッ ウイーン

ガコンッ ウイーン

「5F」

ブー、ブー、ブー、ブーカチャ

「はい。」

兵「あ、海さん。お願いがあるのですが……、良いですか？」

「良いよ。」

兵「フロア5階にある、“マリンコート”の中の「佐世保バーガ」を10個買ってきて欲しいのですが……。」

「あー、あれ！あれって、佐世保にある海軍仕込みのバーガーだもんない！」

兵「はい。どうしても、基地の物が良いので……。」

そういえば、コイツ、横須賀の兵士じゃなくて、

「お前さ、佐世保基地の海兵だろ？」

兵「よくご存知で。そうです。」

「佐世保の方から10人来たの？」

兵「はい。あの……。」

「あ、今、店の前に居るよ。」

兵「すみません。」

「うお!?!横に居た!?!」

兵「……さっきから、横に居ましたが……。」

「マジ!?!」

兵「はい。奢ってくれませんか?お金がドルしかないので……。」

「良いよ?」

兵「何から何からすみません。」

「え?お礼なんだけど……。」

兵「え?」

「だって、守ってくれてるじゃん!あ、バーガー10個!」

店員「!?!……あ!はい!」

兵「いや、海さん。守る為に来たんですけど……。」

「気にするな!」(笑)

兵「はい。」

店員「えーと、これです。6800円です。」

「6800円・・・はい。」

何か、現金があった。2万円ほど。いつもはこんなに持たないけどな。

店員「お釣りの200円です。ありがとうございました。」

店を出る。

「他の奴は？」

兵「え！？いえいえ、もう良いですよ。そっちの持ち金の事考えてください。」

「大丈夫だよー、カードあるし、宝くじが奇跡的に連続で当たったし。」

作者「良いなー。こっちは1万円を当てた事しかないよ。」

海「大丈夫だよ。あ、3連続な！」

作者「えー！！？こっちは1年に一回ほどだよ！」

海「てか、話ずれてるから、戻すよ。」

どうやら、あいつは俺みたいにそんなに当たらないようだ。運が良いのかな？

兵「ええ！？連続！？」

「声デケエーよ。」

周りの人からの視線がヤバイ。

兵「あ……すいません。大丈夫です・今、連絡で弁当があるって聞きました！」

「分かった！じゃあ、俺どっかで食べに行くから。」

兵「はっ！！！」

いや、そこ敬礼しながら歩かなくても良いから。

てか、なんか視線が増えたような。

まあ、気にしなくてもいいか。

ど〜こ〜に、し〜よう〜か〜な〜

“GRAND VIEW CASA”にしよう！

ここつて、店内が開放感が溢れてて南国の気分を味わう事ができる
って有名なんだよ。
何故か・・南に向いた窓からいっぱいの日差しを浴びれるからだよ
！日焼けもしないし。

〈1時間後〉

まあ、何を頼んだのかは秘密って事で。

そろそろ、駐車場に行っても良いかな？

〈駐車場〉

「あ、ごめん。」

兵「いえいえ、奢ってくれたので、大丈夫です。」（佐世保）

「いやだからフゴツ」バシバシ

兵「何やってんだ!!」（横須賀）

兵「曹長、気にしないでください。」

兵「……分かった。」

うおーいーい!!

「ふおーいーい!!」

兵「暴れないでください。」（横須賀）

兵「曹長？」（佐世保）

兵「暴れたら、車に乗せられないだろ？」

兵「あー、なるほど。」

納得すんな!てか、息吸えない!!

兵「だから、暴れないでください!!!!!!!」

「だから、ふおひ!ふおひ!」

兵「息が吸えないみたいなんですけど、曹長。」（横須賀）

「!!!!!!!!!」ジタバタ

兵「!?!何!?!もつと早く言え!!」パッ

「ハア……ハア……ハア……。」

死ぬかと思った。

兵「じゃあ、乗ってください。出発します。」

「分かった。」

ボタンツ

えーと、この車な、臨時でガソリン車になるみたい。いつもは電気自動車みたい。上に太陽光電池あるし。

それは置いておこ。なんか、俺がのってる覆面車に居る兵士3人は、全員将校でした。
少尉2人と中尉1人。さっきの曹長は偽覆面車に乗ってる（後ろ）らしい。

兵「海さん。」

「?」

兵「もう直ぐ、千葉県に入ります。」

「分かった。」

もう直ぐ、東京湾アクアラインを抜けるか。よし！千葉県にレッツ、
ゴー！……！

80 海ほたる（後書き）

初めてかも・・・、こんなに書いたの。
次回「南房総市」

81 南房総市（前書き）

なんか、もう直ぐですねー100話。
今月中に突破しそうです。

81 南房総市

〓千葉県南房総市〓

兵「海さん。」

えーと、アクアラインから、ここまでの事は省略。
だって、なにも無かったし。

無事に着いたからいいじゃん！もう・・・。

兵「海さん！！！！」

「うお！？今度は何だよ・・・。」

兵「あそこですか？なんか、デカイ車庫があるのですが・・・。」

「あー、そこそこ。ちょっと待ってて。」

兵「はあ。(何しに行くんだ?)」

ガラガラ

〓巨大車庫〓

あ、一応説明しとくよ。

81 南房総市（後書き）

マジでヤバイ！

82 なんでもいきなり最終日!? (前書き)

えーと、感想で、「後書きみたいな落書きみたいな文。ツイッター？ブログ？」って、書かれましたが。

それは……、あ、これ、返信すれば良いか。

まあ、本文に書いてある、らくがきみたいな文は……間違えませんでした。

後書きは最近自由に書いてます。

自分のパソコン……そう言えば、「中学生が自分のパソコンを持つてるのはおかしい！」って、言われた。今日。友人に。

ゼ)話をずらすんじゃない!

はい……ええ!?ゼウス!?なんで出て来たんだ……。

自分のパソコンがセキュリティでツイッターに書き込みも出来ず見ること出来ず、ブログも無理なので、後書きで書いてしまつと言う変な癖ができてしまいました。

なるべく早く直します。

こんな長ったるい文書いてしまいました。感想に書けば良かったかも。

82 なんでもいきなり最終日!?

3日後

いきなりだけど!もう、南房総市には居ません!只今、家に居ます。

だって、兵士が「行った方が良いよ?」って言ったからさ!

(後、作者は南房総市に行ったことはあるけど知識0なので。省略)

.....

前言撤回。只今、ゼウスの前に居ます。

何で、ここに居るの!?

「すまないの〜。」

『.....』

「無言かい!コホン、海。」

『なんだよ。』

「なんかの〜、トリップしたじゃろ?」

『おっ。』

「ここでは、“14歳の青年大失踪事件”っていう大事となってるんじゃない！」

『いや、それ、あんたのせいだよ。』

「・・・ぐすつ。仕方が無いじゃろ！特殊体質の海が行くしか無かったんじゃない！」

『だから、体質もあんたのせいだよ。』

「うるへい！」

『酔った？』

「黙れい！わしは神じゃから、良いんじゃない！」

『紙？よし、シャープンがあるから紙にルフィでも書こう！』

「違あああううううう！！！！！！神じゃ！」

『髪？あれー？なんでこんなところに髪があるんだ？よし、燃やそう！』

「ちg」お！奇跡的にライター発見！『じゃから、神じゃ！』

『噛み？なにを噛んでるの？』

「神じゃあああああああ！」

結果……海に落ちた……orz。

モ「な!?海!?!」

『あー、モモンガだー!』

とりあえず、引き上げて貰った。悪魔の実食べたけど、カナズチにならないみたい。

モ「この3週間どこに居た!もう、海軍本部に着くぞ!」

『?????』

モ「だから!もう海軍本部の目の前だ!」

『?!はあ!?マジかよ……』

どうやら、3週間も過ぎてたらしい。あの30分間(一週間除いて)で3週間も……。

モ「とりあえず、シャワー浴びて来い!びしょ濡れだぞ?タオルは私のを貸すから。」

『ありがと。』

モ「(何故、ふらふらしてる?)」

海に落ちた衝撃で足を一部痛めてしまったからだっただけ。

『てか、もう、海軍本部かよ……。』

速すぎるっーの！時間過ぎるの速い！

82 なんでもいきなり最終日！？（後書き）

はい、次回から、海軍本部編にまた入ります。

東の海編で、100話突破は難しいです・・・てか無理。

次回「再び海軍本部編」

誰を出そうかな。誰を出したら良いですか？

83 再び

「オリス広場」

あー、また来ちゃったよ。海軍本部。

あと、今モモンガの後ろを付いて行ってるけど、ほらあれ！そう！お出迎え！すごい列！敬礼している海兵さん達の列！港から玄関まで続いているんだよ！？

凄いつて言う言葉しか見つからない……。

海兵「先輩、レッケン少佐の隣に居る人は？」

海兵「お前知らないのか！？『白神』だよ。前にも一回海軍本部に来てたみたいだ。」

あ、海兵がコソコソ話してるー。聞えてるよー。

海兵「マジっすか！？」

海兵「ああ。」

レ「おい、その2人組！聞えてるぞ！」

2人「申し訳ありません！！」「礼

海兵「お前、声デカイぞ。」

海兵「先輩も大きな声出してましたよ。」

「そういうのは、後で話したら良いと思うんだけどなー。」

レ「（反対側なのに聞えてたか・・・。）」

「本部内1F」

しっかし、

「久しぶりだな。」

レ「え！？来た事あるんですか！？」

「うん。キーナ島にトリップしたんだよ。それで、スモーカーをオバケと間違えてさ。俺と海兵が」（笑）

レ「まあ、確かに。」

ス「誰が、オバケだ！」

「・・・ぎゃあああ！！出たああ！！」走る

ス「ったく、またか。」

た「あ！海さん！」

「あ、たしぎ〜。」

た「お久しぶりです！」

「おひさ〜。…………モモンガとレッケンは？」

ス「会議室へ行ったが……。大会議室な。会議があるようだ。俺も行くか……。」

「行こうかな〜。」

ス「良いみたいだぞ？」

「マジ！？よっしゃー！！！！レッシゴー！！！！」

ス「ったく。階段が苦手なくせに……。」

そう、苦手です。だから、頼むんだよ。

あの人は、確か……

「ラ……なんだっけ？」

ラ「？」

「四文字の奴！ラから始まる？」

ラ「ああ。（四文字の奴って……ひどいな。）」

「分かった！ラクヨウ！」

ラ「違う。ラクロワだ。ラクヨウは白ひげんとこだ。で、なんだ。」

「乗せて！」

ラ「??？」

「会議室行くからさー！」

ラ「分かった。」

「やったー！ー！ー！ー！ー！ー！」

イエーイ！楽しんで行こう！

で、ポケットの中に入る。

なんか揺さぶられてるから眠くなってきた………ZZZZ。

83 再び（後書き）

海軍本部で出来るだけ多くの人と会う予定です。
次回「大会議室」

84 もう、会議室の意味が無いじゃん！

「大会議室の前」

ラ「……………」

「ここかー。デカイ。扉が。」

ラ「普通に巨人族が入れるようになってるからな……………って、いつ起きた？」

「？あー、今？」

ラ「そうか。」

「なあ、なんか会議じゃない気がする。」

ラ「そうだな。入るぞ。」

ガチャ

ガ「おお！主役の登場じゃ！海！こつちへ来い！」

「俺？」

え？ってどうか、なんで大会議室に海軍上層部（信号機と大仏を除いた）と将校が集合してるの！？会議を……………会議って上層部だけだよな……………。

もしかして、ここで大宴会でもしようと思ったのか？

ガチャ

海兵「中将！僕達も入りたいです！」

海兵「そうですー！」

ガ「うーん、そうじゃの〜。」

「俺は良いと思っけど……。嫌な予感もするけど……。」

ガ「海がOKしとるから、OKじゃー！」

海兵「海さん！ありがとうございます！」

「お……おつ。」

ガ「それじゃ、海。ほとんど揃ったから、なんか言っつけ。」

「いや、なんかよく分からないんだけど……。ちょっと、待て。まず、なんで大会議室で宴をやるうとしてんの？」

ガ「部屋が大きいからじゃー！」

「……………もう、会議室の意味が無いじゃねえかよ……………」

ガ「良いんじゃない、良いんじゃないー！」

「はあ……。(この人本当に無理だ……。)」
いろんな意味で無理。

ガ「なんか言つとけ。主役じゃからの。最後に「乾杯!」じゃ!

「俺、酒は飲まないからな?」

ガ「わかつとる。」

海兵「早く〜!」

「お前、早く飲みたいだけだろ!……。」(苦笑)

モ「なんか一言だけでも良い。」

「えー!?!……じゃあ……多分、あの爺に呼ばれて来た
と思うけど、集まってくれてありがとう!そして、乾杯!」

「『『『『『乾杯!!!』『』『』『』」

はあ、なんとか言い切れた……。

ス「多分じゃねえよ、そうなんだ。」

「あ、やっぱり。で、俺の席は?」

ス「海はいろんな所だろ。主役だし。」

???「おお!海!」

「ん？誰？」

「？？」「こつちだ！」

「後ろ？・・・！？」

「サンジ！？お前もう海軍本部（こ）に所属しているのか！？」

サ「ああ。しっかし、ここは軍隊だから女性が少ない・・・。」し
よんぼり

「ははは・・・。」（苦笑）

サ「でも、ヒナ大佐殿には惚れた・・・が、ライバル多すぎ。」

「あの人、人気だもんない。俺、こつこの興味なし。」

サ「ええー！ー！。マジかよ。まあ、良い。てか、海。飲み物は
？」

ガサガサ

「このリュックに全部入ってる。」

サ「おおー、便利だな。じゃ、行って来い。」

「おう！」

ガ「おーい！海！こつち、こつち！」

「……………」

とりあえず行こう。俺、主役だし。

ガ「ほれ、海も沢山食べ。」

「あ……ちよつと。そんなに食べないよ……。」

ガ「大丈夫じゃ！ガハハツ！」（笑）

「……………」（苦笑）

サ「この煎餅馬鹿中将野郎！！」

「漢字だらけだな……。」

ガ「な！？なんじゃ！サンジ！わしはガープじゃ！」

サ「うるせえ。海は、違う次元から来たんだ！元の世界の方が良いに決まってるだろ！」

ガ「な！？そうなのか！？」

「ふゆへ？……まあ、確かにそれもあるけど……。」

サ「あるけど？」

「この量は食べきれない……。」（汗）

サ「なるほど。それが。じゃあ、減らせばいいだろ?」

「あーそっか!」

サ「(こいつ、鈍感なのか?いや、鈍感だな。)(」

「まあ、これ食べとくよ。」

サ「ああ。」

海兵「海さーん!こっち来てくださいよ!……!」

「あー、分かった、分かった。」

海兵「主役が来ないと寂しいですよ!……!」

「すぐ、行く!」

つたく、こんなに早く変わるんだな。海兵も。いつもの緊張感まったく無し。敬語は消えないみたいだけど。

海兵「ふあ〜」。

もう、(こいつらやばくね?なんとなく。

レッケン「これ、貰うぞ。」

海兵「あ、レッケンーそれは僕のですっつ。」

前言撤回。敬語も消えるらしい。

レ「うおーい、少佐ふえっっていうふおとば消えてんじょー。」

もう、出来上がって来てるな。レッケン。

やっぱり、最初に感じた嫌々々な予感が消えない。いったい、なんなんだ。

84 もう、会議室の意味が無いじゃん！（後書き）

今回はこの続きです。

今回は・・・誰が出て来るのかなー？

まあ、楽しみにしてください？

レ「なへ、ひもんふえいだ！」

なあ、お前もう酔ってるだろ。

レ「酔ってれい！」

いや、ゼーゼーったいに酔ってる。

レ「ふおれよひ、ふあれは!?!」

あー、あれは自分でも分からないさ。

レ「じゃあ、ふあんで書いたんふあー!?!?!」

良いじゃないか。もう終わるぞ。

レッケンが何て言ったか分かりましたか？

声に出せば分かる・・・かも。

それでは。次回へ〜（・・）

85 嫌な予感って言うのはほとんどが的中する(前書き)

今日何してました？

今日はポツキーの日・犬の日・串カツの日・豚の日です。

そして、(20) 11年11月11日11時11分11秒の時、何してました？

多分その時は石神井公園に居ました。

85 嫌な予感って言うのはほとんどが的中する

「ごめん！遅くなった！」

海兵「謝らなくても良いのに……。」

「あはは……気にしないで。で、どうした？」

海兵「あー、やっぱ、なんでも無いです。」

「なんだよーそれ！超気になるじゃねえかよ。……ってレッケンは？」

海兵「少佐には強制的に寝てもらいました。」

「まあ、酔ってたもんなー。」

海兵「はい！海さん。握手してください！」

「？あ、良いよ。」

なんで？まあ、握手はしても良いけど。

海兵「ありがとう……！」

「……お」

すると、

??「あゝ、誰か歌ってよ。」

うん?・・・ヒナ?

??「誰か歌いなさいよ。ヒナ求める。」

あ、完璧に酔ったヒナだな。

ス「おい、誰か歌えよ。たしぎ!」

た「え・・・嫌です。しかも・・・音痴なので。」

「へ」。」

そうなんだ。

「じゃ、お前は?」

戦「わいは歌わないぞ。」

「てか、ヒナが歌えば?」

ヒ「いゝやゝだ」。」

「我儘だな。おい。」

あ・・・、

「じゃあ、歌いたい人、手挙げて！」

しーーーーーん

「いねえのかよ!？」バシッ

あ、思わずツッコミしちゃったよ!もう。

ス「お前が歌えば？」

海兵「そういえば、いろんな声が出せるみたいなので、声を真似て向こうの世界の歌を歌ってくださいよー。」

ええええ!？コレか!！嫌な予感っていうのは。

「えーーーー。」

てか、何歌えばいいの!？

「なんかなー。」

あ、Ne・yoのあれで良いかな？

「分かったよ。ってさ、何故静まる?。」

ス「分かった。おい！少し騒げ。」

海兵「無理っスよ。」

あああああ————。

もう、いい！やけくそに歌う！

N e - y o C l o s e r をとりあえず歌った。

85 嫌な予感って言うのはほとんどが的中する(後書き)

変な終わり方をしてしまった。(汗)

今日は不幸だああー！！！なんとなく。

次回もこの続き。

86 何故そうなる(前書き)

歌詞は……めんどくさい。あれはヤダ。

86 何故そうなる

「歌い終わった後」

しかし、何で俺が歌わなければならない。

主役だろ？主役って歌わなければならないの！？

でさ、目の前にいる（俺以外の）海兵全員、固まってるんだけど・・・俺、こんな能力持ってないし！！本当にどうした！！

海兵「本人？」

「え？」

海兵「絶対本人だろ。この声は真似られないぞ。」

まあ、そりゃここの世界の人間じゃあ無理だろうけど。

海兵「本人じゃねえのか？」

うるせーな、おい。もう、いいか。本人になりきろう！・・・無理、無理。歌うときだけにしよう。

「まあ、そんな感じ？」

海兵「マジで！？」

あれ？疑問系だったのに・・・。

海兵「じゃあさ、もう一曲歌ってよ！」

何故そうなる。だ・か・ら！俺！主役！！

「その頃、中将・sでは
オ「アイツ、主役だろ。」

モ「海の性格上、無理だろ。」

カ「誰か止めてあげればいいだろ。」

ガ「じゃが、わしはもう一曲聴きたい！じゃから、お前らの意見に
反対じゃ！」

モ「しかし、可哀想です。」

ガ「何故じゃ！」

ダ「（この人もしかして、自分の事しか考えてない・・・？）」

ガ「ダルメシアン！今、変な事考えてたじゃろ！」

ダ「いえいえ。そんな事ありません。」

ガ「プはかなりの地獄耳だ。いつもの話は聞かないのに、自分の悪口は聞いているのだ。って、本当に子供かよ！？大人の皮を被った幼稚園児だろ！？絶対に！！」

コ「いや、年寄りの皮を被った幼児です。」

あれれ？聞えてるの？

モ「聞えてるぞ。」

オ「誰だ。」

あー！！刀を抜こうとしないで！？俺は海の親友の黒崎 仁です。
よろしく。

オ「クロサキ ジン？」

モ「ジン？」

いや、黒崎 仁です。アクセント違う！

オ「そんな事どうでも良い。」

どうでも、良く無いよ！？

モ「お前か。」

へ？

モ「海がお前の事を話してた。」

マジで！？嘘だー！。

モ「本当だな。」

あ！それより海を助けなきゃ！

オ「あいつがクロサキ ジンか。」

モ「不思議な奴だ。」

ダ「（海の親友か・・・。）」

スト「ダルメシアン、声出せば良いだろ？」

ダ「うるさい。」

86 何故そうなる(後書き)

「カ」はカイゼルヒゲ中将。

「コー」はコーミル中将。

次回もこの続き。今日更新。

87 まさかのあいつが救世主

く戻って、海がいる所く

あああああー！ー！ー！。もう、どうなってんのー！ー！ー！ー！みんな酔ってるからさ、下手するとさーヤバイ気がする。誰かーヘルプミー！ー！ー！ー！SOS！ー！ー！

??「海ー！ー！ー！ー！ー！ー！発見！ー！ー！」

おお？この声は仁？あいつ、ナレータ役じゃなかったか？

仁「海！大丈夫か！？」

「いや、ちゃんと見る。どこが大丈夫だ。」

仁「ごめんよー。でも、海を助けに来た！」

救世主？

「助けに来たのは嬉しいけどさ、お前どっから来た？」

仁「うん？ゼウスから。なんか、ちょっと行って来いって。」

「あ、そう。そういえば、仁。お前、いつの間にかナレータ役だよな。」

仁「おう。だから来れたんだよ。」

「ゼウスから“ちょっと行って現状報告して来い”って言われただろ。」

仁「!?!?!?!お前、能力開放したのか?」

「ここは能力者がたくさんいるからな。ついでに今回は視察らしい。」

仁「今回?」

「これは一回目なんだよ。これは何回続くかはゼウスしか知らねえ。」

仁「マジかよ?!?!?!お前、本当に何者なんだよ。」

「今は気にするな。戻ったら教えてやる。」

仁「分かった。」

「まあ、助けてくれてありがとう。」

仁「素直にそれを言えばいいだろうが。」

「なあ、仁って照れ屋だよな?」

仁「!?!?!?!?!お前、空気読めよ!」

「?!?!?!?!」

仁「（このつ、天然！！）」

「空気を読む？」

モ「天然発揮だな。」

「ふえ？（いや、だから何？）」

オ「言っても分からないと思うが。」

「へ？何が？」

仁「いい加減にしるよ。」

「？まあ、分かった。」

仁「・・・なんだこの光景。」

オ「意識が残ってるのは、4人だけだな。」

「そうだねー。」

モ「見たことも無いぞ、この光景だけは。」

「あははっ、久しぶりだなこの光景は！あははっ。」（笑）

仁「はあ？」

モ「久しぶりとは？」

「はあ？覚えてないの？仁は知らないけど。」

モ「？」

「おいおい。最上級厳戒態勢になったときだよ。」

モ「！？」

「あのととき、意識が残ってる奴は僅かだったからな。同じ4人。」

オ「誰だ。」

「白ひげ、マルコ、俺、ベン。」

モ「なるほどな。たしかにあの3人は酒に強いからな。」

「てか、なんでそんな事も知ってんの？」

モ「報告書に書いてあっただけだ。」

「そんな事まで書いてあるんだな、報告書って。」

モ「まあな。」

仁「海。じゃ、俺、帰るから。」

「お・・・おつ。多分、すぐ会えるぞ。」

仁「分かった。」

「じゃあな。」

仁は透けていき消えた。まるで、俺が異世界旅行をしている時みたいに。

なんか明日は、いろいろな大変な事になりそうだ。

87 まさかのあいつが救世主（後書き）

なんか、文字数少ない・・・ような。

次回は翌日の話を書きます。

88 二日酔いと能力発動

（翌日）

「ふあゝ、おはよ〜。」

モ「やっと、起きたか。」

オ「……………」

「!?!?早っ!?!」

てか、オニグモ怖いよ…………。無言は怖いよ。

モ「この状況だと、言葉は出ないから。普通。」

「ふ〜ん。シャクネスもこんな感じだったから慣れてる。」

モ「お前、変な状況でも慣れてんだな…………。」（汗）

「よし。こいつらに水掛けるか。」

モ「!?!?何故だ。」

「むこうでもやったからな。」

オ「そうしよう。」

モ「はあ。」

「水は能力で出す。俺、白ひげから悪魔の実を食わされたからな。2つ。」

モ「2つ!？」

「俺、特殊な体質だからさ、耐えられるらしい。」

じゃ、早速。空間に横平行に水の壁を思い浮かべる。

すると、空間に水の横平行の壁が出来た。

オ「!？」

驚いてるし。(笑)

もう、水の壁を重力に従って、下へ落ちていく。真下には俺を含めた3人以外の海兵が苦しんでる。二日酔いで。コビーとかも酔った。レットケンも二日酔いに苦しんでる。

レ「!?!?水!?!？」

「そつだよ。水の壁。これで起きろ。」

水の壁がまず、巨人族に直撃。

ラ「うつ……痛い……。」(苦)

痛いらしい。まあ、そつだよ。これ、相当重いもん。

あーあ、壁が無くなったよ。よっし、もういっちょよ！

2枚目が残りの海兵を直撃する。

全員びしょ濡れ。モモンガとオニグモを除いて。俺は能力を発動した張本人だから濡れてない。って、2人超ウケる！！

「なんで、2人はカツパ着てんの！？しかも、柄がスーツと同じだし！」（爆笑）

思わず、爆笑したら……………

ゴツン！ボカッ！

2人に殴られた……………拳骨だよ……………地味に痛い。ジーンと来る。ああ、痛い。

レ「うえっ、なんで空間なんかに、うえっ、水の壁？なんかがああ。あっつ。」

つらそうだな。よかった飲まなくて。いや、飲んじゃいけないよ。

コ「うう。ガープ中将……………酷い……………こんなことになるなんて……………」

コビー、お前、20歳になって無いだろうが。何、飲酒してんだよ。

「こいつらどうする？運ぶ？そのまま？」

モ「そのままが良い。もう一回水を掛けてやれ。湯でな。」

「湯！？分かった。挑戦して見る。」

じゃあ、さっきと同じように空間に横平行の水の壁を浮かべて、それを湯に！！

シューー

わあ！出来た！

モ「成長速度速くないか？」

オ「こりゃ、下手すれば、一気に少将まで行けるぞ。（才能があるなコイツは。）」

壁はもちろん2枚。一枚は巨人族用。もう1枚は残り。

ジャツツツツパアアン！！

ラ「うっ！！！！！！！！！！あ、あて・・・・熱い！！！！！！うっ。」

ロン「！！！！！！！！？？？？ガハッ・・・・なんだこの大量のうっ水とっ、湯は！！！！！！」

あははっ、どうだ！もう一枚落ちるの速い！

ザッパアアアアン！！！！！！

レ「 ああっ！！！！！！あ・・・あ・・・あ・・・。」

「お前の副官辛そうだよ？」

モ「・・・。」

「なんだよ。」

モ「うるさい。」

「はあ！？お前が、やれって言っただろ！？」

オ「うるさい。」ボコッ

「うる・・・。」

キーンって耳鳴りが・・・。

モ「もう、良い。放って行くぞ。」

「どっどっ。」

モ「職務室に決まってるだろうが。」

「あ、そっか。そんじゃ、俺、資料庫行って来て良い？」

モ「ああ。ちょっと待て、鍵が私の職務室にあるから来い。」

「分かった。……って、オニグモ居ないし!!」

モ「行くぞ。」

「ああ!ちょっと待てよー!!!!」

88 一日酔いと能力発動（後書き）

次回は資料室へ。他にも行くけど・・・。

89 調査完了(前書き)

実はトリップしたのは仕事の為だったりするんです。

89 調査完了

「資料室」

一旦、モモンガの職務室に行き鍵を貰い、資料室に居る。

資料室に行つて何をするか。それは、海軍の戦日記と報告書だ。

ちょうど、ほとんどの海兵が二日酔いで苦しんでるから、ここ担当の海兵だつて居ない。ほとんど何も気にしないで海軍の調査は終了する。なんか昨日の事は運が良かったな。

ちなみに、鍵は上層部しか見れない部屋もある。どうやら、モモンガも酔つてた様だ。

めっちゃ運が良い。

今回のトリップは“調査”が目的らしい。期間は2ヶ月。もう直ぐ期限が過ぎてしまう。あと、一週間しかない。できれば、マリージョアに行つて、資料室で調査したい。

前者はできる。時間を止めれば大丈夫だ。

まあ、それは置いておこう。

ここは佐官からしか入れない所。ここには一部の報告書しか無い。でも、全て見なければ調査が終わる事は無い。俺はトリップした時、特典を貰っていた。“潜水能力”と“瞬間記憶”を持っている。

瞬間記憶とは、一瞬見ただけで覚えてしまつと言つ症候群だ。何の

症候群かは忘れた。後で調べよう。

で、内容は海賊の情報しかない。一般の所はまだ見ない。もしも、モモンガが気づいて鍵を取りに来た時に見てないフリをしなければならぬし、一般の所に居たら、疑わぬと思う。

〈20分後〉

よし、まだ20分しか経ってない。次は一気に上層部へ。

おお、良い情報が沢山あるある。例えば、革命軍とか政府の事とか。めっちゃくちゃ嬉しい情報もある。それは『会議のまとめ』と『海賊時代の時の報告書』と戦日記がある。日記じゃなくて列記かな？まあ、どっちでも良いけど。

〈30分後〉

30分も経ったよ。まあ、まだまだセーフなんだな。実は水の壁には少しアルコールが入っていたんだ。それを吸った2人もまだ酔ってはず。いや、酔ってる。こういう工作は得意だ。時間を止めればいいから。

ここも止めれば良いと思ってる読者の皆さん。これは一応どのくらい時間がかかるか計りたいから、止めてません。

次は将官以上では無いと見れない所へ。

ここは、シャボンディ諸島の事と報告書か。普通だな。

〈20分後〉

よし、一般以外は制覇した。もう、モモンガが来ても大丈夫だ。

で、かかった時間は1時間10分。ちょっとギリギリだな。もうちよっとアルコール濃度高くても良かったかもな。あと残り時間（酔い時間）は5分。でも、間に合ってよかった。

一般は、六式・剣術・槍術・柔道。あ、料理の本まである。あとは航海術・悪魔の実図鑑・医療系。たくさん在りすぎだろ。はあ、これを全てか……。膨大な知識人になったな。なんか歩く辞書みたいなwww。

（10分後）
コツコツコツ……

ん？この気配は……。モモンガか。ようやくアルコールが切れたみたいだな。

ガチャ。

別に大丈夫だ。ちゃんと、鍵は閉めてあるから気づかれない。ははっ！どうだ！

モ「海？」

「ん？あ、モモンガ？」

モ「そうだ。鍵あるか？」

「ん？鍵？ほいつ！」ヒョイツ

モ「これだ。」パシッ

「鍵がどうかしたの？」

モ「いや、なんでもない。（どうやら行ってないようだ。ふう。）
気づかれなかった。よし！マリージョアに今行こう！時間を止めて
ちよつど読み終わったところだ。」

（能力発動中（時間止め））

時間を止めて、鳥になろう！今回は鷗に。もしもの場合を考えて。

＝マリージョア資料室＝

ここの資料室は政府上層部しか入れない、貴重な場所だ。

予算とか、軍艦の数とか、国の情報。これはハッキングをして情報を勝手に貰い終わってる為スルーする。見るのはそれ以外だ。例えば、見たくも無いけど調査だから見るが、天竜人の情報。まあ、いか。何かに使えるかもしれないし。

（30分後）

あ、もう30分過ぎてしまった。やばい。戻らないと。

「海軍本部資料室」

能力はもう使ってない。あと、海兵達が半分復活した。ちゃんと警備をしていた。

俺はもう用が無いから出る。

今日は、調査任務が完了した。まあ、後はゆっくり時間が経つのを待つのみ。

89 調査完了(後書き)

はい。まさかのトリップが仕事だった。変な思いつきだったと思う。次回からゆーりっくり主人公が時間が経つのを待っただけだと思っまらないので、日替わり旅行をします。まあ、仕事だけ。

90 エースが潜入した支部じゃねえか!! (前書き)

ネタが無かったから、扉絵エピソード採用してます。

90 エースが潜入した支部じゃねえか!!

「中庭」

「あー、誰も居ない……。」

ア「おー、海じゃねえか!」

「ん?……げっ!アツク……。」

覚えてますか?俺の情報を流した3兄弟の一人。

ア「ははは。あー、二日酔いが凄いよもう。今も少し残ってるしよー^^」

なんでそこニコニコしてんだよ。気持ち悪いな、もう。普通そこは落ち込むだろ。

「で、何?」

ア「スモーカー准将が呼んでたぜ?」

「あ、ありがとう。」

良かった。なんとなく。あいつ苦手だな。

「スモーカーの職務室」
うーん。俺なんかした？

ス「これを渡しておく。以上だ」

「おう。」

うん？……依頼か……依頼！？あーそうか。俺、配達屋でもあったな。うんうん。えーと、！？ほとんど『極秘情報』じゃねえかあああ！！！！！！

いいのか！？俺に渡しても！？まあ、内容はほとんど知ってるから見なくていいけど。

まあ、仕事だから行こう。

「裏軍港」

あー超重い。だって、これ総重量300kgあるんだぜ？しかも、これマジで重いぜ？霊圧でなんとかしてるけどよー。

で、今白い不死鳥になってます。

裏の軍港だからバレ無いよー。うん。裏はボロボロだった。出るにはラッキー。

バサツ、バサツ・・・ヒューーーーー

うん。ある程度高度を上げたら後は降下のみ。楽だね！

えーと・・・G-2だつて！。

・・・つて、エースが潜入した支部じゃねえか！！

しかも、珈琲が一段と苦くて有名な支部だし！先にミルクでも持って行くか。

〓酪農場〓

「すいませーん！誰か居ますかー！！！」コンコンコンッ
ノックしてます。ミルクを買いに。

『はい。誰ですか？』

「本当は支部に用があるんだけど、ついでなんだけど、ミルク・・・
牛乳買いに来ました！」

『あ、そうなの！？入って良いよ！』

この子の両親はG-2支部の海兵。だから、ここのミルクなら安心
できるだろう。向こうの珈琲も格別に美味くなるだろうし。

「支部の海兵に送るからさ。2日分で良いよ。後、紹介状書いとく
から。」

『うん！』

「多分、君の両親が買いに来てくれると思うよ。」

『え！？本当！？』

「うん。」

『はい。これ。2000Bになります！』

「ほーい。」

『あ、ちょうどだね！』

「そうだな。あ、ここに名前とメッセージ書いて。」

『うん！』

「（これで、向こうも少し明るくなるだろう。）」

『ちゃんと、届けてくれる？』

「ああ。俺に任せとけ。」

『お兄ちゃん！お願い！ほんとーうにちゃんと届けてね！』

「ああ。じゃあな！」

『バイバーイ!』

お兄ちゃんって……初めて言われたよ……。

「G-2支部」

コンコンッ

コ「誰だ。」

「海軍本部から来た海です。極秘情報を届けに来ました!」

コ「入れ。」

「どうも。」

コ「おお、これはこれは。わざわざご苦労さん。」

「酔ってる?」

コ「少しね。珈琲は苦いし。」

「あ、今日の分は買って来たんですけど、コレを。」

酪農場の紹介状を渡す。

「この子の両親がここの支部の海兵だから、安心かなー?って。」

コ「おお。これは恩人だな海は。」

いや、なんか照れる。

コ「まあ、とにかくありがとうございます。」

「いえいえ。それでは失礼しました〜！」

給仕室……あつた！

「失礼しまーす！牛乳届けに来ました！」

給「あ、ありがとうございます。この紹介状の牛乳？」

「そうそう。」

もしかして、あの子のお母さんかな？

給「私、あの子の母親です。ありがとうございます。」

「いえいえ。それでは、仕事があるので、この辺で失礼します。」

次の支部へ！

90 エースが潜入した支部じゃねえか!! (後書き)

ごめん。マジで思いつかない。そんで文字数が少ないです。
多分、扉絵エピソードを使った話が多いかも？
次回は違つかもしれないけど。

あと、ついに最終話までのカウントダウン始まります。残り僅かです。

今週(明日から)で最終話に。

9 1 休憩（前書き）

今回、短いです。

9 1 休憩

〓 無人島 〓

えーと、今休憩中。

森の中に居た鹿を捕まえて、焼いて食ってる。

おいしいよ、鹿肉。

作者は実際に食べた事があります。

中国のレストランでいつもと違う肉料理が食べれると聞いて頼んだら、鹿肉だった（笑）

結構、美味しい。鹿って感じじゃない。牛肉って感じ。

で、なんかさ、トリップの残り期間がまだ1週間でしょ？だから、どっかで時間食おうと思う。

次の支部にしようと思った！よし！行こう！

〓 上空（降下中） 〓

えーと、次の支部は……………

じわって……………

支部じゃねえだろおおおおおおおおおおお………！

……………！

マリージョアあああ………！！………！？………？………？………はああ………！！………？………？………

でも、そこに科学部隊が居るってことは……

その部隊に関わるかもしれないって事だよな？
はあ。なんかまた嫌な予感が……。するぜ……。orz。

9 1 休憩（後書き）

ごめん！超短い！

次回、今日更新。

次回は名前だけが公表されてる人に会います。

92 お前は誰だ？

「マリージョアG-0支部科学部隊室」
コンコンッ

「こんばんはー！！海軍本部から来た、海でーすー！！」

ガチャ

「こんばんはー！！」

??「ん？誰だ？」

「海。別名“白神”」

??「！！あ、それならスモーカー准将から聞いている。」

「……………」

??「わいは戦桃丸。世界一力が固い男だ。」

「あ、知ってるけど。」

戦「！?……………」
。「ガビーーーーン

「それより、この依頼をしたのは？」

戦「パンク野朗だ。」

「部屋から黒煙出てる。」

ベ「！？それ、早く行ってくださいよ！！」

走って行った。

しばらくして煙が消え、戻って来た。

ベ「もう。もうすぐで火事になってましたよ！！」

「原因は、お前の不注意だろうが。」

ベ「うるさい！」

「なあ、なあ！」

周りにいる、科学者達に言う。

「このペガサスって、いつもこんな感じ？」

科学者1「何か面白い事を見つけると、興奮してるけど。」

「マジ?」(笑)

ベ「なっ!!ベガバンクです!」

「ペガサス。」

ベ「ベガバンク!!」

「ペガサスだろ?」

え?違うの??

ベ「だから!!ベガバンク!!!!」

「何が?」

ベ「私の名前が!!」

「お前の名前がどうしたんだよ?」

ベ「私.....」(省略)

こんな言い合いが続き、終わったのが(ベガバンクが負けた)1時

間後。

ベ「負けました。」

「あはははははははっ!!!」（爆笑）

ベ「・・・・・・・・」(困)

ベガパンク只今困惑中。

「最初、教えたときに覚えてたっつて!あははは!」(爆笑)

ベ「えーーーー!!!」

「あはっ!あはは!あははははははは!!!!」(爆笑)

ベ「じゃあ、今までののは!?!」

「あははは!!!!!!!」(笑)

やべ。マジで腹筋壊れるwwwwwwwww。

ベ「答えてください!!!!」

「からかってただけーーーー!!!wwwwww」(笑)

ベ「ひびっ!!!!」

「あはは！」（笑）

あははは！！なんか壊れる！！ｗｗｗｗｗｗ

べ「酷い！」

あはは！気づかなかったお前が悪いのだー！！！！（バカポンの真似ｗｗｗｗ）

べ「酷いです・・・・ぐすん。」（泣）

あーあ、泣いちゃったよ。（凄く他人事にしてる）あははは！！誰がやったんだろー。

べ「・・・・。」（泣）

・・・・あ！俺だ！（今、気づいた）なんかあげようかな？

「あ、ほら。飴ちゃんあげるから、元気だして？」

大阪のおばちゃんみたいｗｗｗｗ

大阪のおばちゃんって、2人に1人が飴持つてるんだよね！。

『ケンミンSHOW』で放送してたよ！

『飴ちゃん』って言う言葉も大阪発祥だし。さすが！漫才の地！！漫才で合ってる？

べ「今日から3日間。よろしく願います！」

（ 飴ちゃん食べてるｗｗｗｗ ）

「何が？」

べ」「いろいろ教えてください!」

「中学生の範囲になるかもだけど。それでも、ここでは知らないのか。なるほど」

（勝手に納得中）

べ」「お願いします!」礼

「良いよ?」

まあ、時間潰しのに。

べ」「ありがとうございます!」

嫌な予感・・・・・・・・・・するけど・・・・・・・・。。

92 お前は誰だ？（後書き）

次回は苦戦します。

今日はここまで。

93　なんでそんな事も分からないんだよお！……！

………今、ベガパンクに教えてます。

何を教えているか。それは、元素記号。

「元素記号だよ！？」

よく知らないで、科学部隊でできるよな……！……！

なんでこれが分からないんだよおおおお……！……！……！……！……！

「うん。俺今中学生だよ？」

べ「中学生？」

「そう。……って、これ違う！銀はAg！鉄はFe！さっきのは分かるかもしれないけど、これは間違わないだろ！」

ありえねー。

「そうそう。元素記号の覚え方知ってるかい？一般的な覚え方。」

by白龍

うおーい！なんで何も言わないでいつもいきなり出て来るんだよ！！

「水兵リーベ僕の船 七曲がりシップスクラーク

軽い姿の手袋はあゝ、まてよここにも数がある」 by白龍

いや、だから、聞いている？

「レッツゴー！縦軸！！

水曜日、リッチな気分でルーブルのおゝ 美術に接してフランスを知るゝ

ベルバラまがいのカストロのバラ スカイラークでお食事を

」 by白龍

うおーい！！聞いてねえだろ！

「なんか、3年が歌ってた」(笑) by白龍

そんなの関係無いし！

………居なくなつた！？

なんだよ、急に現れて急に居なくなるって……。

べ「ふう。あー、これ覚えないと駄目？」

「当たり前だあああああ……！！！！！！！！！！」

夕方、科学部隊室には俺の声が響いた……。

93 なんてそんな事も分からないんだよ!!! (後書き)

あはは！あの覚え方が普通みたいです。

自分の学校では(先生によって、違うけど)“かるた”で覚えてます！

なんか、ちゃんと元素記号が書かれてるんですよ。

これ、覚えやすい！

マジで覚えやすい！

(中学生で必要な元素記号のみ)48個)

もう全部覚えてます。

今回は違うテーマだけど、この続き。

元素じゃあ無いです。ただ、まあ、理科関係です。はい。

94 壊れた

「翌日」

いやー、昨日は大変だった。でもねー。

さあ、今、ベガパンクが解いてる問題はなんでしょう？

答えは……………

べ「ねえ、この答え何？」

「お前……本当になんでリーダーなんてやってられんの？」

べ「う……………答え！」

「おいおいおいおいおいおい。」「

べ「言いすぎです……………。」(汗)

「うるせえ！黙って解けや！」

答え・天気記号

天気記号だけ！天気図記号なんてやってない！

「うちはまだ授業でやってないよー！！」by白龍
だから！もう出て来るな！

ふう。ごめんね？あいつバカだから。

「ん？くもり と霧は反対だぜ？霧は中が黒だぞ？」
べ「あ、そっか。」

ん。こいつ大丈夫かなー？

あ、読者の皆さんは分かるよねー？コレくらい。

だって、中学で習う「天気」の基本だよ？

これ、絶対テストに出ると思うっ！

ベ「あ〜。」

でも、新聞に記載されてるから覚えてるんだよねー！

ベ「あの、聞いてます?」

だから、天気記号は自信ある!!

ベ「おーい!」

「なんだよ!」

ベ「え・・・どうしました?」

「お前こそ。」

ベ「終わりました。」

「あ、ごめんごめん。ちょっと、アピールのなことやってた。気にしないぞ。」

あははは！気づかなかった……。

べ「あー」。

「うん？」

べ「海さん。もうそろそろ行かなくて良いんですか？」

「あーそうだねー。そんじゃ！」

べ「はい。（なんか不思議だな。）

「ばーいばーい！」

どこ行けば良いのー？……あ、戻るだけだ。

なんか、壊れたよ。自分が……。

ボケたかなー？

94 壊れた(後書き)

めっちゃ文字数少ねー!!!

なんだこれ。言葉でねーよ。

次回も今日書こうかな？(変わる可能性高い・・・かな?)

95 リオ・ポーングリフの一部発見(前書き)

もう、帰る準備をします。

95 リオ・ポーネグリフの一部発見

「あれから3日」

「キーナ島」

ふあゝ。久しぶりだな。・・・そういえばファンクってまだ居るの？

フ「!?!?海!?!?!」

「あ、ファンク。」

フ「お前、戻ってきたのか!?!」

「まあ。準備だよ。」

フ「準備?」

「そう、帰る準備。今日の夜に出発するんだ。」

フ「そうか。無事に帰れよ。」

「ああ。ありがとうな!おっちゃん!」

フ「ああ!」

「また来るよ!」

フ「おお！元気でな！」

とりあえずファンクには行っておかないとな。一番最初にお世話になった人だし。

そうだ。昨日の夢の時にゼウスに会って、“キーナ島の森の泉にある本を持ち帰れ”って言われたからそこに実際行ってみよう。

〓森〓

「しかし、泉ってどこに……あ、目の前にあった。」

「泉にある本？てかあいつ、小さな声で日記とか言ってたか？」

まあ、そんなのは良いけど。

（1時間後）

本当にあるのか？

・・・・・・・・・・・・・・・・・・なんだこれ。

遺跡になんか書いてあるし。

こりゃ、古代文字か？そうか、そうか。古代文字・・・・・・・・。

何？

この遺跡はこの広い世界にたくさん在る内の一つ。

この文字が未来の者読めれば偉大なり。

この遺跡を壊す者、傷つける者は天罰が下るなり、地獄へ落ちる。

この遺跡は特別な石でできてる。

遺跡・過去が言いたい事、奥に書いてあり。

この文字を書いて未来へ伝えたい事がある者は奥に書いてよし。

年 月 日

海田曆

くっそー！！最後の日付見えない！！

まあいいや。てか、奥？

その遺跡に手を掛けたら……

ギギギギギギ……

文字が書かれた遺跡は扉だった。横移動の。

ガゴンッ

うおー……！！！！！！！！

なんじゃこりゃー！一番奥に文字が書かれてて、真ん中に本……
やっぱり日記だよ！たぶん。これ、ノートだもん。

まあ、いいや。なんて書いてあるんだろう？

この文字を読める者は政府に内緒にした方がいいだろう。

その方が安全だ。

しかし、この遺跡を見つけたのは俺とモンブラン・クリケットと
そこに居る一人の君だろう。

君もこの遺跡に何か書くが良い。

君も俺らの様に偉大な者になるだろう。

君の無事の事を祈っている。

ゴール・D・ロジ

ヤー

ええ！？ゴール・D・ロジャー！？
マジですか！？

俺もそこに書こう。そしてバラす。

〈2時間後〉

できた。

隣に書かれた一人の君って言うのは、俺だ。
もしも、こここの文字が読めれば偉大になる。

俺はこの世界で偉大になることを確信している。

それでは、俺の正体を書いておこう。

俺はこの世界の間人では無い。“三次元”の間人だ。

国籍は日本。その東京生まれだ。

元々この世界については日本だけではないが、漫画（本）でよく
読んでた。

主人公が海賊で“ひとつなぎの大秘宝”を見つけ出す物語。

主人公は海賊王になる夢を叶えるために冒険する物語。

だが、俺は他にも違う世界へ行ったことがある。

それが俺の正体だ。

西暦2011年9月28

日 櫻井 海。

こんな感じだ。

そして、遺跡からロジャーが残した日記を持って出たら、自動的に扉が閉まり見えなくなった。どうやらこの遺跡が見える人は限られてるようだった。

これで、未来がどうなるか見てみたい。

95 リオ・ポーネグリフの一部発見(後書き)

疲れたー。

もうそろそろ二次元へ。

96 二次元と三次元を繋ぐ世界

「キーナ島の裏」

もう、この世界とはしばらくお別れかあ。寂しいな。

さて、今、キーナ島の裏に白い扉があり、その目の前に立っています。
入ろうかなー？って思ってみたり。

“早く入らんかい！！”

ん？誰？

“扉の向こうにおる！！”

あ、そ。分かった。

ガチャ

.....

ちよっと待って………ここ見たことあるよ!?!?!?!?!?!?

“………”

ここって、ゼウスがいる所じゃねえかあああ!?!?!?!?!?!!

“しるかい!?!?!?!?!!”

「お前もつるせーよ!?!!”

“ 黙れい!?!!”

「で、用件は?!”

“ 海を日本へ戻す”

「ゼウス。何やってんだ?!”

“用意してんじゃよ。穴ではなくての〜扉じゃ!”

「ほえ〜。」

“寂しいとか思わないのか?”

「寂しいさ。でも、また行くんだろ?’

“まあなの〜”

「だから、大丈夫さ。」

“そうか。お!できたぞ!”

「?」

“その緑の扉じゃ!ほれ!”

「ああ。じゃあな、ゼウス。」

緑の扉に向かって歩く。

ガチャ

「またな。」

フアアア！！

「眩しい！」

どこからか、大量の光が溢れてきた。

ドデッ

「？」

着いた場所は、自分の家の中だった。

96 二次元と三次元を繋ぐ世界（後書き）

すみません！ものすごく、文字数が少ない！

次回は今日か明日更新。

97 日記の内容

何もする事は無いな……。

そういえば、この日記？の内容を見てないな。読むか。

ペラリ

うおっ！日本語だあ！読みやすい！
なになに??

「1ページ目」

この本を見てるってことは俺達を書いた「一人の君」がこのノートを見てる事になる。

この文字は「日本語」だが、君は“日本人”だろう。

俺の祖先……今ではDの一族が予言をしていた。

だが、日本人だけではない。

『特別な人間が見る』と、書いてあった。

特別な人間の事は知らないが、“日本人”について書いてあった。

“三次元の日本人”だ、って。

二次元には沢山の世界が存在してそのなかには日本とかもあるが、三次元は一つの世界しか存在しない。

その世界の日本人がそこに訪れる。とも、“空島”に書いてあった。

空島は行った事あるか？行ってないなら是非行って欲しい。

あそこは時間が止まった世界みたいな所だ。

青海からの人間を嫌うが、三次元の人間・・・特に、日本人

・・・もう一回書くが、Dの一族が予言していた

“特別な日本人”なら喜んで歓迎してくれるそうだ。

で、君は今どこにいる？予言には元の世界に戻っているって書いてあったが。

前の記述が全て当てはまったら今の予言も合っていると思う。

今日はここまでにしたらどうだ？この書齋（本）は内容が多い。

だから、この続きは明日にしなさい。では、明日。

全て当てはまってるよおお！！！！！！！！！！

なんだこの予言。どうなってるんだよ。

なんかマヤー族みたいじゃねえか！

知ってるか？マヤー族の書いた何かに9・11の事故らしき事が予言されてたって事を。

すごくない？

あの同時多発テロの予言・・・同時多発テロじゃなくて、大きな建物が2001年9月11日に何かに当たって崩壊する。って書いてあつたらしいよ！！

ニュースで報道してたよ。

まあ、それは置いておく。

ピンポーン

……え？なんで？

ピンポーン

いやいやいや、誰だよ！！？

ピンポーン

いや、だから誰だし！！

ピンピンピンピンポーン

あ、4回押しやがった。はあ、行くか。

??「ピンポンパンポン」

.....え?誰?

??「海!居るだろ!?!開ける!」

だから、誰だよ。

ピンポンピンポンピンポンピンポンピンポンピンポンピンポンポーン

12回も押しやがった!!

ガチャッ ゴツンッ

「誰だこのやろおおおおおおお.....」

「?? 俺だよ! 覚えてないの?」

97 日記の内容（後書き）

さあ、いったい誰でしょう。

……知らないよな。オリジナルキャラでまだ出してないし。

次回は今日か明日更新

98 幼馴染

「部屋」

??「お邪魔します。てか、本当に覚えてないの？」

「覚えてないって言っただろ!？」

この人何回言わせるんだよ……。

??「はあ。幼馴染だろ？」

「幼馴染？」

??「ああ。俺の名前覚えてないようだから教えてあげるよ。」

「いや、普通教えるだろ。」

??「うるさい!つで、名前は新木 智也 だよ。思い出した？」

新木 智也……………あああああ!……………!!

「あああああああ!……………!!」

智「やつとか。」

「あの事故の時の!？」

智「そっだよ。思い出せよ。」

「あはは。」

あの事故の時とは。

俺が国籍上で6才の時、海外飛行機事故に遭遇してしまった事だ。

その飛行機はアメリカのボーイングなんだっけ？まあ、その飛行機だ。

幸い落ちた所が海だったから助かった。

原因はまさかのエンジンに鳥の群れが吸い込まれストップしてしまった為だった。

これ、なかなか起きない事故だよ！？なんでこんなのに遭遇しちゃったのかなあ。

その時、俺の真横に居たのが今、ここの部屋に居る新木 智也だったのだ。

608

智「しつかしよー、お前身長デカイ方だよなー。」

「まあな。あの時も140cmあったし。」

智「一年生らしい身長じゃなかったしな。」

「そうなんだよ。保護された時、小1だって言ったら吃驚されたしよー。」

智「いや、あの身長は居ないから!!--」

「でも、ここに居るじゃねえか。」

智「海以外には例が無いから！」

ちよつと、中断。智也のプロフィールを紹介しよう。

【名前】

新木 智也
あらき ちよ

【職業】

高校二年生

【年齢】

現在18歳

【誕生日・血液型】

1993年8月23日（大阪府）生まれ。O型。

【得意科目】

公民・地理・歴史・数学・体育・物理・英語

【苦手科目】

得意科目以外の教科。

【趣味】
旅・資格

つて所。あ、後、智也は大阪出身だけど関西弁は喋らないよ。

智「何勝手に他己紹介してるんだよ。」

「良いじゃねえか。別に。」

智「良くねえよ。」

「つてか俺に言うな。」

智「作者はどこだよ!?!」

「……………今、世界バレー見てる。テストに出るらしい。」

智「へ〜。え!?!じゃあ、呼び出せないの!?!」

「うん。」

智「逃げやがったな。」

「まあ、良いじゃねえの?」

智「良くない！」

「まあ、まあ。気にするなよ。」

智「ああ。分かった。……さて、ここはついでに来たからもう
お暇するよ。」

「また来てくれよ。」

智「ああ。じゃあな！」

98 幼馴染（後書き）

正解は幼馴染。

次回今日更新。バレー見ながら！
お！1セット先取！！頑張れ！日本！！

99 その頃（前書き）

仁のナレータが主役です。

（つぶやきにもなってるけど）

ここは海がトリップしたONE PIECEの世界。

あの日から一日が経った。今から書くのは、海が居なくなってから
の話だ。

その日の朝の新聞の見出しに堂々と、

「『白神』の海がこの世界から消えた!？」

と、書かれていた。記事の内容は、

昨日、海軍本部のすぐ近くに在る“キーナ島”で『白神』の目撃
情報が出た。

だが、夜、探してみると島から居なくなってたのだ。

その為、島民に聞いてみた所、最初に来た島もこの島だと言う。

その日に宿泊したのが魚屋。そこに運営している人に取材をした。

そしたら、衝撃の事実が発覚!

その人が「海は故郷に、元の三次元の世界に戻った。」と言うの
である。

信じられる訳が無いが、その人は真剣に答えたので真実だつてこ
とが分かった。

その日から『白神』の目撃情報は無い。あつたら連絡して欲しい。

こんな内容だった。

これに世界の人々の反応は……

「海軍」

海は海軍本部にも少しお世話になっている。

コ「帰っちゃったんですか。」

落ち込むコビー。

ガ「なんじゃ、帰ったのか。」

普通のガープ。

モ「あいつ、最近様子がおかしかったが、これが理由だったのか。」

納得しているモモンガ。

「アラバスタ王宮」

ビ「帰っちゃったのね。カルーも寂しい？」

カ「クエーー（もちろんだよ。）」

ビ「また来てくれるかなー？」

しょんぼりしているカルーとゾロ。

「ローグタウン」

ス「行っちゃったか。」

た「……………」

ス「たしぎ？」

た「……………ぐすつ。」（泣）

ス「たしぎ!？」

た「うう。あんなに強い剣士見たことが無いのに……………」

海は剣士じゃないよ。どっちかと言うと狙撃主だよ。

ス「大丈夫だ。」

た「何でそう言えるんですか？」

ス「おれの勘だ。」

た「そうですか。」

確かにスモーカーは勘が良いからな！。

こんな感じだ。世界は広いね！

99 その頃(後書き)

日本勝ったよ！ストーリーレト勝ち！
今、タキシード見てまーす！

次回「最終話」

今回は・・・今日か明日更新

100 次回について作者から

こんにちは、作者の白龍の海です。

他のユーザーの小説と比べ一話一話の文字数が少なし、文才が無いのに支持してくれた人に感謝しています！

ここだけの話ですが、この小説を書き始めたらなんか……

「小説書いてるでしょ？」って、先輩に言われたり

「あの小説書いてますか？」って後輩に言われたり

同級生にも同じような事を言われました………（汗）

で、自分が書いてるって事は言ってます。なんか嫌な方向に行ったらまずいし。

話を切り替えます。

次回の第二弾についてですが、

今日できるかも？ってところですが、

21・22・24日が2学期中間テストなんですけど、ちよくちよく一日掛けて書いて投稿したりします。

なので、是非第二弾も見てください。よろしく願います。

100 次回について作者から（後書き）

次回は第二弾で。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7781w/>

ONE PIECEの世界にトリップ！？第一弾

2011年11月19日11時20分発行